書換ノ免狀ヲ受クル者ハ免狀下付ノトキ手數料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ

第八條　蹄鐵工ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　免狀ヲ受ケスシテ蹄鐵工ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條　蹄鐵工免狀試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附　則

第十二條　蹄鐵工ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歴ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ蹄鐵工假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十三條　第十二條ニ依リ蹄鐵工假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十四條　此ノ規則施行以前免許ヲ受ケタル獸醫ニシテ蹄鐵工ヲ兼ネント欲スル者ハ第三條ニ依リ蹄鐵工免狀ノ下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ免狀ヲ受クル者ハ第六條ノ手數料ヲ要セス

第十五條　此ノ規則ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

●蹄鐵工假免許手續

明治二十三年七月十九日
農商務省訓令第三十八號

改正　明治四二年八月農商務省訓令第三一號

北海道廳　府縣

〔山梨警〕

明治二十三年四月法律第三十一號蹄鐵工免許規則第十二條ニ據リ蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

蹄鐵工假免許手續

第一條　蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ蹄鐵工乏シキ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歴書ヲ添ヘ具狀スヘシ

一　區域、廣袤、地勢及馬匹頭數
一　營業年限
一　出願區域中他ニ開業者ノ有無若シ之アルトキハ其ノ資格
一　現ニ開業者アル鄰接營業區域トノ距離及牛馬交通ノ難易
一　繼續出願ノモノニ在リテハ從來假免許開業中ノ成績及本人性行ノ概略
一　特ニ假免許開業者ヲ置クヲ要スル理由
一　出願者ノ技能其ノ他假免許ヲ與フルノ當否ニ關スル意見

第二條　假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

●蹄鐵工開業及出張所設置竝其他異動屆出規則

明治三十四年九月十日
山梨縣令第三十九號

第一條　蹄鐵工ニシテ新ニ開業免狀ヲ受ケ若クハ開業シ又ハ他府縣ヨリ來住シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ三日以内ニ當廳ヘ屆出ツヘシ

一　原籍族稱現住所氏名生年月日
二　前住居ノ地
三　免狀ノ寫

第二條　蹄鐵工ニシテ左記各號ノ異動ヲ生シタルトキハ亦前條ニ同シ但第四號ニ在リテハ戸籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ之ヲ爲スヘシ

一　休業、復業、廢業
二　本籍族稱ノ變更改氏名
三　他ノ市町村ヨリ來住、一市町村内ノ轉居、他ノ市町村ヘ轉居、海外移住、海外旅行、歸朝
四　失踪ノ決定失踪ノ取消死亡
五　其他ノ異動

第三條　蹄鐵工ニシテ他府縣ヘ轉住スルトキハ轉住前ニ當廳ヘ屆出ツヘシ

第四條　蹄鐵工ニシテ出張所ヲ設ケタルトキハ其場所及出張ノ期日ヲ明記シ三日以内ニ當廳ヘ屆出ツヘシ其變更アリタルトキ亦同シ但シ他府縣居住ノ者ハ屆書ヘ免狀寫ヲ添付スヘシ

第五條　出張所ニハ相當免狀ヲ有スル助手一名以上ヲ置キ其姓名ヲ三日以内ニ當廳ヘ屆出ツヘシ其變更アリタルトキ亦同シ但出張日ノ外閉鎖スルモノハ助手ヲ置クノ限リニアラス

第六條　本則ニ依リ當廳ヘ屆出ツル書類ハ市町村長ヘ差出スヘシ
前項ノ書類ハ市ニ在ツテハ直チニ町村ニ在ツテハ所轄郡役所ヲ經由シテ當廳ヘ進達スヘシ

第七條　本則第一條乃至第五條ニ違反シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第八條　明治二十三年十二月縣令第七十三號及明治二十七年三月縣令第十四號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●蹄鐵工異動屆出ニ關スル書類取扱及ヒ蹄鐵工名簿調製ノ件

明治三十四年九月十日
山梨縣訓令第四十三號

一　市町村長ハ蹄鐵工開業廢業其他ノ異動及業務ニ關スル願書屆書ヲ受理シタル時ハ願屆出事項相違ノ有無ヲ精査シ蹄鐵工名簿ノ加除訂正ヲ爲シタル後願屆書裏面ヘ年月日ヲ記シ進達スヘシ

二　市町村長ハ別紙第一號樣式ニ依リ蹄鐵工名簿ヲ調製シ來ル九月三十日迄ニ現在居住者ノ登錄ヲ爲スヘシ

三　市町村長ハ蹄鐵工現在調査ニ關シテハ之レヲ所轄警察署ニ囑託スルコトヲ得

（用紙美濃紙）

免狀ヲ得タル事由	免狀下付ノ日	免狀番號	異動	記事
	明治　年　月　日	第　號		

住所	族稱	氏名	年齡	年月日生
本籍				

●蹄鐵工ニ關スル願屆取扱手續ノ件（抄錄）

明治三十四年九月九日
山梨縣訓令甲第四十二號

第四　蹄鐵工免狀下付願ニ付テハ其履歷書ニ對スル本證書例之學校卒業證書試驗合格證書等ヲ差出サシメ確實ナル對査ヲ行ヒ其不都合ナキヲ認定シタル外貼付印紙ノ適否ヲ調査スヘシ但書類進達ノ際特ニ本證書ト對照調査濟ナルコトヲ副申スヘシ

第六　前各種ノ書類中其書換願ヲ差出シタル場合ハ其理由相違ナキヤ否ヲ調査シ不都合ナキモノハ貼付印紙ノ適否ヲ調査シタル後進達スヘシ但戸籍上ノ異動ニ係ルモノハ戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本ヲ添付セシムルヲ要ス

第七　各前項ノ願屆書ハ總テ一通トス

第十一章　病院診療所及醫業類似行爲

●精神病院法

大正八年三月二十七日
法律第二十五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル精神病院法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

精神病院法

第一條　主務大臣ハ北海道又ハ府縣ニ對シ精神病院ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第二條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル精神病者ヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ入院セシムルコトヲ得

一　精神病者監護法ニ依リ市區町村長ノ監護スヘキ者

二　罪ヲ犯シタル者ニシテ司法官廳特ニ危險ノ虞アリト認ムルモノ

三　療養ノ途ナキ者

四　前各號ニ掲クル者ノ外地方長官特ニ入院ヲ必要ト認ムル者

前項ノ規定ニ依リ精神病者ヲ入院セシムルニハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫師ノ診斷アルコトヲ要ス

第三條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ經費ニ對シ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第四條　第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ長ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ入院者ニ對シ監護上必要ナル處置ヲ行フコトヲ得

第五條　地方長官ノ入院者ヨリ入院費ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

地方長官入院者ヨリ徵收スルコトヲ得スト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　道府縣ニ於テ設置スル精神病院ニシテ地方長官ノ具申ニ依リ主務大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ第一條ノ規定ニ依リ設置スルモノト看做ス

第七條　主務大臣必要ト認ムルトキハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立精神病院ヲ其ノ承諾ヲ得テ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第八條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム

（大正八年八月勅令第三百六十五號ヲ以テ第七條ノ規定ハ同年八月十日ヨリ施行シ第一條乃至第五條及第八條ノ規定ハ第七條ノ規定ノ施行ニ必要ナル範圍內ニ於テ同日ヨリ施行）

（大正九年十月勅令第四百九十號ヲ以テ第六條ノ規定ハ同年十月二十五日ヨリ施行シ第一條乃至第五條及第八條ノ規定ハ第六條ノ規定ノ施行ニ必要ナル範圍內ニ於テ同日ヨリ施行）

（大正十二年六月勅令第三百二十四號ヲ以テ未施行ノ部分ハ同年七月一日ヨリ施行）

●精神病院法施行令

大正十二年六月三十日
勅令第三百二十五號

朕大正八年勅令第三百六十六號精神病院法ニ依ル代用精神病院ノ國庫補助及入院費ノ徵收方法ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

精神病院法施行令

第一條　國庫ハ精神病院法第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ經費ニ對シ左ノ區別ニ依リ補助ス

一　創設費及擴張費竝之ニ伴フ初度調辨費　支出額ノ二分ノ一
二　其ノ他ノ諸費　支出額ノ六分ノ一

前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ

第二條　國庫ハ北海道地方費又ハ府縣カ精神病院法第七條ノ規定ニ依ル代用精神病院ニ對シ支出シタル入院費ノ精算額ノ六分ノ一ヲ北海道地方費又ハ府縣ニ補助ス

前項ノ精算額トハ北海道地方費又ハ府縣ノ受クル入院費又ハ之ニ充ツヘキ寄附金ノ額ヲ控除シタルモノヲ謂フ

第三條　精神病院法第五條第一項又ハ第七條ノ規定ニ依リ徵收スル入院費ニシテ指定期限內ニ納付ナキモノニ付テハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第四條　入院費ノ徵收ハ必要アルトキハ納付義務者ノ居住地又ハ財產所在地ノ地方長官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第五條　精神病者入院中死亡シタルトキハ其ノ遺留財產ヲ以テ入院費ノ全部又ハ一部ニ充ツルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●精神病院法施行規則

大正十二年六月三十日
內務省令第十七號

大正八年內務省令第七號精神病院法第七條ノ規定ニ依ル代用精神病院ニ關スル件及大正九年內務省令第三十三號精神病院法第六條ノ規定ニ依ル精神病院ニ關スル件左ノ通改正ス

〔山梨警〕

精神病院法施行規則

第一條　精神病院法第一條ノ規定ニ依リ精神病院ノ設置ヲ命セラレタル北海道又ハ府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ精神病院ノ位置設計及其ノ收容人員ヲ定ムヘシ其ノ變更ニ付亦同シ

第二條　市町村長又ハ町村制ヲ施行セサル地ニアリテハ町村長ニ準スヘキ者ハ精神病者監護法ノ規定ニ依リ監護スヘキ精神病者ノ入院ヲ地方長官ニ申請スルコトヲ得

第三條　精神病者ノ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ精神病者ノ入院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第四條　精神病院法第二條第二項ノ規定ニ依ル診斷ハ地方長官ノ指定シタル醫師ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第五條　地方長官ハ入院者在院ノ必要ナシト認ムルトキハ速ニ退院セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ豫メ當該精神病院ノ長ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第六條　入院者ノ監護義務者ハ入院者ノ退院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第七條　精神病院法第四條ノ規定ニ依リ精神病院ノ長ノ入院者ニ對シテ行フヘキ監護上必要ナル處置ニ付テハ內務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第八條　精神病院法第二條及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監之ヲ行フ

第九條　本令第二條乃至第八條ノ規定ハ精神病院法第七條ノ規定ニ依ル代用精神病院ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●精神病院法施行細則

昭和十一年三月二十六日
山梨縣令第十四號

精神病院法施行細則左ノ通定ム

精神病院法施行細則

第一條　精神病院法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ病者ヲ代用精神病院ニ入院セシメントスル者ハ左記各號ノ事項ヲ具シ病者ノ診斷書(別記第一號樣式)及戶籍謄本ヲ添附シ知事ニ之ヲ申請又ハ願出ヅベシ但シ規則第三條ノ規定ニ依ル願書ニハ第五號ノ事項ヲ記載スルコトヲ要セズ

一　病者ノ本籍、住所、所在地、職業、氏名及生年月日
二　精神病者監護法(以下單ニ法ト稱ス)第一條ノ規定ニ依ル監護義務者ノ本籍、住所、所在地、氏名生年月日及病者トノ續柄
三　發病年月日
四　入院ヲ必要トスル事由
五　病者及監護義務者ノ資產收入竝家計ノ狀態

第二條　規則第四條ノ規定ニ依ル醫師ハ左記各號ノ一ニ該當スル者タルベシ

一　醫師タル衛生技術職員
二　代用精神病院ノ長(以下單ニ病院長ト稱ス)又ハ其ノ醫員
三　其ノ他精神病ニ關シ學術經驗ヲ有スル者ニシテ特ニ知事ノ指定シタル者

第三條　病院長ハ病者入院シタルトキハ別記第一號樣式ニ依ル診斷書ヲ作リ三日以內ニ知事ニ屆出ヅベシ

第四條　病院長ハ入院病者ニシテ在院ノ必要ナシト認メタルトキハ左記各號ヲ具シ別記第二號樣式ノ診斷書ヲ添附シ知事ニ屆出ヅベシ

一　患者及監護義務者ノ本籍、住所、氏名、年齡竝其ノ續柄
二　退院豫定月日及退院後ノ豫定住所
三　退院セシメントスル事由
四　引渡ヲ受クル者ノ氏名又ハ官公署名

第五條　監護義務者病者ヲ退院セシメントスルトキハ前條第一號乃至第三號ノ事項ヲ具シ別記第二號樣式ノ診斷書ヲ添ヘ知事ニ願出許可ヲ受クベシ

第六條　病院長ハ病者ニシテ殺傷、放火、逃走、煽動其ノ他特ニ公安ヲ害スル虞アリテ監護上已ムヲ得ザル場合ニ限リ一時之ヲ保護室ニ入室セシメ其ノ他必要ナル處置ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ年月日時、病者ノ氏名、病狀、處置ノ事由、方法及豫定期間ヲ具シ知事ニ屆出ヅベシ

第七條　病院長ハ前條第一項ノ規定ニ依リ病者ヲ引續キ七日以上保護室ニ入室セシメ其ノ他必要ナル處置ヲ爲サントスルトキハ前條第二項ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クベシ但シ狀況急迫ニシテ許可ヲ受クル暇ナキ場合ニ於テハ假ニ之ヲ處置シ事後速ニ其ノ手續ヲ爲スベシ

病院長ハ單ニ治療上ノ目的ヲ以テ引續キ七日以上保護室ニ入室セシメントスルトキハ前條第二項ノ事項ヲ具シ知事ニ屆出ヅベシ

第八條　病院長ハ自殺又ハ自傷ノ虞アル病者ニ對シ監護上已ムヲ得ザル場合ニ限リ危險防止ノ爲メ必要ナル處置ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ速ニ第六條第二項ノ事項ヲ具シ知事ニ屆出ヅベシ

第九條　病院長ハ前三條ノ規定ニ依ル入室者ヲ退出セシメ又ハ必要ナル處置ヲ廢止シタルトキハ速ニ其ノ年月日、病者ノ氏名及經過ノ大要ヲ具シ

知事ニ届出ヅベシ

第十條　病院長ハ入院病者死亡シ又ハ第五條ノ規定ニ依リ退院シタルトキハ其ノ年月日時、轉歸別並病者ノ氏名年齢ヲ具シ之ヲ知事ニ届出ヅベシ

但シ死亡ノ場合ハ死亡診斷書ヲ添附スベシ

病院長ハ第四條ノ規定ニ依ル退院ノ場合ハ豫メ死亡ノ場合ハ直ニ監護義務者ニ前項ノ事項ヲ通知スベシ

第十一條　病院長ハ入院病者ニシテ逃走若ハ變死傷アリタルトキ又ハ逃走者復歸シ若ハ之ヲ發見シタルトキハ其ノ氏名、生年月日並其ノ顚末（逃走ノ場合ハ人相、特徵、著衣等ヲ附記ノコト）ヲ詳記シ速ニ之ヲ知事ニ届出及監護義務者ニ通知スベシ

第十二條　病院長ハ左ノ簿册及書類ヲ備付ケ之ヲ整理スベシ

一　入院者名簿

二　處方錄

三　檢溫表

四　病床日誌

五　看護日誌

前項記錄中第一號ハ別記第三號樣式ニ依リ第二號乃至第五號ハ病者一人毎ニ別册ト爲スベシ

第十三條　病院長ハ前條ニ規定セル記錄ノ外保護日誌ヲ備ヘ第六條乃至第九條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル事項ヲ記載スベシ

第十四條　前二條ノ簿册書類ハ曆年度ニ依リ更新シ完結後十年間之ヲ保存スベシ

第十五條　本令ニ依ル申請及届ハ所轄警察署ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔山梨警〕

別記樣式第一號　診斷書

氏名	生年月日	本籍	住所	所在地	職業	家庭ノ主ナル職業	病名	輕重症別	患者ノ遺傳的關係	教育ノ程度及社會上ノ地位	現在症	既往症	治療法ノ概要	榮養	內科的	外科的	身體的症狀（合併症）	其ノ他	法第六條監護義務者	第一條監護義務者	氏名	生年月日	本籍	住所	所在地	備考	豫後
						前科																					

右診斷候也

昭和　年　月　日

用紙美濃紙

官職　醫師　氏　　名㊞

別記樣式第二號　診斷書

患者ノ氏名年齢	發病年月日及病名	入院年月日	入院中ノ經過	治療ノ狀況	現在症	退院後監護ノ必要有無	退院後醫療必要ノ有無	轉歸別	診斷年月日

右診斷候也

昭和　年　月　日

官職　醫師　氏　　名㊞

〔山梨警〕

別記樣式第三號　患者名簿

氏名	年月日	本籍	住所	所在地	職業	家庭ノ職業	病名	合併症	診斷醫氏名	前科ノ有無	法第六條監護義務者	第一條監護義務者	氏名	生年月日	本籍	住所	所在地	轉歸	病死	變死	全治	中途退院	逃走	其ノ他	發病年月日	診斷年月日	入院日數	備考
																			昭和　年　月　日	昭和　年　月　日	昭和　年　月　日	間						

用紙美濃紙

●精神病院法施行細則取扱手續

昭和十一年三月
山梨縣訓令乙第六三號

第一條　精神病院法第二條第一項各號ニ該當スル精神病者ニシテ代用精神病院ニ入院セシムルノ必要アリト認ムルトキハ醫師ノ診斷書（別記第一

號樣式）ヲ添ヘ左記各號ヲ具シ警察部長ノ指揮ヲ受クベシ

一　病者ノ本籍、住所、所在地、職業、氏名及生年月日

二　監護義務者ノ住所、職業、氏名及生年月日竝病者トノ續柄

三　發見ノ日時及場所

四　發病年月日

五　既往及現在ノ擧動

六　入院ヲ必要トスル事由

七　病者及監護義務者ノ資産收入竝家計ノ狀態

第二條　精神病院法施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第一條ノ規定ニ依リ申請又ハ願出アリタルトキハ書類ノ完否及前條各號ノ事項ヲ調査シ且ツ入院許否ニ關スル意見ヲ具シ速ニ之ヲ進達スベシ

第三條　細則第四條乃至第八條ノ規定ニ依リ願屆出アリタルトキハ實地調査ノ上意見ヲ具シ速ニ之ヲ進達スベシ

第四條　入院病者ニシテ在院ノ必要ナシト認ムル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ速ニ報告スベシ

第五條　細則第十一條ノ規定ニ依ル屆出ヲ受理シタルトキハ其ノ概要ヲ調査ノ上警察部長ニ之ヲ即報シ猶逃走ノ場合ニ在リテハ急速必要ナル手配ヲ爲スベシ

第六條　精神病院所在地ノ警察署長ハ毎月一回以上代用精神病院ヲ視察シ左記ノ狀況ヲ報告スベシ

一　病者現在數（男女別）

二　看護員現在數（看護婦及看護人數）

三　醫師ノ現在數

四　看護ノ方法

五　病者ニ對スル衣食ノ待遇

六　病室其ノ他院內ノ淸潔保持ノ狀況

七　保護室收容病者ノ狀態

第七條　精神病院所在地ノ警察署ニ於テハ代用精神病院入院者名簿（別記第二號樣式）ヲ備付ケ常ニ之ヲ整理スベシ

樣式第一號　（用紙美濃紙）

精神病者檢診書

一　住所職業

二　氏名生年月日

三　遺傳關係

四　前回發作回數、其ノ年月日竝發作狀態及轉歸

五　現症發病誘因

六　現症發病年月日

七　現症發病後ノ症狀及經過ノ要領

八　檢診時ニ於ケル症狀

九　病名

一〇　入院ノ必要アル事由

一一　檢診年月日及場所

右ノ通檢診候也

昭和　年　月　日

住所（若ハ所屬官公署又ハ官公私立病院）

醫師　氏　名㊞

指令年月日番號	監護義務者ノ本籍住所氏名	病者ノ本籍住所氏名生年月日	入院年月日	退院年月日	病名	續柄	職業	轉歸別	入院ノ場所	法第六條ノ監護義務者	備考

●山梨縣病院職制

明治三十五年二月
山梨縣訓令乙第一〇號

改正　大正一四年一二月訓令乙第二六五號、昭和二年三月第二〇號、六年三月第八八號、七年三月第二七號

第一條　本院ニ左ノ職員ヲ置ク但シ事務繁劇又ハ職員配置上必要ノ場合ハ部長ノ下ニ副部長ヲ置クコトヲ得

院長　副院長　部長　醫員
調劑員　事務員　技術員　看護婦長

第七編　衞生　第十一章　病院診療所及醫業類似行爲

第二條　院長ハ知事ノ指揮監督ヲ受ケ院務ヲ總理ス

第三條　院長ハ職員ヲ指揮監督シ其ノ進退賞罰ヲ知事ニ具狀シ雜給支辨ニ係ル雇員以下ノ進退賞罰ヲ專行ス

第四條　院長ハ知事ノ認可ヲ經テ院內庶務細則及規律ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得

第五條　院長ハ醫員以下ノ職員ニ事務ノ分掌ヲ命ズルコトヲ得
前項ニ依リ事務ノ分掌ヲ命ジタルトキハ知事ニ報告スベシ

第六條　副院長ハ院長ノ職務ヲ佐ケ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
但院長、副院長共ニ事故アルトキハ上席部長其ノ職務ヲ代理ス

第七條　院內ニ左ノ數部ヲ置ク

內科部　外科部
眼科部　產科婦人科部
耳鼻咽喉科部　小兒科部
皮膚科泌尿器科部　物理的診療部
調劑部　庶務部

第八條　內科部、外科部、眼科部、產科婦人科部、耳鼻咽喉科部、小兒科部、皮膚科泌尿器科部、物理的診療部ニ於テハ診察治療ニ關スル事項ヲ掌理ス

第九條　調劑部ニ於テハ製藥調劑ニ關スル事項ヲ掌理ス

第十條　庶務部ニ於テハ庶務會計ニ關スル事項ヲ掌理ス

第十一條　部長ハ管掌ノ事務ヲ處辨シ所屬部員ヲ指揮監督ス

第十二條　副部長ハ部長ノ職務ヲ佐ケ部長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
部長副部長事故アルトキハ上席部員其ノ職務ヲ代理ス

第十三條　醫員ハ各其ノ所屬部ノ主務ニ從事ス

第十三條ノ二　醫師タル資格ヲ有スル者ニシテ院内ニ於テ醫術ノ研究ヲ爲サントスル者ハ院長ニ於テ研究生ヲ命シ醫員ノ職務ニ從事セシムルコトヲ得但シ俸給ハ支給セス

前項ニ依リ研究生ヲ命シタルトキハ其ノ年月日氏名ニ履歴書ノ寫ヲ添ヘ知事ニ報告スヘシ

第十四條　調剤員ハ調剤部ニ屬シ其ノ主務ニ從事ス

第十五條　事務員蒸汽電氣ノ技術員ハ庶務部ニ屬シ其ノ職務ニ從事ス

第十六條　レントゲン、マツサージ及電氣治療ヲ擔當スル技能員物理的診療部ニ屬シ部員ノ指揮ニ依リ各其ノ任務ニ從事ス

第十七條　看護婦長ハ部長ノ命ヲ受ケ看護婦ヲ指揮監督シ看護ニ關スル事務ヲ掌理ス

●山梨縣病院處務細則

明治三十五年三月
山梨縣指令第一二七號

第一章　通則

第一條　文書ハ總テ庶務部ニ於テ接受シ親展書ハ其儘名宛人ニ交付シ其他ノ文書ハ開封シ文書收受簿ニ登記シ金品ヲ添付シタルモノハ之ヲ詳記シ文書ノ餘白ニ所受番號及日月ヲ記入シ主任者ニ交付シ認印ヲ徴スヘシ

第二條　主任者ニ於テ文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ即日若クハ翌日限リ處分案ヲ具シ所屬部長ヲ經テ院長ノ決議ヲ受クヘシ但即日若クハ翌日限リ處分シ難キモノハ院長ノ指揮ヲ受クヘシ

第三條　本院ヨリ發送スル文書ハ原案ト割印ノ上番號ヲ付シ發送スヘシ

第四條　各部ニ日誌ヲ備ヘ置キ緊要ノ事項ヲ記載シ毎朝院長ノ閲覽ヲ受クヘシ

第五條　各部ニ於テ器械器具藥品消耗品ノ購求修理ヲ要スルトキハ其ノ所要ノ理由品名個數ヲ記載シ庶務部ニ請求スヘシ

庶務部ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ院長ノ決議ヲ經テ請求修理ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　前條ノ手續ヲ經テ器械器具藥品消耗品ヲ庶務部ヨリ受取リタルトキ請求簿ニ調印スヘシ

第七條　各部ニ備付ノ書籍器械器具ハ其部ノ臺帳ニ品名個數ヲ揭ケ現品ヲ保管シ隔月臺帳ト照合スヘシ

前項現品ニ增減アリタルトキハ直ニ加除訂正スヘシ

第八條　各部ニ備付ノ書籍器械器具及諸帳簿ニ破損紛失等アリタルトキハ破損ニアリテハ現品ヲ紛失ニアリテハ顚末書ヲ添ヘ庶務部ニ通知スヘシ

第九條　院内諸議員ニ於テ書籍器械ノ借用ヲ乞フ者アルトキハ貸渡簿ニ書籍器械ノ名ヲ記載シ之ニ捺印セシムヘシ

第十條　書籍器械ノ返納アリタルトキハ之ヲ點檢シ毀損等ナキトキハ返納ノ旨ヲ記入シ毀損等アリタルトキハ其事由ヲ調査シ院長ノ處分ヲ乞フヘシ

第十一條　職員ノ出勤及退院時限竝ニ休暇日ハ一般官廳ノ例ニ準ス

第十二條　院長ハ隨時各部ノ檢閲ヲ爲スヘシ但庶務部長ハ檢閲ニ參與スヘシ

第二章　職務分掌

第十三條　醫務部ハ左ノ事項ヲ掌ル

一　患者ノ診察治療ニ關スル事項
一　往診ニ關スル事項
一　消毒ニ關スル事項
一　統計ニ關スル事項
一　看護法ニ關スル事項
一　帳簿ノ整理ニ關スル事項
一　部内ノ器械物品保管ニ關スル事項
一　細菌ノ研究ニ關スル事項
一　病理解剖ニ關スル事項

第十四條　調剤部ハ左ノ事項ヲ掌ル

一　調剤及製藥ニ關スル事項
一　藥品試驗ニ關スル事項
一　飲食物ノ試驗ニ關スル事項
一　藥品ノ管理及其出納ニ關スル事項
一　帳簿ノ整理ニ關スル事項
一　部内ノ器械物品保管ニ關スル事項
一　處方箋ノ保管ニ關スル事項

第十五條　庶務部ハ左ノ事項ヲ掌ル

一　經費ノ出納ニ關スル事項
一　調度ニ關スル事項
一　營繕ニ關スル事項
一　院内ノ諸規程ニ關スル事項
一　院内ノ取締ニ關スル事項
一　帳簿ノ整理ニ關スル事項
一　物品出納ニ關スル事項
一　統計ニ關スル事項
一　文書ノ立案淨書及發送ニ關スル事項
一　雜給ニ係ル者ノ身分及其進退賞罰ニ關スル事項
一　勤怠簿ノ調査ニ關スル事項
一　電燈給水給溫ニ關スル事項
一　飲食物ノ調理ニ關スル事項
一　洗濯下水及浴場ニ關スル事項
一　部内ノ器具物品保管ニ關スル事項
一　其他ノ事項ニシテ他部ニ屬セサルモノ

第三章　醫務部

第十六條　醫務部ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ置ク

一　處方錄　一　患者入退錄　一　手術簿
一　往診簿　一　診斷簿　一　手術其ノ他ノ器具機械臺帳
一　書籍目錄　一　藥品請求簿　一　機械請求簿
一　日誌　一　諸品請求簿

第十七條　處方錄ニハ患者ノ住所氏名職業年齡病名及病歷ヲ記載シ主任醫之ニ捺印スヘシ

第十八條　處方箋手術箋ニハ處方又ハ手術ヲ爲シタル主任醫證印ヲ要ス

第十九條　患者ニ處方箋ヲ與ヘルトキハ用法禁忌攝生等ヲ懇諭スヘシ

第二十條　患者入院ノ際ハ處方箋ニ入院ノ旨ヲ附記シ捺印ヲ爲シ退院ノ際ハ入院患者處方錄中退院ノ部ニ捺印シ共ニ庶務部ニ通知スヘシ

第二十一條　主任醫ハ日々各室ニ就キ入院患者ヲ診察スヘシ

第二十二條　往診ヲ乞フ者アルトキハ病症區別ニ從ヒ主任醫ニ於テ其ノ求メニ應スヘシ但患者ノ指名アリタル場合ハ被指名者往診スルモノトス

第二十三條　入院患者ノ食物ニ關シ物質ノ新陳調味ノ精粗分量ノ多少等擔當醫ニ於テ庶務部員及調剤部員立會ノ上監査スヘシ

第四章　調剤部

第二十四條　調剤部ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ置ク

一　藥品原簿　一　藥品出納簿　一　器械原簿
一　藥品試驗成績簿　一　藥品請求簿　一　器械請求簿
一　消耗品請求簿　一　製藥簿

第二十五條　製藥簿ニハ日々製藥セル藥名容量月日ヲ記入シ主任者之ニ捺印スヘシ

第二十六條　藥品ノ配合ハ勿論調藥標紙記載等總テ錯誤ナク調製シ速ニ患者ニ與フヘシ

方箋ニシテ醫員ノ捺印ナキモノ又ハ月日ノ齟齬スルモノ若ハ庶務部收入係ノ證印ナキモノハ配劑スルヲ得ス

第二十七條　方箋ノ藥量配伍等不當ト認ムルトキ又ハ解シ難キ點アルトキハ一應之ヲ處方者ニ質シタル後調劑スヘシ

第二十八條　調藥ヲ患者ニ與フルトキハ其姓名ヲ自唱セシメ標紙ト照査シタル後付與スヘシ

第二十九條　方箋ハ毎日取纏メ保管スヘシ

第三十條　入院患者ニ配付スル牛乳ハ日ニ一回以上檢査スヘシ

第三十一條　調劑部長ハ毎月十五日迄ニ前月中ニ於ケル藥品費消高及殘額表ヲ調製スヘシ

第五章　庶務部

第三十二條　庶務部ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ置ク

一　藥價其他收入簿　一　書類收受簿
一　經費內譯簿　一　日誌
一　患者入退院錄　一　遞付錄
一　施療入院患者簿　一　支拂命令案內遞付錄
一　施療外來患者簿　一　支拂既未濟簿
一　備品臺帳　一　器械修理受渡簿

第三十三條　藥價ヲ徵收スルトキハ收入簿ニ其金額及番號ヲ記入シ且ツ處方箋ニ金額ヲ記入シ捺印ノ上之ヲ患者ニ交付スヘシ藥瓶其他ノ容器ヲ要スルトキ亦同シ

第三十四條　手術料及療養品代ヲ徵收スルトキハ其金額及番號ヲ收入簿ニ記入シ且ツ手術箋ニ金額ヲ記入シ捺印ノ上保管スヘシ

第三十五條　入院患者アリタルトキハ其住所氏名年齡及入院室ノ等級ヲ患者入退院錄ニ記入シ且ツ毎一週間分ノ入院料ヲ前納セシメ其金額ヲ入退院錄及收入簿ニ記入シ領收證ヲ交付スヘシ

第三十六條　毎日徵收シタル現金ハ精算ノ上縣金庫ニ預ケ入ルヘシ

第三十七條　入院患者ノ姓名札ヲ醫務部及庶務部ノ視易キ所ニ掲ケ現在員ヲ明ニスヘシ

第三十八條　病室ハ午前一回午後二回以上巡視シ取締ヲ爲スヘシ

第三十九條　病室下足置場浴場等ノ掃除ハ時々巡視督責スヘシ

第六章　職員服務心得

第四十條　職員ハ出勤時間迄ニ必ス昇院シ自ラ出勤簿ニ捺印シタル後主務ニ從事スヘシ

第四十一條　職員ハ執務時間外ト雖モ院長ノ命アルトキハ晝夜ニ拘ラス執務スヘシ

第四十二條　職員疾病其他ノ事故ニヨリ出勤シ能ハサルトキハ其旨ヲ記シ昇院時刻前院長ニ屆出ヘシ但シ病氣三日迄日々屆出テ四日ニ至ルモ出勤シ能ハサルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ尙ホ平癒セサルモノハ十日毎ニ診斷書ヲ添ヘ屆出ツヘシ

第四十三條　職員遲參シ又ハ退院時刻前退院セントスルトキハ院長ニ申出承認ヲ受クヘシ

第四十四條　歸省又ハ墓參若クハ病氣療養等ノ爲メ旅行セントスルトキハ其事由及日數竝ニ行先地ヲ記シ院長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ其日數ヲ過クルモ尙歸院スル能ハサルトキハ更ニ追願許可ヲ受クヘシ但病氣療養ニ係ル願書ハ總テ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第四十五條　賜暇中旅行ヲ爲サントスルトキハ其日數行先地ヲ記シ院長ニ屆出ツヘシ

第四十六條　職員退院スルトキハ各自監守スル書類物品ヲ整理シ散亂セシムヘカラス

第四十七條　新任者ハ三日以內ニ住所ヲ五日以內ニ印鑑ヲ庶務部ニ屆出ツヘシ改印及轉居ノトキ亦同シ

第四十八條　職員欠勤スルトキハ擔任ノ事件ヲ部員ニ引續キ其經過ヲ明カナラシムヘシ

第四十九條　近火其他變災ノ場合ニハ速ニ參院シ院長ノ指揮ニ從フヘシ

第七章　宿直心得

第五十條　宿直ハ各部一名宛輪番ヲ以テ勤務スヘシ

第五十一條　宿直ハ退院時刻ヨリ翌日昇院時刻迄ヲ以テ勤務時間トス但シ休日ハ昇院時刻ヨリ翌日昇院時刻迄トシ前夜當直ノモノハ交番者昇院シ引繼ヲ了ルニアラサレハ退院スルヲ得ス

第五十二條　宿直中止ムヲ得サル事故ノ爲メ退院スルトキハ次番者ニ通知シ事務ヲ引繼キ且ツ翌日其ノ事由ヲ詳記シ院長ニ屆出ツヘシ

第五十三條　宿直當日左ノ事項ニ係ルモノハ宿直ヲ免ス

一　出張中及歸院當日ノモノ
一　病氣引籠リノ者
一　忌引賜暇及歸省中ノ者

第五十四條　新任者ハ拜命ノ日ヨリ一週間ヲ經ルニアラサレハ宿直セシメサルモノトス

第五十五條　宿直中ニ起ル諸般ノ事務ハ緩急輕重ヲ考量シ便宜處理スヘシ其事件重大ナルモノハ院長ニ申告シ指揮ニ從フヘシ

第五十六條　宿直中ハ猥リニ外出スルヲ得ス

第五十七條　宿直員ハ院內諸般ノ取締ヲ嚴ニシ時々院內ヲ巡視シ火災ヲ戒メ各部內ノ文書器具印章鎖鑰ヲ嚴ニ監守スヘシ其變災アリタルトキハ臨機處置シ特ニ患者ニ危險ナカラシムル樣注意スヘシ

第五十八條　宿直日誌ニハ月日氏名及ヒ當日處理シタル事件ヲ記載シ且ツ捺印スヘシ

宿直日誌ハ各部毎ニ之ヲ備ヲヘシ

第五十九條　市內ニ火災アリタルトキハ當直醫員ハ速ニ所要ノ看護婦ヲ率ヰテ現場ニ出張シ救護ノ事業ニ從フヘシ

第六十條　本則ハ附屬衛生試驗所ニ對シ之ヲ準用ス

●山梨縣病院診療規程

大正十年三月
山梨縣告示第四十五號

第一條　本院ハ內科外科眼科產科婦人科耳鼻咽喉科小兒科皮膚科花柳病科等諸般ノ患者ヲ診察治療スル所トス

第二條　外來患者ノ診療時間ハ左ノ如シ但シ急病重症等ハ此限ニアラス

自四月一日至六月三十日　午前八時ヨリ
自七月一日至八月三十一日　午前七時ヨリ
自九月一日至十月十五日　午前八時ヨリ
自十月十六日至三月三十一日　午前九時ヨリ
（午前九時ヨリ正午迄）

第三條　重患者ニシテ參院シ難ク往診ヲ請フトキハ其求メニ應ス往診ハ毎日午後ヨリトス但急症患者ハ此限ニアラス

第四條　入院治療ヲ請フモノアルトキハ一應診察ノ上之ヲ承認シ左記區分ニ依リ保證金ヲ納メシムル保證金ハ退院ノトキ還付スルモノトス

一等入院　金三十圓
二等入院　金二十圓
三等入院　金十圓

入院ノ豫定日數三日ヲ踰ヘサル見込ノ者ハ場合ニ依リ保證金ヲ徵セサルコトアルヘシ

病室滿員ノトキ又ハ治療上入院ヲ要セスト認メ若ハ「ペスト」「コレラ」ノ如キ病症ニ在テハ入院ヲ謝絕スルコトアルヘシ

入院患者ニ對シ必要アル場合ハ身元引受人ヲ定メシムルコトアルヘシ

第五條　入院患者ノ付添ヲ爲サントスル者アルトキハ一患者ニ就キ二人以下ヲ限リ之ヲ許容ス但シ付添人ニ關スル費用ハ自辨タルヘシ

第六條　入院患者ノ諸費ハ毎週日曜ヨリ土曜日迄ノ分ヲ其翌週火曜日ニ納入セシメ退院者外來患者ノ諸費ハ其都度納入セシムルモノトス

第七條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ施療豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ救療ス

一　公費其ノ他救療ノ途ナキニ至リ市町村長又ハ警察官署長ノ證明ヲ有スル者

二　學術研究ノ資料トナルヘキ者

三　貧困者ニシテ急救治療ヲ要シ若ハ特別ノ事情アル者

第一號ニ該當スル者入院ヲ志望スルトキハ前日午前中ニ院長ノ承認ヲ受クヘシ但シ滿員ノ場合ハ入院ヲ拒絕スルコトアルヘシ

●山梨縣病院諸收入條例

大正五年二月
山梨縣令第五號

改正　大正七年八月、八年八月、九年四月、一〇年三月、一五年四月縣令第一四號、昭和五年三月條例第一號、六年三月第三號、八月第九號、七年一一月第五號、一二年三月第三號

一、藥價其他ノ價格左ノ如シ

藥價

內服藥		
各種合劑	普通水劑、煎劑、浸劑、乳劑、舐劑等　一日分	金拾八錢
各種散劑	同	金拾八錢
各種丸劑	同	金拾八錢
各種頓服劑	一回分	金拾錢
外用藥		
吸入劑	四百グラム一劑	金拾八錢
罨法劑	同	金拾八錢
含嗽劑	同	金拾八錢
灌腸劑	同	金拾八錢
洗滌劑	同	金拾八錢
消毒劑	五百グラム一劑	金拾八錢
各種點眼點耳點鼻劑	十グラム一劑	金拾八錢
各種膏藥	十グラム一劑	金拾八錢
	一方寸	金貳錢
散布及塗布劑	十グラム一劑	金拾八錢
各種座藥	一個	金拾錢
塗擦劑	五グラム一劑	金拾錢

浴湯劑	一回分	金拾八錢
診察料	但シ二箇月間有效	金參拾錢
レントゲン診察料	一回	金壹圓以上金五圓以下
レントゲン寫眞料	同	金壹圓以上金拾圓以下
手術料	同	金貳拾錢以上金八拾圓以下
處置料	同	金五錢以上金貳圓以下
但分娩處置料ハ金貳拾圓以下トス		
特殊療治料（X光線、ラジウム、ザアテルミー、熱氣浴、電氣浴等）	同	金參拾錢以上金五圓以下
防腐劑注入料	同	金五圓以上金參拾圓以下
諸檢査料	同	金拾錢以上金五圓以下
消毒料	一人	金拾錢以上金五圓以下
處方箋料	一通	金貳圓
普通診斷書料	同	金五拾錢
特種診斷書料	同	金壹圓以上金五圓以下
及證明書料	同	金五圓以上
診斷書及證明書ハ同一ノモノヲ同時ニ二通以上ヲ要スル場合ハ一通ノ外每通半額トス		
鑑定及檢案書料	一通	金五拾錢以上金貳拾圓以下
體格檢査料		金貳圓
入院料		
一等　一人一日	普通病	各金五圓
	傳染病	各金五圓
二等　同	普通病	各金參圓參拾錢
	傳染病	各金參圓參拾錢

三等　同	普通病	金壹圓四拾錢
	傳染病	金貳圓參拾錢
療用品代（繃帶、ガーゼ、油紙、脫脂綿、疹常綿等）	一枚	金貳錢以上金參拾錢以下
藥品容器代	一個	金貳錢以上金參拾錢以下
但特別高價ノモノヲ要スルトキハ此制限ニ拘ハラス相當ノ料金ヲ徵收ス		
往診料　所要時間一時間迄	博士	金五圓
	部長	金參圓
	醫員	金壹圓五拾錢
一時間ヲ超過スル場合ハ一時間博士六圓部長四圓醫員貳圓ノ割合ヲ以テ增加スルモノトス		
但車馬賃ハ患家ノ負擔トス		
附添看護料	一日	金五拾錢以上金貳圓以下
附添人臥具貸淺料	一枚一夜	金五錢以上金拾錢以下
附添人賄料		
甲	一食	金五拾錢
乙	同	金參拾錢
菜	一皿	金五拾錢以上金五錢以下
飯	一飯	金五錢以上金拾五錢以下
牛乳	一合	金五錢以上金拾五錢以下

スープ其他實費

二、入院料ニハ普通藥價、金參拾錢以下ノ小手術、小處置料及賄費ハ之ヲ含有ス但特別高價ナル藥品若ハ多料ノ藥劑ヲ要スルカ又ハ大中手術處置及特別ノ治療ヲ要スルモノハ入院料ノ外ニ相當ノ料額ヲ徵收ス

入院料ハ入院及退院ノ當日ハ各一日ニ計算ス

三、藥價中特別高價ノ藥品ヲ配伍スルモノハ定價ニ拘ハラス相當ノ料額ヲ徵收ス
四、體格檢査中本縣巡査並ニ縣立學校生徒志願者ハ一人ニ付金拾錢鐵道從事員ハ金貳拾錢ヲ徵收ス
五、本縣巡査、縣立學校生徒、看守及鐵道從事員ノ普通診斷書及證明書ハ無料トス
六、本縣巡査、縣立學校生徒、看守及鐵道從事員ノ藥價、手術料、處置料及入院料ハ定價ノ二割減トス
七、各種膏藥、散布、塗布、洗滌及浴湯劑ニシテ一回ニ多量ノ使用ヲ爲ス場合ハ相當減額スルコトアルヘシ
八、入院患者ニシテ煖風器其他電流ノ供給ヲ受ケントスルトキハ相當ノ料金ヲ徵收シ其需ニ應スルコトアルヘシ
九、恩賜救療事業ニ依ル救療患者並恩賜財團濟生會及日本赤十字社委託患者ニ關シテハ各其ノ所定ノ額ニ依リ徵收ス
十、健康保險法ニ依ル被保險者ノ委託診療ニ關シテハ病院長ハ當該官廳又ハ健康保險組合トノ協定ニ依リ減額スルコトヲ得

●山梨縣病院看護婦産婆養成所規則

大正八年二月
山梨縣令第十一號

改正　昭和五年一二月縣令第四七號、六年三月第三號

第一條　山梨縣病院内ニ看護婦産婆養成所ヲ設置ス

第二條　看護婦産婆養成所ハ看護婦産婆ニ須要ナル學科及技術ヲ授ケ且實務ヲ練習セシムル所トス

第三條　看護婦産婆養成所ニ左ノ職員ヲ置ク

一　所長　一人
二　講師　若干名
三　書記　二人
四　舍監　一人
五　生徒取締　二人

所長ハ山梨縣病院長講師ハ同院職員及囑託員ヲ以テ之ニ充テ書記舍監及生徒取締ハ同院事務員又ハ同院雇員ノ中ヨリ所長之ヲ命ス但シ舍監ハ專任者ヲ任命スルコトヲ得

第四條　所長ハ所務ヲ統理シ職員ヲ指揮監督ス

第五條　講師ハ所長ノ指揮ヲ受ケ教務ニ從事ス

第六條　書記ハ所長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第七條　舍監ハ所長ノ指揮ヲ受ケ寄宿舍ノ取締ニ任ス

第八條　生徒取締ハ所長ノ指揮ヲ受ケ生徒ノ品行其ノ他總テ身上ヲ監督ス

第九條　生徒ノ修業期間ハ看護婦産婆トモ各二ヶ年トシ毎年四月ニ授業ヲ開始ス

看護婦又ハ産婆ニシテ更ニ他ノ學科ヲ修メントスル者ハ當養成所一學年修業程度ノ試驗ニ合格スルトキハ直ニ二學年ニ入學セシムルコトアルヘシ

第十條　年中休暇日ハ左ノ如シ

一　祝日
二　大祭日
三　日曜日　但休暇日ト雖モ實務ヲ練習セシムルコトアルヘシ

第十一條　教授科目ハ左ノ如シ

一　修身
二　國語作文
三　解剖學
四　生理學
五　衛生學
六　繃帶學及器械學
七　救急處置法
八　傳染病學
九　患者運搬法
一〇　産婦生學
一一　調劑學
一二　治療介補、手術介補及消毒法
一三　マッサージ術
一四　諸法規大意（傳染病豫防法、消毒方法）
一五　作法及禮式等

二　國語作文
三　解剖學
四　生理學
五　衛生學
六　器械學
七　救急處置法
八　産婦學
九　マッサージ術
一〇　治療介補、手術介補及消毒法
一一　模型並實地演習
一二　諸法規大意（傳染病豫防法、消毒方法等）
一三　作法及禮式
看護婦學科
一　修身
二　國語作文
三　解剖學
四　生理學
五　看護法
六　治療介補、手術介補及消毒法
七　繃帶學及器械學
八　救急處置法
九　傳染病學
一〇　患者運搬法
一一　衛生學
一二　調劑學
一三　マッサージ術
一四　諸法規大意（傳染病豫防法、消毒方法等）
一五　作法及禮式等

第十二條　入學試驗ハ毎年三月山梨縣病院内ニ於テ之ヲ行フ其ノ日時ハ豫メ之ヲ告示ス

第十三條　入學セシムヘキ生徒ノ定員ハ毎回各科二十人以内トス

第十四條　入學志願者ハ第一號樣式ノ願書ニ第二號樣式ノ履歷書ヲ添ヘ所長ニ差出スヘシ

第十五條　本縣内ニ住所ヲ有シ且ツ左ノ資格ヲ具フル者ニアラサレハ入學スルコトヲ得ス

一　年齡滿十四歲以上四十歲未滿ノ女子ニシテ身體强健品行方正ナル者
二　高等小學卒業又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者但シ後者ニ在リテハ試驗ヲ行フ
三　看護婦産婆ノ業務ニ關スル罪ヲ犯シ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第十六條　所長ハ體格檢査ヲ行ヒ合格者ニ限リ入學ヲ許可スヘシ但シ合格者定員ヲ超過スルトキハ國語作文算術ニ就キ選拔試驗ヲ行フモノトス

前項ニ依リ入學ヲ許可シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ直チニ知事ニ報告スヘシ

第十七條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ五日以内ニ保證人ヲ定メ第三號樣式ノ誓約證ヲ所長ニ差出スヘシ

前項ノ保證人ハ本縣内ニ於テ一家計ヲ立ツル成年者ニシテ保證ノ責ニ任シ得ヘキ者タルヲ要ス但シ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ變更セシムルコトアルヘシ

第十八條　保證人管外ニ轉居其ノ他ノ事由ノ爲メ其ノ資格ヲ喪失シタルト

キハ直チニ其旨ヲ屆出同時ニ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條　生徒又ハ保證人ノ本籍、住所、族籍身分氏名等ニ異動ヲ生シタルトキハ直チニ所長ニ屆出ツヘシ

第二十條　生徒ハ總テ之ヲ寄宿舍ニ入ラシメ通學ヲ許サス

第二十一條　生徒歸省又ハ外泊セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上所長ニ願出許可ヲ受クヘシ但シ特別ノ事情ニ依リ連署ヲ得ルノ遑ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　生徒缺席セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上豫メ所長ニ屆出ツヘシ但シ病氣ノ爲メ引續キ七日以上缺席ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第二十三條　生徒退學セムトスルトキハ其事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ所長ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二十四條　所長ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノニ對シ退學ヲ命スルコトヲ得

一　傷痍、疾病ノ爲メ又ハ課業成績不良ニシテ成業ノ見込ナキ者

二　性行不良ニシテ生徒タル本分ニ背戻シ毫モ改悛ノ見込ナキ者

三　正當ノ理由ナクシテ七日以上引續キ缺席シタル者

前項ニ依リ退學ヲ命シタルトキハ其ノ狀ヲ具シ直チニ知事ニ報告スヘシ

第二十五條　前條ニ依リ退學ヲ命セラレタル者ニシテ第二、第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二十九條ノ食費其他ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第二十六條　課程ノ修了ヲ認ムルニハ平素ノ成績操行及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム但シ所定ノ學科竝ニ實務練習授業中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ者ハ進級若ハ卒業セシメサルモノトス

第二十七條　試驗ヲ分チテ學期試驗及卒業試驗ノ二種トス

學期試驗ハ修業期間內ニ二回以上之ヲ行ヒ卒業試驗ハ修業ノ終リニ於テ

之ヲ行フ

卒業試驗ニ及第シタル者ニハ第四號樣式ノ卒業證書ヲ授與ス

第二十八條　卒業試驗ノ成績優良ナルモノニ對シテハ第五號樣式ノ優等證書ヲ授與ス

第二十九條　生徒ニハ在學中食事竝ニ必要ノ書籍及看護衣四著以內ヲ支給スルノ外二學年生ニハ助勤手當月額三圓ヲ支給ス但シ第九條第二項ニ依リ入學シタル者ニハ食事及助勤手當ハ之ヲ支給セス

第三十條　生徒卒業ノ上ハ其ノ修業年限ト同一ノ期間內山梨縣病院ニ就職スル義務アルモノトス但シ一學年修了後引續キ他ノ學科ヲ修メタル者ハ最後卒業ノトキヨリ二ケ年トス

前項義務年限內又ハ在學中自己ノ便宜ヲ以テ退職スルモノニ對シテハ前條ノ食費其ノ他ヲ辨償セシム

第三十一條　本所ヲ卒業シタル者本縣內ニ於テ看護婦ノ業ヲ營ムトキハ知事ノ指定シタル看護婦組合ニ加入スルノ義務アルモノトス

第三十二條　本則施行上必要ナル事項ハ所長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本則ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際在所スル生徒ハ本則第二十九條第三十條ノ規程ニ依ラサルコトヲ得

（第一號樣式）

入學願

本籍　府縣　郡　市　町　村　番地
住所　府縣　郡　市　町　村　番地
族籍　某長女（姉、妹、姪）

志望學科　何々　氏　名　年月日生

右ハ今般貴所ニ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書及戶籍謄本相添ヘ此段相願候也

年　月　日　氏　名㊞

山梨縣病院看護婦產婆養成所長氏名殿

（第二號樣式）

履歷書

族籍　氏　名　年月日生

學　事

一　何年何月何日何學校卒業

一　何年何月何日何學校入學何年何月何日家事ノ都合ニ依リ退學

職　業

一　何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何々

賞　罰

一　何年何月何日何々ヲ賞與セラル又ハ罰セラル

右ノ通リ相違無之候也

年　月　日　氏　名㊞

（第三號樣式）

契約書

參錢收入印紙貼用

本籍　府縣　郡　市　町　村　番地
住所　府縣　郡　市　町　村　番地
族籍　某長女（次女）（姉、妹、姪）

右貴所ニ入學御許可相成候上ハ御規則堅ク可相守ハ勿論一身上ニ關スル事故ハ保證人ニ於テ一切引受ケ可申以連署此段誓約仕候也

年　月　日　氏　名　年月日生

右

氏　名㊞

本籍住所

保證人　氏　名㊞

山梨縣病院看護婦產婆養成所長氏名殿

（第四號樣式）（用紙鳥ノ子）

第　號

卒業證書

族籍　氏　名　年月日生

右本所規定ノ看護婦（產婆）學科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ玆ニ之ヲ證ス

年　月　日　所長　位勳　氏　名㊞

（第五號樣式）（用紙奉書四ツ切）

族籍　氏　名　年月日生

卒業試驗ノ成績優等ナルコトヲ證ス

年　月　日　　所　　名印

●山梨縣結核相談所職制

昭和七年六月十日
山梨縣訓令乙第一〇一號

第一條　結核相談所ハ警察部衛生課ニ屬シ結核ニ關スル左記事項ヲ取扱フモノトス

一、早期診斷
一、豫防及治療ニ關スル相談

第二條　結核相談所ニ左ノ職員ヲ置ク

一、所　長
一、醫　師
一、看護婦

第三條　所長ハ衛生課長ヲ以テ之ニ充テ警察部長ノ指揮ヲ受ケ所務ヲ管理シ職員ヲ監督ス

第四條　醫員ハ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事シ所長事故アルトキハ上席醫員其ノ事務ヲ代理ス

第五條　看護婦ハ上司ノ指揮ヲ受ケ所務ニ從事ス

第六條　結核相談所職員ノ勤務ハ本制ニ規定スル外一般官吏ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ昭和七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●山梨縣衛生檢査所職制

明治四十一年三月
山梨縣訓令乙第六五號

第一條　衛生檢査所ハ警察部衛生課ニ屬シ衛生試驗ニ關スル事項ヲ處辨スルモノトス

第二條　衛生檢査所ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　事
一　檢査員
一　書　記

第三條　主事ハ警察部長ノ指揮監督ヲ受ケ衛生檢査ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス

第四條　檢査員ハ主事ノ指揮ヲ受ケ檢査事務ニ從事シ主事事故アルトキハ上席檢査員ニ於テ其ノ事務ヲ代理ス

第五條　書記ハ主事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第六條　衛生檢査所職員ノ勤務ハ本令ニ規定スルモノヽ外ハ一般官吏ノ例ニ依ル

●山梨縣衛生試驗手數料條例

昭和八年二月十三日
山梨縣條例第一號

縣會ノ議決ヲ經テ山梨縣衛生試驗手數料條例左ノ通定ム

山梨縣衛生試驗手數料條例

第一條　本縣ハ一般ノ委託ニ依リ本條例ノ定ムル所ニ依リ衛生ニ關スル試驗ヲ行フ但シ試驗ノ目的又ハ試驗物ノ性質ニ依リ委託ニ應セサルコトアルヘシ

第二條　試驗ヲ委託セムトスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ノ外別表ニ依リ申請ト同時ニ手數料ヲ納付スヘシ但シ試驗ノ爲技術員ノ出張ヲ要スルトキハ其ノ官職ニ相當スル旅費ヲ試驗ニ要スル器具等ノ運搬ニ費用ヲ伴フトキハ其ノ實費ヲ增手數料トシテ徵收ス

一　法令ノ規定ニ依リ試驗ヲ行フトキ
二　傳染病豫防其ノ他公衆衛生上必要アリト認ムルトキ

第三條　前項ニ依リ既ニ納付シタル手數料ハ之ヲ還付セス

試驗ノ爲提出シタル物品ハ之ヲ還付セス

第四條　試驗結了シタルトキハ試驗成績書ヲ交付ス

第五條　本條例ニ依リ試驗シタル物品ノ廣告、揭示、印刷物、包紙又ハ容器等ニ山梨縣衛生試驗所ノ保證、證明及試驗濟其ノ他之ニ類スル文字ヲ記載スルコトヲ得ス但シ其ノ試驗成績書ノ全文ヲ記載スルモノハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本條例施行ノ際既ニ試驗委託ヲ爲シタルモノハ尙從前ノ規定ニ依ル

大正八年三月山梨縣令第十八號ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

種別	目的	手數料
飲用水	化學的飲用水適否檢査	三〇錢
	細菌學的檢査	五〇
氷雪	化學的檢査	五〇
	細菌學的檢査	五〇
工業用水	定質成分	五〇
	定量一成分	五〇
乳汁 人乳 牛乳	普通檢査	五〇
	一般定量	五、〇〇
	細菌聚落數檢査	五〇
煉乳	普通檢査	五〇
	一般定量	五、〇〇
	細菌聚落數檢査	五〇
人造鑛泉及藥湯	有害物存否	三、〇〇
顏料	色素	一、〇〇
鑛泉	定質	三、〇〇
	定量	五、〇〇
	效能書料	一、〇〇
醫藥品及消毒藥	局方適否	定質試驗ニ屬スルモノ 五〇
		定量ヲ要スルモノ 一、〇〇
工業藥品	工業適否	定質試驗ニ屬スルモノ 一、〇〇
		定量ヲ要スルモノ 一、〇〇

酒類	アルコール定量	一、〇〇
	一般定量	五、〇〇
	防腐劑有無鑑定	五〇
化粧品及玩具	衛生上害否	五〇
肉類及其ノ製品	定量一成分	一、〇〇
穀類	定量一成分	一、〇〇
肥料及動物飼料	定量一成分	一、〇〇
鑛石	定量一成分	三、〇〇
	定量一成分	一、〇〇
尿	糖分有無	五〇
	糖分定量	一、〇〇
	蛋白質有無	五〇
	蛋白質定量	一、〇〇
ワツセルマン檢査		五〇
喀痰	結核菌有無	一五
其ノ他衛生關係品	定質	五〇
	定量一成分	五〇

●山梨縣細菌檢査所職制

大正九年四月
山梨縣訓令乙第四九號

第一條　細菌檢査所ハ警察部衛生課ニ屬シ細菌檢査ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス

第二條　細菌檢査所ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主事
一　技手
一　助手

第三條　主事ハ技師警察醫又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ警察部長ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條　技手ハ上官ノ指揮ヲ受ケ檢査事務ヲ分掌シ主事事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第五條　助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢査事務及ヒ庶務ニ從事ス

第六條　細菌檢査所職員ノ勤務ハ本令ニ規定スルノ外ハ一般官吏ノ例ニ依ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●縣立相川病院設置ノ件

大正九年三月
山梨縣告示第五十九號

縣立相川病院ヲ甲府市穴切町ニ設置シ大正九年四月一日ヨリ其ノ事務ヲ取扱フ

●縣立相川病院竝縣立相川病院上野原分院職務規程

昭和七年八月
山梨縣訓令乙第一四五號

縣立相川病院竝縣立相川病院上野原分院職務規程

第一章　總則

第一條　本規程ニ於テ病院ト稱スルハ縣立相川病院及縣立相川病院上野原分院ヲ謂フ

第二條　病院ニ於テハ娼妓、娼妓登錄申請者及密賣淫者ノ健康診斷竝治療ヲ行フモノトス

第三條　病院ニ左ノ職員ヲ置ク但シ兼務ヲ妨ゲズ

院長
醫員
調劑員
書記

第四條　院長ハ警察部長ノ命ヲ受ケ部下ノ職員ヲ指揮監督シ院内一切ノ事務ヲ掌理ス

第五條　院長事故アルトキハ上席醫員其ノ事務ヲ代理ス

第六條　醫員ハ院長ノ命ヲ受ケ健康診斷、治療竝豫防消毒等ノ職務ニ從事ス

第七條　調劑員ハ院長ノ命ヲ受ケ調劑竝豫防消毒ノ事務ニ從事ス

第八條　書記ハ院長ノ命ヲ受ケ庶務及會計竝健康診斷及治療ニ關スル事務ニ從事ス

第九條　院長ハ別段ノ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ專行ス

一、院務ニ關シ文書ノ照復ヲ爲スコト
二、職員ノ處務分掌ヲ定ムルコト
三、職員ニ除服出仕ヲ命シ又ハ請暇ヲ許可スルコト
四、看護小使ノ進退賞罰ニ關スルコト

第十條　院長ハ職員ノ進退及賞罰ヲ知事ニ具申スベシ

第十一條　院長ハ院務細則其ノ他必要ナル規程ヲ定メ警察部長ノ承認ヲ受ケ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條　文書ノ收受及發送竝職員ノ勤務及當宿直ハ總ヘテ本廳ノ例ニ據ル

第十三條　病院ハ第一號表及第二號表ニ依リ書類簿册ヲ調製保存スベシ

第十四條　院長更迭ノトキハ前任者ニ於テ事務引繼目錄ヲ作リ三日以内ニ後任者ニ引渡ヲ爲シ其ノ旨連署ヲ以テ知事ニ屆出ヅベシ

第二章　健康診斷

第十五條　娼妓健康診斷ノ結果左ノ疾患アル者ニ對シテハ入院ヲ指示スベシ

一、梅毒
二、淋病及淋病性諸疾患
三、軟性下疳及之ニ因スル疾患
四、陰部及其ノ周圍ノ剝脫、糜爛
五、傳染性皮膚病
六、「トラホーム」ニシテ分泌物ノ著明ナルモノ

七、結核ノ疑アルモノ及癩ノ疑アルモノ

前項ニ依リ入院ヲ指示シタルトキハ入院患者名簿ニ登載第一號樣式ニ依リ速ニ所轄警察署長ニ通報スベシ

第十六條　娼妓ニシテ精神病若ハ結果性疾患癩其ノ他傳染性疾患ニ罹リ稼業ヲ禁止若ハ停止スルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ病名及事由ヲ所轄警察署長ニ通報スベシ

第十七條　娼妓ニシテ稼業ニ堪ヘズト認ムル疾患アル者及姙娠五箇月以後又ハ分娩流產後二箇月ヲ經サル者ハ休業ヲ諭示シ其ノ旨所轄警察署長ニ通報スベシ

第十八條　稼業ヲ停止セラレ又ハ休業シタル娼妓ニシテ其ノ事由止ミタル者ト診斷シタルトキハ直ニ所轄警察署長ニ通報スベシ

第十九條　娼妓健康診斷施行規則第八條ノ場合ニ於ケル診斷ハ警察官吏立會ノ上之ヲ行フベシ

第二十條　娼妓ノ健康診斷ヲ終リ健康ト認メタルトキハ娼妓保管ニ係ル受檢簿ニ健康證印ヲ押捺シ第十五條第十六條ノ疾病アリト認メタルトキハ別ニ定ムル符合印ヲ押捺シ第二號樣式ノ娼妓健康診斷簿ニ必要事項ヲ記載シ置クベシ

第二十一條　密賣淫者ノ健康診斷ヲ爲シタルトキハ梅毒、淋病、軟性下疳ノ有無ヲ檢査シタル警察署長ニ通報スベシ

第二十二條　娼妓健康診斷ノ結果ハ其ノ都度第三號樣式ニ依リ所轄警察署長ニ通報スルト共ニ警察部長ニ報告スベシ

第二十三條　娼妓登錄申請者ノ健康診斷ヲ爲シタル結果第十五條及第十六條ニ揭グル疾病ヲ帶有セズ其ノ他稼業ニ堪ヘザル疾病ナシト認メタル者ニハ健康證明書ヲ交付シ登錄申請者檢査名簿相當欄ニ必要事項ヲ記載シ其ノ旨所轄警察署長ニ通報シ尙前月分ノ結果ハ第四號樣式ニ依リ翌月五日迄ニ警察部長ニ報告スベシ

第三章　治療

第二十四條　娼妓患者ト密賣淫患者トハ成ルベク其ノ病室ヲ區別スベシ

第二十五條　患者ト面會ヲ求ムル者アルトキハ其ノ事由及患者トノ關係ヲ取調ベ面會人名簿ニ記入シ差支ナシト認ムル者ニ限リ許可スベシ

必要ト認ムルトキハ面會ニ立會ヒ又ハ面會ヲ中止スベシ

第二十六條　患者ニ贈與スル物品ハ醫員若ハ書記ニ於テ取調ベ支障ナシト認ムルモノノ外成ルベク許容スベカラズ

第二十七條　患者ニ就キ他ノ疾患ヲ發見シタルトキハ主病全治ニ至ル迄共ニ之ヲ診療スルコトヲ得

第二十八條　患者危篤ニ陷リ又ハ死亡シタルトキハ本人ノ寄寓セル貸座敷營業者又ハ關係者ニ通知スベシ

第二十九條　娼妓患者治癒シタルトキハ本人ノ寄寓貸座敷業者若ハ其ノ代理人ヲ招致シテ之ヲ引渡スト共ニ第五號樣式ニ依リ所轄警察署長ニ通報スベシ

密賣淫者治癒シタルトキハ其ノ氏名及入院中ノ費用ヲ精算シ檢査シタル警察署ニ通知シテ引渡ヲ爲スベシ

第四章　雜則

第三十條　患者ニシテ無斷外出シ又ハ逃走シタルトキハ所轄警察署並寄寓貸座敷營業者又ハ關係者ニ通知スベシ

第三十一條　院長ニ於テ娼妓健康診斷施行規則違反者ヲ發見シタル場合ハ其ノ事實ヲ速ニ所轄警察署長ニ通報スベシ

第三十二條　院長健康診斷ニ當リ必要アリト認ムルトキハ所轄警察署長ニ警察官吏ノ派遣ヲ要求スルコトヲ得

前項ニ依リ派遣セラレタル警察官吏ハ特ニ左記事項ニ就キ取締ルベシ

一、故ナク不參スル娼妓ナキヤ否

二、受驗娼妓ニ人違ナキヤ否

三、受驗娼妓控室內ノ秩序及淸潔保持ニ關スルコト

附　則

第三十三條　本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條　大正九年三月訓令乙第八一號縣立相川病院規則明治三十三年十月訓第一一七號娼妓身體檢査醫員服務心得明治三十四年八月訓示第八六號娼妓病症及診斷ニ於ケル消毒檢診度數ノ件ハ之ヲ廢止ス

●診療所取締規則

昭和八年十月四日
内務省令第三十號

診療所取締規則左ノ通定ム

診療所取締規則
第一章　總則
第二章　診療所ノ開設、休止及廢止
第三章　診療所ノ管理
第四章　診療所ノ構造設備
第五章　診療所ノ監督
第六章　罰則
附則

第一章　總則

第一條　診療所ト稱スルハ公衆又ハ特定多數人ノ爲醫業ヲ爲ス場所ヲ謂ヒ病院ト稱スルハ診療所ニシテ患者十人以上ノ收容施設ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　疾病ノ治療ヲ爲ス場所ニシテ診療所ニ非ザルモノハ之ニ診療所、診察所、醫院其ノ他醫業ヲ爲ス場所ニ紛ハシキ名稱ヲ附スルコトヲ得ズ

疾病ノ治療ヲ爲ス場所ニシテ病院ニ非ザルモノハ之ニ病院又ハ病院分院ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ズ

第三條　診療所ニハ醫業ニ關シ廣告スルコトヲ得ザル事項ヲ表示スル名稱ヲ附スルコトヲ得ズ但シ診療所所在地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ倣フ）ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　何人ト雖モ診療所ノ醫業ニ關スル廣告ニ其ノ診療所ニ於テ當時診療ニ從事セザル醫師ノ氏名ヲ表示スル場合ニ於テハ當該診療所ニ於ケル其ノ醫師ノ診療日ヲ併セ表示スベシ

第五條　何人ト雖モ診療所ノ醫業ニ關スル廣告ニハ其ノ診療所ニ於テ診療ニ從事セザル醫師ノ氏名ヲ表示スルコトヲ得ズ

第二章　診療所ノ開設、休止及廢止

第六條　醫師病院ニ非ザル診療所ヲ開設シタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ十日以内ニ診療所所在地ノ地方長官ニ届出ヅベシ

一　名稱
二　所在地
三　開設ノ年月日
四　病室アルトキハ其ノ建物ノ構造概要及平面圖（精神病室又ハ傳染病室アルトキハ之ヲ明示スルコト）並ニ各病室ノ患者收容定員
五　診療ニ從事スル醫師ノ氏名及其ノ診療日
六　藥劑師勤務スルトキハ其ノ氏名

前項第一號又ハ第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付前項ニ準ジ届出ヅベシ病室アル建物ノ增築、改築又ハ大修繕ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第七條　現ニ診療所ヲ開設スル醫師更ニ他ノ診療所ヲ開設セントスルトキハ診療所ノ名稱、所在地及管理方法ヲ具シ開設セントスル診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ醫師同時ニ二以上ノ診療所ヲ開設セントスルトキ亦同ジ

前項ノ診療所ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第八條　公共團體病院ニ非ザル診療所ヲ開設シタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ十日以内ニ診療所所在地ノ地方長官ニ届出ヅベシ

一　名稱
二　所在地
三　開設ノ年月日
四　開設ノ目的及維持方法
五　病室アルトキハ其ノ建物ノ構造概要及平面圖（精神病室又ハ傳染病室アルトキハ之ヲ明示スルコト）並ニ各病室ノ患者收容定員
六　管理者ノ氏名
七　診療ニ從事スル醫師ノ氏名及其ノ診療日
八　藥劑師勤務スルトキハ其ノ氏名
九　醫業報酬額

前項第一號又ハ第四號乃至第九號ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付前項ニ準ジ届出ヅベシ病室アル建物ノ增築、改築又ハ大修繕ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第九條　醫師ニ非ザル者（公共團體ヲ除ク）病院ニ非ザル診療所開設ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ診療所所在地ノ地方長官ニ申請スベシ

一　名稱
二　所在地
三　開設ノ目的及維持方法
四　醫業報酬額
五　開設者法人ナルトキハ定款又ハ寄附行爲

前項ノ診療所ノ開設者ハ開設後十日以内ニ前條第一項第三號及第五號乃至第八號ノ事項ヲ診療所所在地ノ地方長官ニ届出ヅベシ

第一項第三號又ハ第四號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事項ニ付診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第一項第一號、第五號又ハ第二項ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付第二項ニ準ジ届出ヅベシ病室アル建物ノ增築、改築又ハ大修繕ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第十條　醫師又ハ公共團體病院ヲ開設セントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ病院所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ第四號若ハ第六號乃至第九號ノ事項ヲ變更セントスルトキ又ハ建物ノ增築、改築若ハ大修繕ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

一　名稱
二　所在地
三　開設者公共團體ナルトキハ開設ノ目的及維持方法
四　敷地ノ面積及平面圖
五　敷地周圍ノ見取圖
六　建物ノ構造概要及平面圖（各室ノ用途ヲ示シ精神病室又ハ傳染病室アルトキハ之ヲ明示スルコト）
七　各病室ノ患者收容定員
八　火災其ノ他ノ災害ニ對スル施設
九　汚物處理及消毒ニ關スル施設
十　竣工ノ豫定期日
十一　開設者公共團體ナルトキハ醫業報酬額

前項ノ病院ノ開設者ハ開設後十日以内ニ第八條第一項第三號、第七號、第八號ノ事項及開設者公共團體ナルトキハ管理者ノ氏名ヲ病院所在地ノ地方長官ニ届出ヅベシ

第一項第一號、第三號、第十號、第十一號又ハ前項ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付前項ニ準ジ屆出ヅベシ

第十一條　醫師ニ非ザル者(公共團體ヲ除ク)病院開設ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ病院所在地ノ地方長官ニ申請スベシ

一　名稱
二　所在地
三　開設ノ目的及維持方法
四　敷地ノ面積及平面圖
五　敷地周圍ノ見取圖
六　建物ノ構造概要及平面圖(各室ノ用途ヲ示シ精神病室又ハ傳染病室アルトキハ之ヲ明示スルコト)
七　各病室ノ患者收容定員
八　火災其ノ他ノ災害ニ對スル施設
九　汚物處理及消毒ニ關スル施設
十　竣工ノ豫定期日
十一　醫業報酬額
十二　開設者法人ナルトキハ定款又ハ寄附行爲

前項ノ病院ノ開設者ハ開設後十日以內ニ第八條第一項第三號及第六號乃至第八號ノ事項ヲ病院所在地ノ地方長官ニ屆出ヅベシ

第一項第三號、第四號、第六號乃至第九號又ハ第十一號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事項ニ付病院所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ建物ノ增築、改築又ハ大修繕ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第一項第一號、第十號、第十二號又ハ第二項ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付第二項ニ準ジ屆出ヅベシ

第十二條　診療所ノ開設者ハ其ノ診療所ニ於テ診療ニ從事スル醫師ノ氏名ヲ開設後遲滯ナク其ノ診療所所在地ヲ區域トスル郡市區醫師會ニ通知スベシ之ニ異動アリタルトキ亦同ジ

第十三條　診療所ノ開設者診療所ヲ休止シ又ハ廢止シタルトキハ十日以內ニ診療所所在地ノ地方長官ニ屆出ヅベシ休止シタル診療所ヲ再開シタルトキ亦同ジ

第十四條　診療所ノ開設者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戶籍法ニ依ル死亡又ハ失踪ノ屆出義務者ハ前條ニ準ジ屆出ヅベシ

第三章　診療所ノ管理

第十五條　診療所ノ開設者醫師ナルトキハ自ラ其ノ診療所ヲ管理スベシ但シ診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ他ノ醫師ヲシテ其ノ診療所ヲ管理セシムルコトヲ得

診療所ノ開設者醫師ニ非ザルトキハ醫師ヲシテ其ノ診療所ヲ管理セシムベシ

第一項但書又ハ前項ノ規定ニ依リ診療所ヲ管理スル醫師ハ其ノ診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外他ノ診療所ヲ管理セザル者タルコトヲ要ス

第十六條　診療所ノ管理者ハ其ノ診療所ノ構造設備ニ付本令又ハ藥劑師法施行規則第十條、第十一條及第十三條ノ規定ニ違反セズ竝ニ危害ノ發生セザルヤウ必要ナル注意ヲ爲スベシ

診療所ノ管理者ハ其ノ診療所ニ存スル藥品ニ付藥品營業竝藥品取扱規則第二十六條乃至第二十九條ノ規定ニ違反セザルヤウ必要ナル注意ヲ爲スベシ

診療所ノ開設者前二項ノ事項ニ關シ管理者ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ必要ナル措置ヲ爲スベシ

第十七條　病院ノ管理者ハ病院ニ醫師ヲ宿直セシムベシ但シ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條　病院又ハ病院ニ非ズト雖モ診療ニ從事スル醫師三人以上ノ常時勤務スル診療所ニ在リテハ開設者ハ之ニ專屬ノ藥劑師ヲ置クベシ但シ診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條　診療所ノ藥劑師藥劑ノ調製ニ當リ醫師ノ處方ニ疑ハシキ廉アルトキハ其ノ醫師ニ質シタル後之ヲ調製スベシ

第二十條　患者ノ收容ニ付テハ左ノ規定ヲ遵守スベシ但シ第一號乃至第四號ニ付テハ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　病室ニハ定員ヲ超エテ患者ヲ收容セザルコト
二　病室ニ非ザル場所ニ患者ヲ收容セザルコト
三　同室ニ收容スルコトニ因リ病毒傳播ノ危險アル患者ヲ他ノ種ノ患者ト同室ニ收容セザルコト
四　精神病患者又ハ傳染病患者ヲ精神病室又ハ傳染病室ニ非ザル病室ニ收容セザルコト
五　病毒傳播ノ危險アル患者ヲ收容シタル室ハ消毒シタル後ニ非ザレバ之ニ他ノ患者ヲ收容セザルコト

第四章　診療所ノ構造設備

第二十一條　診療所ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　診療ニ使用スル電氣、光線、熱又ハ放射線ノ設備ニ付テハ危險防止上適當ナル方法ヲ講ズルコト
二　病室ハ地階又ハ木造建物ノ第三階以上ニハ之ヲ設ケザルコト
三　第三階以上ノ階ニシテ病室ヲ有スルモノニ在リテハ二以上ノ避難階段ヲ設クルコト
四　病室ノ床高ハ〇・四五米以上トスルコト但シ床又ハ床下ニ漆喰叩、「コンクリート」叩其ノ他適當ナル防濕方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
五　病室ノ床木造ナルトキハ其ノ床下ニハ適當ナル換氣方法ヲ講ズルコト
六　病室ノ天井高ハ二・一二米以上トスルコト
七　病室ノ面積ハ患者一人ヲ收容スルモノニ在リテハ六・七五平方米以上、患者二人以上ヲ收容スルモノニ在リテハ患者一人ニ付四・八六平方米以上トスルコト
八　病室ニ於テハ直接外氣ニ面シ室面積ノ八分ノ一以上ニ相當スル面積ヲ開放シ得ベカラシムルコト但シ之ニ代ルベキ適當ナル換氣裝置アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
九　精神病室又ハ傳染病室ハ一般病室ト連隔スルコト
十　精神病室ニ於テハ監護上適當ナル施設ヲ爲スコト
十一　傳染病室アル診療所ニ於テハ消毒所ヲ設ケ又ハ適當ナル消毒施設ヲ爲スコト

第二十二條　病院ノ構造設備ハ前條ノ規定ニ依ルノ外左ノ規定ニ依ルベシ

一　病室ニ通ズル廊下ノ幅ハ內法一・二米以上トスルコト但シ中廊下アルトキハ其ノ幅ハ內法一・六米以上トスルコト
二　第二階ニ病室アルトキハ階段二以上ヲ設クルコト
三　患者ノ使用スル階段ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルコト但シ避難階段ハ此ノ限ニ在ラズ
　イ　階段及踊場ノ幅ハ內法一・二米以上トスルコト
　ロ　蹴上ハ〇・二米以下、踏面ハ〇・二四米以上トスルコト
　ハ　高四米ヲ超ユルモノニ在リテハ高四米以內每ニ踊場ヲ設クルコト
　ニ　螺旋狀ト爲サザルコト
四　消毒所、汚物處理場又ハ汚物溜ハ病室ヨリ適當ナル間隔ヲ保ツコト

五　汚物處理場又ハ汚物溜ハ耐水材料ヲ以テ構造シ防水裝置ヲ施シ且臭氣又ハ汚物ノ散逸ヲ防ゲ爲適當ナル裝置ヲ爲スコト

第二十三條　特別ノ事情アル場合ニ於テハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ本章ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第五章　診療所ノ監督

第二十四條　地方長官ハ當該官吏ヲシテ診療所ノ構造設備ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ當該官吏ヲシテ其ノ證票ヲ携帶セシムベシ

第二十五條　病院ノ病室ハ所在地ノ地方長官ノ檢査ヲ受ケ許可ヲ得タル後ニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ病院ニ非ザル診療所ノ傳染病室ニ付亦同シ

第二十六條　地方長官ハ診療所ノ構造設備本令ニ違反シ又ハ衞生上有害若ハ保安上危險ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ修繕若ハ改築ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條　地方長官ハ診療所ノ管理者犯罪若ハ醫事ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ管理ヲ爲スコト能ハズト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十八條　地方長官ハ診療所ノ開設者本令若ハ本令ニ基ク處分ニ違反シ又ハ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ診療所ニ依ル診療ヲ停止シ又ハ其ノ閉鎖ヲ命ズルコトヲ得

第六章　罰則

第二十九條　醫師ニ非ザル者許可ヲ受ケズシテ診療所ヲ開設シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第二條乃至第五條、第七條第一項、第九條第三項、第十條第一項、第十一條第三項若ハ第十八條ノ規定ニ違反シタル者、第十五條第一項但書若ハ第二項ノ規定ニ依ル管理者ニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケズシテ他ノ診療所ヲ管理シタル者又ハ第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條　第六條、第九條第二項、第四項、第十條第二項、第三項、第十一條第二項、第四項、第十二條乃至第十四條、第十七條、第十九條、第二十條、第二十五條若ハ第三十六條第二項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十四條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ若ハ妨ゲタル者ハ科料ニ處ス

第三十二條　未成年者又ハ禁治產者タル診療所ノ開設者ガ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條　法人タル診療所ノ開設者ガ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ之ヲ法人ノ代表者ニ適用ス

附　則

第三十四條　本令ハ昭和八年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年十一月一日ヨリ施行）

第三十五條　公衆又ハ特定多數人ノ爲往診ノミニ依リ診療ニ從事スル醫師ニ付テハ其ノ住所ヲ以テ診療所ト看做シ第三條乃至第七條、第十二條乃至第十四條及第三十六條第二項並ニ其ノ罰則ノ規定ヲ適用ス

第三十六條　本令施行ノ際現ニ存スル診療所ニシテ其ノ開設ニ付地方長官ノ許可ヲ要スルモノハ本令施行ノ際其ノ許可アリタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ存スル診療所ノ開設者ハ本令施行後三月以内ニ第六條乃至第十一條ノ規定ニ準ジ屆出ヅベシ

本令施行ノ際現ニ存スル診療所ニ付テハ第十七條及第十八條ノ規定ハ本令施行後三月以内之ヲ適用セズ

本令施行後三月以内ニ第三十七條ノ規定ニ依リ附スル名稱ニ付テハ第二條第二項及第三條ノ規定ハ昭和十五年十二月三十一日迄之ヲ適用セズ

●齒科診療所取締規則

昭和八年十月四日
內務省令第三十一號

齒科診療所取締規則左ノ通定ム

齒科診療所取締規則

第一條　齒科診療所ト稱スルハ公衆又ハ特定多數人ノ爲齒科醫業ヲ爲ス場所ヲ謂ヒ齒科病院ト稱スルハ齒科診療所ニシテ患者十人以上ノ收容施設ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　齒科醫師ニ非ザル者（公共團體ヲ除ク）齒科病院ニ非ザル齒科診療所ヲ開設セントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ齒科診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一　名稱
二　所在地
三　開設ノ目的及維持方法
四　齒科醫業報酬額
五　開設者法人ナルトキハ定款又ハ寄附行爲

前項ノ齒科診療所ノ開設者ハ開設後十日以內ニ左ノ各號ノ事項ヲ齒科診療所所在地ノ地方長官ニ屆出ヅベシ

一　開設ノ年月日
二　病室アルトキハ其ノ建物ノ構造概要及平面圖並ニ各病室ノ患者收容定員
三　管理者ノ氏名
四　診療ニ從事スル齒科醫師ノ氏名及其ノ診療日

第一項第三號又ハ第四號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事項ニ付齒科診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第一項第一號、第五號又ハ第二項各號ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付第二項ニ準ジ屆出ヅベシ病室アル建物ノ增築、改築又ハ大修繕ヲ爲シタルトキ亦同シ

第三條　齒科醫師ニ非ザル者（公共團體ヲ除ク）齒科病院ヲ開設セントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ齒科病院所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一　名稱
二　所在地
三　開設ノ目的及維持方法
四　敷地ノ面積及平面圖
五　敷地周圍ノ見取圖
六　建物ノ構造概要及平面圖（各室ノ用途ヲ明示スルコト）
七　各病室ノ患者收容定員
八　火災其ノ他ノ災害ニ對スル施設
九　竣工ノ豫定期日
十　齒科醫業報酬額
十一　開設者法人ナルトキハ定款又ハ寄附行爲

前項ノ齒科病院ノ開設者ハ開設後十日以內ニ前條第二項各號ノ事項ヲ齒科病院所在地ノ地方長官ニ屆出ヅベシ

第一項第三號、第四號、第六號乃至第八號又ハ第十號ノ事項ヲ變更セン

トスルトキハ其ノ事項ニ付齒科病院所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

建物ノ增築、改築又ハ大修繕ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第一項第一號、第九號、第十一號又ハ第二項ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事項ニ付第二項ニ準ジ屆出ヅベシ

第四條　齒科診療所ノ開設者ハ其ノ齒科診療所ニ於テ診療ニ從事スル齒科醫師ノ氏名ヲ開設後遲滯ナク其ノ齒科診療所所在地ヲ區域トスル道府縣齒科醫師會ニ通知スベシ之ニ異動アリタルトキ亦同ジ

第五條　齒科診療所ノ開設者齒科醫師ナルトキハ自ラ其ノ齒科診療所ヲ管理スベシ但シ齒科診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ他ノ齒科醫師ヲシテ其ノ齒科診療所ヲ管理セシムルコトヲ得

齒科診療所ノ開設者齒科醫師ニ非ザルトキハ齒科醫師ヲシテ其ノ齒科診療所ヲ管理セシムベシ但シ診療所ニ附設スル齒科診療所ニ在リテハ診療所ヲ管理スル醫師ヲシテ之ヲ管理セシムルコトヲ得

第一項但書又ハ前項ノ規定ニ依リ齒科診療所ヲ管理スル齒科醫師ハ其ノ齒科診療所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外他ノ齒科診療所ヲ管理セザル者タルコトヲ要ス

第六條　第二條第一項又ハ第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　第二條第三項若ハ第三條第三項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第五條第一項但書若ハ第二項ノ規定ニ依ル管理者ニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケズシテ他ノ齒科診療所ヲ管理シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八條　第二條第二項、第四項、第三條第二項、第四項、第四條若ハ第十三條第二項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九條ノ規定ニ依リ準用スル診療所取締規則第二十四條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ若ハ妨ゲタル者ハ科料ニ處ス

第九條　診療所取締規則第二條乃至第八條、第十條、第十三條、第十四條、第十六條、第二十條乃至第二十八條、第三十二條及第三十三條竝ニ其ノ罰則ノ規定ハ之ヲ齒科診療所ニ準用ス

附　則

第十條　本令ハ昭和八年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和八年十一月一日ヨリ施行）

第十一條　公衆又ハ特定多數人ノ爲往診ノミニ依リ診療ニ從事スル齒科醫師ニ付テハ其ノ住所ヲ以テ齒科診療所ト看做シ第四條、第十三條第二項及第九條ノ規定ニ依リ準用スル診療所取締規則第三條乃至第七條、第十三條、第十四條竝ニ其ノ罰則ノ規定ヲ適用ス

第十二條　本令ノ適用ニ付テハ齒科專門ヲ標榜スル醫師ハ之ヲ齒科醫師ト看做ス

第十三條　本令施行ノ際現ニ存スル齒科診療所ニシテ其ノ開設ニ付地方長官ノ許可ヲ要スルモノハ本令施行ノ際其ノ許可アリタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ存スル齒科診療所ノ開設者ハ本令施行後三月以內ニ第二條、第三條又ハ第九條ノ規定ニ依リ準用スル診療所取締規則第六條乃至第八條若ハ第十條ノ規定ニ準ジ屆出ヅベシ

第十四條　本令施行ノ際現ニ存スル齒科診療所ノ昭和八年九月一日以前ヨリ附スル名稱ニ付テハ第九條ノ規定ニ依リ準用スル診療所取締規則第二條第二項及第三條ノ規定ハ昭和十五年十二月三十一日迄之ヲ適用セズ

●診療所取締規則及齒科診療所取締規則施行細則

昭和八年十二月十一日
山梨縣令第六十八號

診療所取締規則及齒科診療所取締規則施行細則左ノ通定ム

診療所取締規則及齒科診療所取締規則施行細則

第一條　診療所取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第三條但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ名稱ヲ附セントスル目的及經營ノ內容ヲ具シ申請スヘシ

第二條　規則第六條及第八條乃至第十一條ノ規定ニ依ル屆書ニハ同條所定事項ノ外診療所ノ開設者タル醫師及診療所ヲ管理セシメ又ハ診療ニ從事セシムル醫師竝勤務セシムル藥劑師ノ前業務地及登錄番號竝登錄年月日ヲ記載スヘシ

第三條　規則第七條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスルモノハ同條所定事項ノ外開設ヲ要スル理由ヲ具シ申請スヘシ

第四條　規則第九條乃至第十一條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ同條所定事項ノ外開設者ノ本籍、住所、氏名及生年月日（法人ナルトキハ其ノ代表者ノ住所氏名）ヲ記載スヘシ

第五條　規則第十五條第一項ノ但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスルトキハ自ラ管理スルコト能ハサル理由ヲ具シテ申請スヘシ

前項ニ依ル管理者ヲ變更シタルトキハ十日以內ニ知事ニ屆出ツヘシ規則第十五條第三項ノ許可ヲ受ケントスルモノハ現ニ管理シツヽアル診療所ノ名稱、所在地及更ニ他ノ診療所ヲ管理スルモ支障ナキ理由ヲ具シ申請スヘシ

第六條　規則第十七條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスルモノハ當該病院ニ收容スル患者ノ病類及宿直ヲ爲サザルモ支障ナキ理由ヲ具シ申請スヘシ

第七條　規則第十八條但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスルモノハ其ノ專門科名及藥劑師ヲ置カサルモ支障ナキ理由ヲ具シ申請スヘシ

第八條　診療所ニ於ケル傳染病室ノ位置及構造ハ規則第二十條及第二十一條ノ規定ニ依ルノ外左ノ制限ニ從フヘシ

一　病室ハ平屋建トシ他ノ建物ト三、六二米以上ノ間隔ヲ置キ周圍ニ高サ一、八一米以上ノ牆塀ヲ設クルコト

一　病室ノ地盤ハ厚サ六糎以上ノ「コンクリート」トシ床ノ高サハ〇、六米以上壁及床ハ板張ト爲シ床板ハ二糎以上トスルコト

第九條　規則第二十四條ニ依リ診療所ノ構造設備ニ付檢査ヲ行フ官吏ノ携帶スヘキ證票ハ別記樣式トス

第十條　齒科診療所取締規則第二條及第三條ノ許可申請及屆出ニ付テハ第二條及第四條ノ規定ヲ準用ス

齒科診療所取締規則第五條ノ許可申請ニ付テハ第五條ノ規定ヲ準用ス

齒科診療所ノ開設及檢査其ノ他ノ手續ニ付テハ第一條、第三條、第八條、第九條、第十一條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　規則竝本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ總テ診療所々在地所轄警察署ヲ經由スヘシ

第十二條　第五條第二項ノ規定ニ違反シタルモノハ科料ニ處ス

附　則

第十三條　規則第三十七條ニ依ル診療所ノ名稱ニシテ尙引續キ之ヲ使用セントスルモノハ昭和八年十二月三十日迄ニ知事ニ屆出ツヘシ

別記樣式

表

診療所檢査員之證
官職　氏名

十糎　七糎

裏

山梨縣印

〔山梨警〕

●診療所取締規則及齒科診療所取締規則施行手續

昭和八年十二月十一日
山梨縣訓令甲第三十五號

診療所取締規則及齒科診療所取締規則施行手續左ノ通定ム

診療所取締規則及齒科診療所取締規則施行手續

第一條　診療所取締規則施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第一條乃至第三條、第五條、第七條、第十三條ノ許可申請書又ハ屆書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

第二條　細則第四條ニ依ル許可申請書ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

一　申請書記載事項ハ事實ト相違ナキヤ否ヤ
二　開設者ノ性質、素行、來歷、前科ノ有無、資產及信用ノ狀況
三　經營ノ目的及射利本位ニ非ラサルヤ
四　附近住民ノ意嚮

第三條　細則第六條ノ許可ハ眼科、性病科（花柳病科）專門ニシテ他ノ患者ヲ收容セサル場合ニ限リ許可ヲ與フルコト

第四條　診療所取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第二十條但書ニ依ル願出アリタルトキハ臨時救急ノ場合又ハ精神病者監置ヲ要スル場合ニ於テ他ニ收容ノ方法ナキトキニ限リ許可ヲ與フヘシ

前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ要旨ヲ警察部長ニ報告スヘシ

第五條　規則第二十六條乃至第二十八條ニ依ル處分ヲ要スト認ムルトキハ其ノ理由ヲ詳具シ警察部長ニ報告スヘシ

第六條　警察部及警察署ニハ別記樣式ノ臺帳ヲ備ヘ異動ノ都度之ヲ整理ス

ヘシ

第七條　第一條第二條第四條乃至第六條ノ規定ハ齒科診療所ニ關スル取扱ニ付之ヲ準用ス

〔山梨警〕

別記樣式（用紙美濃紙）

名稱	所在地	許可又ハ屆出年月日	開設年月日	內務大臣ノ許可ヲ受ケタル診療科名	病室ノ坪數	患者收容定員	精神病室又ハ傳染病室ノ坪數及患者收容定員	二ヶ所以上ノ診療所有無 許可年月日	二ヶ所以上ノ診療所有無 場所	備考

經營者 本籍	經營者 住所	經營者 氏名	經營者 生年月日	管理者氏名	醫師氏名	診療日	藥劑師氏名

記載例

一、無料診療、輕費診療其ノ他醫業報酬ノ低廉ナルコトヲ示ス事項ニ付知事ノ許可ヲ受ケタルモノアラハ其ノ要領ヲ附記スルコト
二、診療所ノ名稱ニ付知事ノ許可ヲ受ケタルモノアラハ其ノ許可年月日ヲ附記スルコト
三、同一人ニシテ二ヶ所以上診療所ヲ有スルトキハ各別紙ニ登載スルコト
四、往診ノミニヨリ診療ニ從事スル醫師アラハ其ノ旨明記スルコト

●醫業類似行爲取締規則

昭和八年六月五日
山梨縣令第四十一號

醫業類似行爲取締規則左ノ通定ム

醫業類似行爲取締規則

第一條　本令ニ於テ醫業類似行爲ト稱スルハ他ノ法令ニ依リ認メラレタル資格ヲ有シ其ノ範圍內ニ於テ爲ス診療又ハ施術ヲ除クノ外疾病ノ治療又ハ保健ノ目的ヲ以テ光、熱、器械器具、其ノ他ノ物ヲ使用シ若ハ應用シ又ハ四肢ヲ運用シテ他人ニ施術ヲ爲スヲ謂フ

第二條　未成年者、精神病者及傳染性疾患アル者ハ醫業類似行爲ヲ業ト爲スコトヲ得ス

第三條　醫業類似行爲ヲ業ト爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ屆出ツヘシ

一　本籍住所氏名生年月日
二　業務所ノ所在地
三　醫業類似行爲ノ名稱及施術方法ノ詳細

四　料金額（料金額ノ定ナキモノニ在リテハ其ノ旨）
五　戸籍謄本又ハ抄本
六　履歴書
七　精神病及傳染性疾患ナキコトヲ證明シタル醫師ノ診斷書

前項第一號乃至第五號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ十日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ

第四條　醫業類似行爲ヲ業トスル者出張所ヲ設ケ又ハ五日以上滯留シテ業務ヲ爲サムトスルトキハ開始前ニ之ヲ廢業シタルトキハ十日以内ニ、出張所、滯留所、所在地所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第五條　醫業類似行爲ヲ業トスル者休業又ハ所在不明三箇月以上ニ及ヒタルトキ竝ニ屆出後二箇月以内ニ開業セサルトキハ廢業シタルモノト看做ス

第六條　醫業類似行爲ヲ業トスル者家族雇人其ノ他ノ者ヲシテ業務ニ從事セシメムトスルトキハ本人ノ本籍住所氏名生年月日ヲ記シ本令第三條第七號ノ證明書ヲ添付所轄警察署ニ屆出ツヘシ

醫業類似行爲ヲ業トスル者ハ前項ノ從業者從業セサルニ至リタルトキ又ハ其ノ屆出事項ニ異動アリタルトキハ七日以内ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第七條　醫業類似行爲ニ關スル廣告又ハ看板ニハ左ノ事項ヲ表示スルコトヲ得ス

一　施術ニ關スル證明若ハ謝狀又ハ施術ノ效果ニ關スル實例
二　他ノ診療若ハ施術ヲ誹謗シ又ハ之ヲ妨クルカ如キ字句及圖畫
三　施術者ノ技能及經歴
四　病院醫院診療所又ハ之ニ紛ハシキ名稱

第八條　醫業類似行爲ヲ業トスル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　學位稱號其ノ他法令ノ規定ニ依リ診療又ハ施術ヲ爲ス者ニ紛ハシキ稱呼ヲ用ヒサルコト
二　他ノ法令ノ規定ニ依ル診療又ハ施術ヲ妨クルカ如キ言動ヲ爲サヽルコト
三　講演其ノ他ノ方法ニ依リ其ノ業務ニ關シ虚僞又ハ誇大ノ言動ヲ爲サヽルコト
四　料金額ハ業務所ノ見易キ場所ニ掲示スルコト但シ其ノ定ナキモノハ其ノ旨掲示スルコト
五　帳簿ヲ設ケ施術シタル者ノ住所氏名年齢ヲ記載シ置クコト
六　身體被服ハ常ニ清潔ヲ保持シ手指ハ毎施術前之ヲ消毒スルコト
七　施術ニ用フル器械器具其ノ他ノ物ニシテ被施術者ノ身體ニ直接接觸スル者ハ一人毎ニ之ヲ消毒スルコト
八　被施術者ニ供スル椅子蒲團其ノ他ノ物件ハ清潔ナルモノヲ用ヒ時々日光ニ曝スコト
九　料金額ノ定ナキモノハ之ヲ請求セサルコト
十　業務上知得シタル祕密ヲ故ナク他人ニ漏洩セサルコト

第九條　前條第六號第七號ノ消毒ハ左ノ各號ノ藥品ノ一ヲ以テ洗滌又ハ拭掃スヘシ

一　石炭酸水（防疫用石炭酸三分水九十七分）
二　「クレゾール」（水「クレゾール」石鹼液三分水九十七分）
三　稀酒精（日本藥局方）

第十條　知事ハ醫業類似行爲ヲ業トスル者ニシテ必要アリト認ムル者ニ對シ衛生官吏ヲシテ業務ニ關スル智識ニ付キ試問ヲ行フコトアルヘシ

第十一條　醫業類似行爲ヲ業トスル者ハ當該吏員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　知事又ハ所轄警察署長ハ本令ニ定ムルモノヽ外取締上必要ナル事項ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條　醫業類似行爲ヲ業トスル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

一　本令又ハ本令ニ基キ發スル命令ニ違反シ若ハ其ノ業務ニ關シ他ノ法令ニ違反シタルトキ
二　公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊スノ虞アリト認メタルトキ
三　施術カ無效又ハ衛生上有害ナリト認メタルトキ
四　本令第十條ニ依リ行フ試問ノ結果不適當ト認メタルトキ
五　素行不良其ノ他業者トシテ不適當ト認ムル行爲アリタルトキ

第十四條　醫業類似行爲ヲ業トスル者廢業シタルトキハ本人ヨリ、死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ、十日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ

第十五條　第二條第三條第四條第六條第七條第八條第十一條ニ違反シ又ハ第十二條ニ基キ發スル命令若ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十六條　醫業類似行爲ヲ業トスル者ハ其ノ家族雇人同居者又ハ從業者カ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルヽコトヲ得ス

第十七條　本令ノ規定ハ精神療法ヲ業トスル者ニ準用ス

第十八條　本令施行ノ際現ニ醫業類似行爲ヲ業トスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ規定ニ依リ屆出ツヘシ

第十九條　本令ニ依ル屆出ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

●醫業類似行爲取締規則施行手續

昭和八年六月五日
山梨縣訓令甲第十六號

警察部　警察署

醫業類似行爲取締規則施行手續左ノ通定ム

醫業類似行爲取締規則施行手續

第一條　警察署醫業類似行爲取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第三條ノ屆書ヲ受ケタルトキハ記載事項カ事實ト相違ナキヤ否ヤ及本人ノ性質素行前科ノ有無等調査ヲ遂ケ報告スヘシ

第二條　警察署規則第五條ニ該當スル者アルトキハ其ノ事實ヲ報告スヘシ

第三條　警察部警察署ニハ別記樣式ノ醫業類似行爲者名簿ヲ備ヘ異動ノ都度加除訂正スヘシ

第四條　警察署ハ醫業類似行爲ヲ業トスル者ニシテ業務上必要ナル智識乏シク規則第十條ニ依リ試問ノ必要アリト認ムル者アルトキハ報告スヘシ

第五條　警察署ハ醫業類似行爲ヲ業トスル者ニ對シ取締上重要ナル事項ニシテ規則第十二條ニ依ル知事ノ命令ヲ必要トスル場合ハ其ノ事實ヲ報告スヘシ

第六條　警察署ハ醫業類似行爲ヲ業トスル者ニシテ規則第十三條ノ處分ヲ必要ト認ムル者アルトキハ意見ヲ具シ其ノ事實ヲ報告スヘシ

届出受理年月日	
療術行爲ノ名稱	
本籍	
住所	
氏名	
生年月日	
業務所所在地	
料金額	
施術方法	

第十二章　産婆看護婦按摩鍼灸術理容術

●産婆規則

明治三十二年七月十九日
勅令第三百四十五號

改正　明治四三年五月勅令第二一八號、大正六年七月第七二號、昭和二年三月第三九號、四年六月第一六八號、八年六月第一六八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ産婆規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

産婆規則

第一條　産婆タラントスル者ハ二十年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ産婆名簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

一　産婆試驗ニ合格シタル者

二、内務大臣ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者

三　朝鮮、臺灣又ハ關東州ノ産婆試驗ニ合格シタル者ニシテ内務大臣ノ適當ト認メタル者

四　外國ノ學校若ハ講習所ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ産婆免許ヲ得タル者ニシテ内務大臣ノ適當ト認メタル者

第二條　産婆試驗ハ地方長官之ヲ擧行ス

第三條　一箇年以上産婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ産婆試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　産婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス

産婆名簿ニ登錄ヲ受ケントスル者ハ産婆試驗合格證書、卒業證書又ハ免許證ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

産婆名簿ノ登錄事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ産婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ

産婆名簿ノ登錄事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第五條　産婆其ノ住所ヲ移シタル爲管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ産婆名簿取消ノ登錄ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ産婆名簿ノ登錄ヲ願出ツヘシ

前項ノ登錄換ヲ爲ササル者ハ産婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　産婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登錄ヲ願出ツヘシ

産婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登錄ヲ願出ツヘシ

第七條　産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ産科器械ヲ用ヰ藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切リ灌腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　産婆ハ産婆名簿ニ登錄ヲ受ケサル者ニ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ス

第九條ノ二　産婆ハ自ラ檢案セスシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス

第十條　産婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルコトヲ得産婆名簿登錄前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ

第十一條　試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試驗ヲ無效トスルコトヲ得若シ已ニ登錄ヲ受ケタルトキハ其ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第十二條　地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得

第十三條　産婆試驗ヲ受ケントスル者又ハ産婆名簿ニ登錄ヲ願出ツル者ニシテ試驗又ハ登錄ノ以前墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ナルトキハ試驗又ハ登錄ヲ許可セサルコトヲ得

第十四條　産婆ニシテ三箇年間其ノ業ヲ營マサルトキ又ハ癲癇白痴不具廢疾ト爲リ其ノ業ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ産婆名簿ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第十五條　産婆名簿ノ登錄、登錄ノ取消、主要ナル登錄事項ノ訂正並産婆業ノ禁止又ハ停止及其ノ解除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十五條ノ二　産婆試驗及産婆名簿ニ關スル費用ハ棒太ニ於ケルモノヲ除クノ外北海道地方費及府縣ノ負擔トス

第十六條　左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　産婆名簿ニ登錄ヲ受ケスシテ産婆ノ業務ヲ爲シタル者

二　産婆名簿ノ登錄ヲ取消サレタル時産婆ノ業務ヲ爲シタル者

三　産婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者

四　第三條ニ關シ虚僞ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者

五　第七條乃至第九條ノ二ニ違背シタル者

第十七條　第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第十七條ノ二　本令ノ棒太ニ於ケル適用ニ付テハ内務大臣トアルハ拓務大臣、地方長官トアルハ棒太廳長官トス

附　則

第十八條　本令施行以前内務省又ハ地方廳ヨリ産婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ本令施行後六箇月以内ニ地方長官ニ願出テ産婆名簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十九條　地方長官ハ産婆ニ乏シキ地ニ限リ當分ノ内出願者ノ履歴ニ依リ業務ノ地域及五箇年以内ノ期限ヲ定メ産婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得

前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ産婆ニ準シ本令ヲ適用ス但シ産婆名簿ニ登錄スル限ニ在ラス

第二十條　本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●産婆規則施行細則

昭和七年十一月十日
山梨縣令第五十五號

改正　昭和一〇年一二月縣令第四八號

産婆規則施行細則左ノ通定ム

産婆規則施行細則

第一條　本則ニ於テ規則ト稱スルハ産婆規則、細則ト稱スルハ産婆規則施行細則ヲ謂フ

第二條　産婆名簿ニ登錄ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出ツヘシ

一　本籍、住所、氏名、生年月日

二　開業地

三　規則第四條第二項ノ證書ノ寫

四　履歴書

五　戸籍謄本又ハ抄本

第三條　規則第四條第三項ニ依ル訂正ニシテ族籍氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ戸籍謄本又ハ抄本ヲ添付シ知事ニ願出ツヘシ

第四條　規則第十九條ノ規定ニ依ル免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出ツヘシ

一　本籍、住所、氏名、生年月日

二　業務ノ地域及年限

三　履歴書

四　戸籍謄本又ハ抄本

第五條　産婆名簿ノ謄本ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ手數料五拾錢ヲ添ヘ知事ニ願出ツヘシ

第六條　産婆ハ別記第一號樣式ノ産婆臨床簿ヲ備ヘ取扱ノ都度所定事項ヲ記載シ十箇年間保存スヘシ

第七條　産婆ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス經歴技能ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　産婆休業又ハ復業シタルトキハ十日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ

第九條　産婆ハ死産證書死胎檢案書及産婆臨床簿ニ虚僞ノ事項ヲ記載スヘカラス

第十條　産婆ハ郡市ノ區域ニ依ル産婆會ヲ設立スヘシ但シ土地ノ狀況其ノ他特別ノ事情アルトキハ郡市ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第十一條　産婆會ノ設立ハ會員タル者ノ中ヨリ代表者ヲ定メ代表者ニ於テ會則竝ニ創立總會ノ決議書ヲ添付シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　産婆會ノ會則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　名稱及區域

二　事務所ノ所在地

三　役員ノ種別、數、職務權限選任解任及任期ニ關スル事項

四　會議ニ關スル事項

五　經費ノ賦課徴收竝ニ會計ニ關スル事項

六　會員ノ遵守スヘキ事項

七　助産料其ノ他ノ料金ニ關スル標準

八　會則違反者ニ對スル處分方法

九　會員ノ互助救濟ニ關スル事項

會則ヲ變更セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　産婆會ハ毎年一回以上總會ヲ開クヘシ

總會ヲ開カントスルトキハ七日以前ニ開會ノ日時場所及議案ヲ具シ知事ニ屆出ツヘシ

臨時總會ニシテ前項ノ期間内ニ屆出ツル事能ハサル場合ハ其ノ決定ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

總會ニ於テ議決シタル事項ハ議事ノ要領其ノ他參考トナルヘキ書類ヲ添付シ十日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ

第十四條　役員ヲ選任シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ十日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第十五條　知事ハ公益上必要ト認ムルトキハ役員ノ改選及會則ノ變更ヲ命シ又ハ其ノ認可ヲ取消シ若クハ決議事項ノ取消ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條　産婆會ハ縣聯合産婆會ヲ組織スルコトヲ得

縣聯合産婆會ニハ本則第十一條乃至第十五條ヲ準用ス

知事ハ公益上必要アリト認ムル場合ハ縣聯合産婆會ノ解散ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條　産婆會及縣聯合産婆會ハ知事ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

産婆會及縣聯合産婆會ハ産婆ノ業務ニ關スル事項ニ付キ意見ヲ知事ニ建議スルコトヲ得

第十八條　縣聯合産婆會解散シタルトキハ五日以内ニ會長ヨリ知事ニ屆出ツヘシ

第十九條　産婆試驗ハ毎年二回之ヲ行フ其ノ日時場所ハ其ノ都度別ニ之ヲ告示ス

第二十條　産婆試驗ヲ受ケントスル者ハ左記各號ノ事項ヲ具シ知事ニ願出ツヘシ

一　本籍、住所、氏名、生年月日
二　履歴書
三　戸籍謄本又ハ抄本
四　産婆試驗規則第五條ノ證明書
五　寫眞（書類提出前五ケ月以内ニ撮影シタル名刺形半身無臺紙ノモノヲ美濃紙二ツ折表面中央ニ貼布シ住所、氏名、生年月日、撮影年月日ヲ記シ）一枚

第二十一條　前條試驗ヲ願出ツルモノハ試驗手數料二圓ヲ納付スヘシ但シ郵便爲替又ハ小切手ヲ以テ納付スルコトヲ得

納付シタル手數料ハ之ヲ還付セス

實地試驗ノミヲ願出ツル場合モ前各項ニ同シ

第二十二條　試驗ニ關シ不正行爲アリタル者ハ受驗ヲ停止シ又ハ其ノ試驗ヲ無效トス

第二十三條　試驗ニ合格シタル者ニハ別記第二號樣式ノ合格證書、學說試驗ニ合格シタル者ニハ第三號樣式ノ證明書、實地試驗ニ合格シタル者ニハ第四號樣式ノ合格證明書ヲ交付ス

第二十四條　規則又ハ本則ニ依リ提出スヘキ願屆ハ試驗ニ關スルモノヲ除クノ外總テ所轄警察署（産婆會縣聯合産婆會ニアリテハ事務所々在地所轄警察署）ヲ經由スヘシ

第二十五條　第九條ニ違反シタル者ハ刑法ノ適用ヲ受クル場合ノ外拘留又ハ科料ニ處ス

第二十六條　第六條、第七條、第八條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第二十七條　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十八條　明治三十二年十一月縣令第四十二號産婆試驗出願手續、明治三十二年十一月縣令第四十三號産婆業免許之件、明治三十二年十一月縣令第四十四號産婆名簿登錄出願手續ハ之ヲ廢止ス

一號樣式

番號	診療者住所氏名	年月日	初診年月日	初診ノ際ニ於ケル症狀ノ現況	往診年月日	出産、死産、流産男女ノ別其ノ年月日	分娩ノ難易	備考

二號樣式

十八センチメートル

二十六センチメートル

合格證書

右産婆學說及實地試驗ニ合格シタルヲ以テ此證書ヲ交付ス

昭和　年　月　日

山梨縣知事　印

三號樣式

十八センチメートル

二十六センチメートル

證明書

産婆學說試驗ニ合格シタルヲ以テ此ノ證明書ヲ交付ス

昭和　年　月　日

山梨縣知事　印

四號樣式

十八センチメートル

二十六センチメートル

合格證書

産婆實地試驗ニ合格シタルコトヲ證ス

昭和　年　月　日

山梨縣知事　印

●産婆規則施行細則執行手續

昭和七年十一月十日
山梨縣訓令甲第二十二號

産婆規則施行細則執行手續左ノ通定ム

産婆規則施行細則執行手續

警察署

第一條　産婆規則施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第二條ノ願書類ヲ受理シタルトキハ事實ト相違ナキヤ否業務ニ關スル犯罪、禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪ノ有無其ノ年月日等調査ヲ遂ケ報告スヘシ

第二條　細則第四條ノ願書ヲ受理シタルトキハ事實ト相違ナキヤ否竝ニ附近開業産婆ノ有無及距離等ヲ調査シ免許ノ認否ニ關スル意見ヲ附シ遅遅

スヘシ

第三條　細則第十一條ノ認可願書類ヲ受理シタルトキハ意見ヲ附シ進達スヘシ

第四條　産婆名簿登錄規則第二條ニ準スル産婆臺帳ヲ備ヘ所轄內居住ノ産婆ヲ登載シ異動ノ都度之ヲ整理スヘシ

●産婆規則第一條第三號該當者

昭和八年六月二十四日
內務省告示第百九十號

産婆規則第一條第三號ニ該當スル者左ノ如シ

一　昭和八年一月以後行ヒタル朝鮮ノ産婆試驗ニ合格シタル者但シ昭和六年八月以前行ヒタル學說試驗ニ合格シタル者ヲ除ク

二　昭和八年一月以後行ヒタル臺灣ノ産婆試驗ニ合格シタル者

三　昭和八年一月以後行ヒタル關東州ノ産婆試驗ニ合格シタル者

●産婆名簿登錄規則

明治三十二年九月六日
內務省令第四十八號

改正　明治四三年五月內務省令第一六號、昭和二年三月第一七號

産婆名簿登錄規則左ノ通定ム

産婆名簿登錄規則

第一條　産婆名簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

一　登錄番號、登錄年月日

二　族籍（外國人ナルトキハ其國籍）、氏名、年齡、住所

三　産婆規則第一條規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月日竝同條第一號ノ資格ニ付テハ試驗ヲ受ケタル地方廳名

四　開業地（住所以外ノ地ニ於テ開業スルモノ又ハ出張所ヲ設クルモノハ之ヲ記載ス）

五　業務ニ關スル犯罪、禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪（其ノ年月日事由）

六　産婆業ノ禁止、停止、解除（其ノ年月日事由）

七　名簿取消ノ年月日、事由

第二條　産婆名簿ハ別記樣式ニ依リ調製スヘシ

第三條　産婆ノ業ヲ營マントスル者ハ本令第一條第二號第三號第四號ノ事項ヲ明記シテ其ノ住所地ヲ管轄スル地方廳ニ願出テ産婆名簿ニ登錄ヲ受クヘシ

第四條　産婆規則第五條第一項ノ場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ハ産婆名簿ノ取消ノ登錄ヲ爲シ其ノ登錄事項ノ謄本ヲ以テ後ノ管轄地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

後ノ管轄地方廳ハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟タス本人ノ願出ニ依リ直ニ産婆名簿ニ登錄ヲ爲スヘシ但必要ト認ムル場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟チ又ハ之ニ照會ヲ經タル後登錄ヲ爲スヘシ

第五條　産婆名簿ノ訂正又ハ取消ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ部分ニ朱線ヲ畫シ訂正又ハ取消ノ事由年月日ヲ朱記スヘシ

第六條　産婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ハ名簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

（別記）

産婆名簿樣式　用紙美濃紙

何	何年何月生	誰
種別	記事	
登錄番號	第　號	
登錄年月日	明治「何」年「何」月「何」日	
族籍	「何」道府縣	士族 平民
住所		
産婆名簿		
開業地、資格、資格取得年月日 受驗地方廳名		
犯罪處分及行政處分		
名簿取消ノ年月日		

●産婆試驗規則

明治三十二年九月六日
內務省令第四十七號

改正　昭和二年三月內務省令第一六號

産婆試驗規則左ノ通定ム

産婆試驗規則

第一條　産婆試驗願出ノ期日擧行ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ告示ス

第二條　試驗科目ハ左ノ如シ

第一　學說
　第一　正規姙娠分娩及其ノ取扱法
　第二　正規産褥ノ經過及褥婦生兒ノ看護法
　第三　異常ノ姙娠分娩及其ノ取扱法
　第四　姙婦産婦褥婦生兒ノ疾病消毒ノ方法及産婆心得

第二　實地
　第一　實地試驗若ハ模型試驗

第三條　學說試驗ニ合格シタル者ニ非レハ實地試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　學說試驗ニ合格シ實地試驗ニ落第シタル者又ハ實地試驗ヲ受ケサル者ハ次回以後ノ試驗ニ於テ實地試驗ノミヲ受クルコトヲ得

第五條　産婆試驗ヲ受ケントスル者ハ産婆學校産婆養成所等ノ卒業證書若ハ修業證書又ハ産婆若ハ醫師二名ノ證明アル修業履歷書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ヘシ但第四條ニ依リ實地試驗ノミヲ受ケントスル者ハ學說試驗合格ノ證明書ヲ添ヘ願出ヘシ

地方長官前項ノ願出ヲ許可スルトキハ指令ヲ要セス其ノ願書ヲ受理シ許可セサルトキハ之ヲ却下ス

第六條　削除

第七條　地方長官ハ學說試驗及實地試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付シ學說試驗ニ合格シタル者ニハ證明書ヲ交付ス

第八條　地方長官ハ受驗人心得其ノ他試驗場ノ整理ニ關スル條規ヲ定メ試驗場ニ掲示スヘシ

當該官吏ハ受驗人心得其ノ他前項ノ條規ニ違背シタル者ニ退場ヲ命スルコトヲ得

●産婆試驗委員組織權限

明治三十三年三月
訓第三〇號

第一條　産婆試驗委員ハ知事ノ指揮ヲ受ケ試驗ヲ行フモノトス

第二條　産婆試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

一　委員長　一人
一　委員　若干人
一　書記　一人

第三條　委員長ハ警察部長トシ委員ハ警部、警察醫、縣立病院醫員中ヨリ選任シ書記ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　委員長ハ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ委員ハ試驗ノ成績ヲ審査評定シ書記ハ雜務ニ服ス

第五條　委員及書記ハ委員長ノ申請ニ依リ知事之ヲ任免ス

第六條　委員長事故アルカ又ハ缺員アリシ場合ハ知事其代理者ヲ定ム

第七條　委員長ハ試驗當日ヨリ三日前ニ試驗問題ヲ定メ知事ノ認定ヲ請フヘシ

第八條　委員長ハ試驗後二日以内ニ合格者ヲ定メ證書交付ノ申請ヲ爲スヘシ

第九條　合格證書及證明書ハ左ノ書式ニ依リ調製スヘシ

●産婆受驗人心得及試驗場條規

明治三十三年三月
山梨縣告示第七十三號

第一條　産婆試驗ハ當廳ヨリ告示シタル試驗場ニ於テ之ヲ受クヘシ

第二條　試驗ヲ受ケントスルモノハ試驗當日午前八時迄ニ試驗場ニ出頭シ名刺ヲ差出スヘシ
病氣其他ノ事故ニ依リ當日出頭シ難キモノハ前日迄ニ屆書ヲ差出スヘシ

第三條　受驗人ハ委員ヨリ番號札ヲ受取リ控所ニ集合スヘシ

第四條　試驗ハ午前九時ニ開始シ午後四時ニ閉止ス

第五條　受驗人ハ豫メ渡シ置キタル番號札ニ依リ順次著席スヘシ

第六條　番號札ヲ所持セサルモノハ場内ニ入ルヲ許サス

第七條　受驗人ハ書籍又ハ書類ヲ携ヘテ入場スルコトヲ得ス

第八條　受驗人ハ答案ヲ作ルニ用ユル爲メ筆墨ヲ携帶スヘシ

第九條　著席シタルトキハ互ニ談話スヘカラス

第十條　許可ナクシテ席ヲ離ルヘカラス

第十一條　學術試驗ハ一問題一時間トス但シ問題ニ對シテハ質問スルコトヲ得ス

第十二條　學術試驗ノ答案ハ筆答トシ實地試驗ノ答案ハ口答トス

第十三條　答案ハ片假名交リ文ヲ以テ作リ答案ヲ付シ難キ問題ハ其旨ヲ付記スヘシ答案ハ番號ヲ記シ姓名ヲ記スヘカラス

第十四條　答案終リタルトキハ直チニ委員ニ差出シ復席スヘシ

第十五條　本規程ニ違背シタル者ハ委員長ニ於テ退場ヲ命スルコトアルヘシ

●私立産婆學校産婆講習所指定規則

明治四十五年六月十八日
内務省令第九號

私立産婆學校産婆講習所指定規則左ノ通定ム

私立産婆學校産婆講習所指定規則

第一條　私立産婆學校産婆講習所ニシテ産婆規則第一條第二號ノ指定ヲ受ケントスルトキハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ申請スヘシ

一　名稱、位置、設立年月日
二　學則
三　教室ノ數、其ノ坪數竝生徒ノ定員
四　實習用ニ供スル姙婦ヲ入院セシムヘキ室數、其ノ坪數竝其ノ入院定員
五　生徒寄宿舍ノ設備アルトキハ其ノ室數、坪數竝寄宿生徒ノ定員
六　教授用竝實習用ノ器具、器械、標本及模型ノ目錄
七　設立者ノ履歷竝教師ノ氏名其ノ履歷・擔當科目
八　最近二年間ニ於ケル實習用姙婦ノ入院、往診、外來ノ別・一日平均人員
九　實習用ニ供スル姙婦ノ入院料ノ徵否若本人ヨリ徵收スルトキハ其ノ金額
十　現在生徒ノ學期別人員
十一　卒業生ノ員數及卒業後ノ情況
十二　經費及最近二年間ノ決算
十三　維持ノ方法
十四　敷地建物ノ圖面

第二條　指定ヲ爲スヘキ學校又ハ講習所ハ左ノ各號ニ該當シ内務大臣ニ於テ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成蹟佳良ト認ムルモノニ限ル
一　生徒ノ定員ニ對シ相當ナル教授用建物、器具、器械及姙婦ヲ入院セシムヘキ產室ノ設備アルコト
二　入學資格ハ高等小學校卒業若ハ高等女學校二年以上ノ課程ヲ修業シ又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルコト
三　修業年限ハ學說實習ヲ通シテ二箇年以上ナルコト
四　主要ナル學科ハ一箇年以上主トシテ產科診療ニ從事シタル醫師ヲシテ擔當セシムルコト
五　生徒一人ニ付在學中五回以上臨產實驗ヲナサシムル成算アルコト内三回以上ハ入院姙婦タルコト
六　以上ノ事項ニ適合シ一箇年以上經過シタルモノナルコト

第三條　指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テハ第一條第一號乃至第五號第七號第九號第十三號ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク地方長官ニ屆出ヘシ

第四條　指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テ別科生等ヲ入學セシムルトキハ其ノ學籍簿ヲ別冊トスヘシ
指定ノ效力ハ前項ノ生徒ニ及ハス

第五條　指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テハ學則所定ノ授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ生徒ハ進級若ハ卒業セシムルコトヲ得ス

第六條　指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テ學期試驗若ハ卒業試驗ヲ施行セントスルトキハ十日前ニ地方長官ニ屆出ヘシ

第七條　地方長官ハ吏員ヲ派遣シテ試驗ニ立會ハシムルコトアルヘシ

第八條　指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ハ卒業試驗合格者ノ族籍、氏名、

生年月日ヲ試驗後遲滯ナク地方長官ニ屆出ヘシ

第九條　指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ハ每年六月三十日ノ調査ニ依リ翌月中ニ左ノ事項ヲ地方長官ニ屆出ヘシ

一　前年度經費收支決算ノ細目

二　當該年度經費收支豫算ノ細目

三　現在生徒ノ學期別人員

四　前年中實習用ニ供シタル妊婦ノ總數

同上ノ內生徒ノ臨產實驗ニ供シタル妊婦ノ數（入院、往診ノ別）

五　前年中卒業者員數竝卒業後ノ情況

第十條　指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニシテ本令ニ違背シ若ハ第二條ノ要件ノ一ヲ失ヒ其ノ他成績不良ナリト認メタルトキハ內務大臣ハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

●看護婦規則

大正四年六月三十日
內務省令第九號

改正　大正一一年九月內務省令第二三號；一四年八月第一四號

看護婦規則左ノ通定ム

看護婦規則

第一條　本令ニ於テ看護婦ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ傷病者又ハ褥婦看護ノ業務ヲ爲ス女子ヲ謂フ

第二條　看護婦タラムトスル者ハ十八年以上ニシテ左ノ資格ヲ有シ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ倣フ）ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一　看護婦試驗ニ合格シタル者

二　地方長官ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者

三　大正五年四月關東都督府令第十六號看護婦規則第二條第一號又ハ第二號ノ資格ヲ有スル者

四　大正十一年五月朝鮮總督府令第七十六號看護婦規則第一條第一項第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者

五　大正十二年十二月樺太廳令第五十六號看護婦規則第二條第一號又ハ第二號ノ資格ヲ有スル者

六　大正十三年二月臺灣總督府令第十八號看護婦規則第二條第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者

地方長官免許ヲ與フルトキハ看護婦免狀ヲ下付ス

第三條　精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ素行不良ト認ムル者ニハ免許ヲ與ヘサルモノトス

第四條　看護婦試驗ハ地方長官之ヲ施行ス

試驗科目ハ左ノ如シ

一　人體ノ構造及主要器官ノ機能

二　看護方法

三　衞生及傳染病大意

四　消毒方法

五　繃帶術及治療器械取扱法大意

六　救急處置

第五條　一年以上看護ノ學術ヲ修業シタル者ニアラサレハ看護婦試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第六條　看護婦ハ主治醫師ノ指示アリタル場合ノ外被看護者ニ對シ治療器械ヲ使用シ又ハ藥品ヲ授與シ若ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　看護婦其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日內ニ免狀ノ寫ヲ添ヘ後ノ住所地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ後ノ住所地ノ地方長官ハ其ノ旨ヲ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第八條　看護婦免狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日內ニ住所地ノ地方長官ニ再下付ヲ願出ツヘシ但毀損ノ場合ニハ毀損シタル免狀ヲ添附スヘシ

族籍氏名ニ變更ヲ生シ又ハ生年月日ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日內ニ免狀ヲ添ヘ地方長官ニ書換ヲ願出ツヘシ

亡失シタル免狀ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第九條　看護婦廢業シタルトキハ二十日內ニ免狀ヲ住所地ノ地方長官ニ返納スヘシ

看護婦三年以上其ノ業務ヲ曠マサルトキハ廢業シタルモノト看做ス

看護婦死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戶籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ二十日內ニ免狀ヲ返納スヘシ

第一項及第三項ノ場合ニ於テ免狀ヲ返納スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第十條　看護婦第三條ニ該當シ又ハ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ住所地ノ地方長官ハ期日ヲ定メ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消シ免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖モ疾病治癒シ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトヲ得

第十一條　免許ヲ受ケスシテ看護ノ業務ヲ爲シ若ハ停止中其ノ業務ヲ爲シタル者又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　第七條第一項第八條又ハ第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前地方長官ニ於テ與ヘタル免狀、免許狀、免許證ハ本令ニ依リ下付シタル看護婦免狀ト看做ス

本令施行ノ際現ニ地方廳ノ看護婦名簿ニ登錄ヲ受ケ居ル者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做シ看護婦免狀ヲ下付ス

本令發布ノ際現ニ看護ノ業務ヲ爲ス者ニシテ本令施行後三月內ニ願出ツルトキハ地方長官ハ履歷ヲ審査シ試驗ヲ要セス免許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ免許ハ本令第二條ニ依ル免許ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

地方長官ハ第二條ノ資格ヲ有セサル者ニ對シ當分ノ內其ノ履歷ヲ審査シ看護ノ業務ヲ免許シ准看護婦免狀ヲ下付スルコトヲ得

准看護婦及男子タル看護人ニ對シテハ本令ノ規定ヲ準用ス

●看護婦規則施行細則

昭和七年九月十九日
山梨縣令第三十四號

看護婦規則施行細則左ノ通定ム

看護婦規則施行細則

第一條　看護婦ノ免許ヲ受ケントスルモノハ左記各號ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一　原籍、住所、氏名、生年月日

二　看護婦規則（以下單ニ規則ト稱ス）第二條ノ資格ヲ證スヘキ證書又ハ其寫

三　戶籍謄本又ハ抄本

四　精神病及傳染性疾患ナキコトヲ證明シタル醫師ノ診斷書

第二條　看護婦免許ヲ申請スル者ハ手數料トシテ五拾錢ヲ納付スヘシ

前項ニ依リ納付シタル手數料ハ之ヲ還付セス

第三條　看護婦免許ヲ與フル者ニハ第一號樣式ノ免狀ヲ下付ス

第四條　規則第八條ノ規定ニ依ル願書ニハ戸籍抄本ヲ添付シ手數料貳拾錢ヲ納付スヘシ

第五條　看護婦本縣内ニ於テ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ後ノ住所地ノ所轄警察署ヲ經テ知事ニ屆出ツヘシ

規則第七條ニ依ル屆出ノ場合ハ同則ニ依ルノ外資格證書ノ寫ヲ添付スヘシ

第六條　看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一　就業中ハ免狀ヲ携帶シ、警察官吏、依頼者又ハ主治醫ノ請求アリタルトキハ提示スルコト

二　免狀ヲ他人ニ貸與セサルコト

三　正當ノ事由ナクシテ看護ノ需メヲ拒マサルコト

四　正當ノ事由ナクシテ業務上知得シタル他人ノ祕密ヲ漏泄セサルコト

五　認可ヲ受ケタル料金以外ノ金品ヲ請求セサルコト但往復ノ車馬賃實費ハ此ノ限ニ在ラス

六　就業中ハ已ムヲ得サル場合ノ外白色ノ看護衣ヲ著用スルコト

七　傳染性疾患者ト他ノ患者トヲ同時ニ看護セサルコト

第七條　精神病又ハ傳染性ノ疾患ニ罹リタルトキハ治癒ニ至ル迄業務ニ從事スルコトヲ得ス

第八條　警察署ニ於テ前條ノ疾患ニ罹リタル疑アリト認メタルトキハ指定シタル醫師ノ健康診斷書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　規則第十條ニ依リ業務ノ停止又ハ免許取消ノ處分ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ免狀ヲ知事ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ停止處分ニ係ルモノハ其ノ要旨ヲ免狀ニ裏書シ期間滿了後之ヲ還付ス

第十條　看護婦ハ看護婦會又ハ看護婦組合ヲ設クルコトヲ得

第十一條　看護婦會又ハ看護婦組合ヲ設立セントスルモノハ市部ニアリテハ二十名以上、郡部ニアリテハ十名以上ノ會員ヲ以テ組織シ其ノ發起人ヨリ左ノ各號ヲ具シ知事ニ願出テ認可ヲ受クヘシ、第四號第五號ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　名稱

二　目的

三　事務所ノ位置

四　會則又ハ組合規約

五　看護料其他料金ニ關スル規程

六　會員住所、氏名、生年月日竝看護婦等級

前項第一號乃至第三號、第六號ノ事項ニ變更又ハ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ

看護婦會又ハ看護婦組合ニ加入セサルモノ業務ニ從事セントスルトキハ豫メ本條第一項第五號ノ事項ヲ願出テ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　看護婦會又ハ看護婦組合ニ於テ役員ヲ選定又ハ改選シタルトキハ五日以内ニ知事ニ屆出ツヘシ

第十三條　知事ニ於テ必要アリト認メタルトキハ會則又ハ規約ノ變更役員ノ改選若ハ看護婦會又ハ看護婦組合ノ解散ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條　看護婦會又ハ看護婦組合解散シタルトキハ五日以内ニ會長又ハ組合長ヨリ知事ニ屆出ツヘシ

第十五條　看護婦試驗（以下單ニ試驗ト稱ス）ハ毎年二回之ヲ行フ其期日、場所及出願期限ハ其ノ都度告示ス

第十六條　試驗ヲ受ケントスルモノハ原籍、住所、氏名、生年月日ヲ記シタル願書ニ學校、病院、養成所、講習所若ハ醫師ノ證明シタル修業履歷書、戸籍謄本又ハ抄本及寫眞（願書提出前五箇月内ニ撮影シタル名刺型半身無臺紙ノモノヲ美濃紙二ツ折表面中央ニ貼布シ住所、氏名、生年月日、撮影年月日記入）一枚ヲ添ヘ知事ニ提出スヘシ

第十七條　前條願書ヲ提出セントスル者ハ試驗手數料壹圓ヲ納付スヘシ

前項ニ依リ納付シタル手數料ハ之ヲ還付セス

第十八條　試驗ニ闘シ不正行爲アリタル者ハ受驗ヲ停止シ又ハ其ノ試驗ヲ無效トス

第十九條　試驗ニ合格シタル者ニハ第二號樣式ノ合格證書ヲ交付ス

第二十條　本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ試驗ニ闘スルモノヲ除クノ外所轄警察署ヲ經由スヘシ

第二十一條　第五條第一項、第六條、第七條、第九條第一項、第十一條、第十二條、第十四條ノ規定ニ違反シ又ハ第八條、第十三條ノ命令ニ從ハサルモノハ科料ニ處ス

第十一條第一項、第二項、第十二條、第十三條、第十四條ノ規定ニ違反シタル場合ハ看護婦會看護婦組合ノ發起人又ハ代表者ヲ處罰ス

附　則

第二十二條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條　大正四年十月縣令第三十八號看護婦規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

第二十四條　本令施行ノ際看護婦、准看護婦タル者ハ本令施行ノ日ヨリ三月以内ニ左記事項ヲ具シ知事ニ免狀ノ書替ヲ申請スヘシ

一　原籍、住所、氏名、生年月日

二　看護婦規則第二條ノ資格ヲ證スヘキ證書ノ寫

三　戸籍謄本又ハ抄本

第二十五條　本令施行ノ際現ニ認可ヲ受ケタル看護婦會又ハ看護婦組合ハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一號樣式

表

昭和　年　月　日交付

山梨縣

第　號

看護婦免狀

族籍

氏名

生年月日

折目

裏面

十センチメートル

十五センチメートル

裏面

折目

原籍	資格取得事由及年月日	記事	注意
			一、免狀ハ從業中携帶スヘシ 一、住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日以內ニ後ノ住所地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ 一、本縣內ニ於テ住所ヲ變更シタルトキハ十日以內ニ後ノ住所地ノ警察署ヲ經テ知事ニ屆出ツヘシ 一、三年以上業務ヲ營マサルモノハ廢業シタルモノト看做サルヘシ 一、廢業シタルトキハ二十日以內ニ免狀ヲ住所地ノ地方長官ニ返納スヘシ 一、死亡又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戸籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ二十日以內ニ免狀返納スヘシ

〔山梨警〕

第二號樣式

十八センチメートル

二十六センチメートル

第　號

合格證書

族籍　氏名

生年月日

昭和　年　月山梨縣施行ノ看護婦試驗ニ合格シタルヲ以テ此ノ證書ヲ交付ス

昭和　年　月　日

知事印

●看護婦規則施行細則取扱手續

昭和七年九月十九日
山梨縣訓令甲第十六號

看護婦規則施行細則取扱手續左ノ通定ム

看護婦規則施行細則取扱手續

第一條　看護婦規則施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第一條ニ依ル願書ヲ受理シタル時ハ左記ニ依リ取扱フヘシ

看護婦規則（以下單ニ規則ト稱ス）第二條ノ資格ニ關シテハ願書ニ添付シアル資格證書寫ト本證書トヲ對照シ正當ト認メタルトキハ資格證書對照濟ノ旨記入取扱者捺印シ其他ノ書類ヲ審査シ適當ト認メタル場合ハ通達スヘシ

第二條　細則第二條、第四條、第十七條ノ手數料ハ郵便爲替又ハ小切手ノ類ヲ以テ納付セシムヘシ

第三條　規則第九條第二項ノ事實ヲ發見シタルトキハ詳細調査ノ上報告スヘシ

第四條　規則第十條ニ依リ業務ノ停止又ハ免許ノ取消處分ヲ必要トスル場合ハ其事實、性質、素行、其他ヲ精査シ報告スヘシ

第五條　病院ニ專屬シ醫師監督ノ下ニ入院患者ノ附添看護ニ從事スル者ニ限リ規則ニ依ル看護婦ト認メサルヘシ

第一號樣式（用紙美濃紙）

免狀ヲ得タル事由	免狀下附ノ日	免狀番號	住所	本籍	族籍	氏名	年齡	異動	異動
	年　月　日	第　號					年　月生		

〔山梨警〕

第六條　警察部及警察署ニハ別記第一號樣式ノ看護婦名簿、第二號樣式ノ看護婦會名簿ヲ備ヘ異動ノ都度加除訂正スヘシ

第七條　警察部ニ於テハ別記第三號樣式ノ名簿ヲ備ヘ看護婦試驗合格者ヲ登載スヘシ

第八條　細則第五條第一項ノ場合ハ後ノ住所地ノ警察署長ハ其ノ旨前ノ住所地警察署長ニ通知スヘシ

第九條　細則第十一條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ精査ノ上意見ヲ具シ進達スヘシ

附則

第十條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　大正四年訓令甲第二十號看護婦法令執行手續ハ之ヲ廢止ス

他記事

免狀番號　第　號

免狀ノ日付　年　月　日

免狀ヲ得タル事由

異動其他事記

族籍　氏名　年齢　年　月生

本籍　住所

看護婦名簿

山梨縣

族籍　氏名　年齢　年　月生

本籍　住所

免狀番號　第　號

免狀ノ日付　年　月　日

免狀ヲ得タル事由

異動其他事記

免狀番號　第　號

免狀ノ日付　年　月　日

免狀ヲ得タル事由

異動其他事記

族籍　氏名　年齢　年　月生

本籍　住所

免狀番號　第　號

免狀ノ日付　年　月　日

免狀ヲ得タル事由

異動其他事記

第二號樣式（用紙美濃紙）

看護婦會又ハ組合ノ名稱

指令番號認可年月日

解散年月日

看護婦會長又ハ組合長ノ氏名生年月日

看護婦會又ハ組合所在地

記事

會員氏名

入會年月日

等級

住所

氏名

生年月日

異動

看護婦會名簿

山梨縣

〔山梨警〕

第三號樣式（用紙美濃紙）

合格年月日及證書番號得點數

本籍

族籍氏名

備考

年月日　族籍　氏名　生年月日

第　號　年月日　得點數

年月日　族籍　氏名　生年月日

第　號　年月日　得點數

年月日　族籍　氏名　生年月日

第　號　年月日　得點數

〔山梨警〕

産婆看護婦合格者名簿

山梨縣

合格年月日及證書番號得點數	本籍	族籍氏名	備考
年月日 番號 第　號 得點數		族籍 氏名 生年月	
年月日 番號 第　號 得點數		族籍 氏名 生年月	
年月日 番號 第　號 得點數		族籍 氏名 生年月	
年月日 番號 第　號 得點數		族籍 氏名 生年月	

●看護婦試驗委員組織權限

明治三十六年五月二十七日
山梨縣訓令乙第九七號

改正　昭和七年九月訓令乙第一七二號

第一條　看護婦試驗委員ハ知事ノ指揮ヲ受ケ試驗ヲ行フモノトス

第二條　看護婦試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

一　委員長　一人
二　委員　若干人

三　書記　一人

第三條　委員長ハ警察部長トシ委員ハ技師中ヨリ選任シ書記ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　委員及書記ハ委員長ノ申請ニ依リ之ヲ任免ス

第五條　委員長ハ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ委員ハ試驗ヲ審査評定シ書記ハ庶務ニ從事ス

第六條　委員長事故アルトキハ委員中ヨリ代理者ヲ指定ス

第七條　委員長ハ試驗期日三日以前ニ試驗問題ヲ定メ知事ノ認可ヲ請フヘシ

第八條　委員長ハ試驗終了後三日以内ニ合格者ヲ定メ證書交付ノ申請ヲナスヘシ

附　則

明治三十六年五月訓令乙第九七號ハ之ヲ廢止ス

●按摩術營業取締規則

明治四十四年八月十四日
内務省令第十號

改正　大正九年四月内務省令第九號

按摩術營業取締規則左ノ通之ヲ定ム

按摩術營業取締規則

第一條　按摩術（「マッサージ」術ヲ含ム以下之ニ倣フ）營業ヲ爲サムトスル者ハ試驗合格證書又ハ地方長官ノ指定シタル學校若ハ講習所ノ卒業證書ヲ添ヘ住所地ノ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ倣フ）ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條　精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ素行不良ト認ムル者ニハ免許鑑札ヲ交付セサルモノトス

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ免許鑑札ヲ交付セサルコトアルヘシ

第三條　按摩術ノ試驗ハ地方長官之ヲ擧行ス

試驗ヲ分テ甲種及乙種トス其ノ試驗科目ハ左ノ如シ

甲種

一　人體ノ構造及主要器官ノ機能
二　按摩方式及身體各部ノ按摩術
三　消毒法大意
四　按摩術ノ實地

乙種

乙種ハ按摩術ノ實地ヲ行フノ外甲種試驗ノ各科目ニ付簡易試驗ヲ行フモノトス

第四條　甲種試驗ハ四箇年以上按摩術ヲ修業シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

乙種試驗ハ盲人ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス但シ二箇年以上ノ修業履歴アルコトヲ要ス

第五條　營業者ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス流派名又ハ卒業シタル學校講習所ノ名稱若ハ修業ノ證明ヲ與ヘタル教師ノ氏名ヲ除ク外業務上其ノ技能、施術方法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第五條ノ二　營業者ハ脱臼又ハ骨折ノ患部ニ施術ヲ爲スコトヲ得ス但シ醫師ノ同意ヲ得タル病者ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

第五條ノ三　地方長官ノ指定シタル學校若ハ講習所ニ於テ「マッサージ」術ヲ修業シ又ハ「マッサージ」術ノ試驗ニ合格シ免許鑑札ヲ受ケタル者ニ非

サレハ「マツサージ」術ヲ標榜スルコトヲ得ス

第六條　營業者其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日以内ニ鑑札ヲ添ヘ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ後ノ住所地ノ地方長官ハ其ノ旨ヲ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第七條　營業者免許鑑札ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日以内ニ住所地ノ地方長官ニ再下付ヲ願出ヘシ

族籍、氏名ニ變更ヲ生シ又ハ生年月日ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日以内ニ鑑札ヲ添ヘ地方長官ニ書換ヲ願出ヘシ

亡失シタル免許鑑札ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第八條　營業者廢業シタルトキハ二十日以内ニ免許鑑札ヲ住所地ノ地方長官ニ返納スヘシ若鑑札ヲ返納スルコト能ハサル事由アルトキハ其ノ事由ヲ届出ヘシ

營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第九條　營業者第二條ニ該當シ又ハ業務上犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ住所地ノ地方長官ハ期日ヲ定メテ其ノ營業ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消シ免許鑑札ヲ返納セシムルコトアルヘシ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖疾病治癒シ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許鑑札ヲ交付スルコトヲ得

第十條　免許鑑札ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ若ハ停止中營業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第五條ノ二、第五條ノ三ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　第六條第一項第七條又ハ第八條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前地方長官ニ於テ交付シタル免許鑑札ハ本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス

本令發布ノ際現ニ按摩術(按腹、揉療治ノ類ヲ含ム)又ハ「マツサージ」術營業ヲ爲ス者本令施行後三箇月以内ニ願出ツルトキハ地方長官ハ其ノ履歴ヲ審査シ試驗ヲ要セス免許鑑札ヲ交付スルコトヲ得

地方ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ地方長官ハ盲人ニ限リ當分ノ内其ノ履歴ヲ審査シ試驗ヲ要セス免許鑑札ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免許鑑札ヲ得タル者其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ後ノ住所地ノ地方長官ニ願出テ更ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

本令ノ規定ハ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ打撲、捻挫、脱臼及骨折ニ對シテ行フ柔道整復術ニ之ヲ準用ス

●按摩術營業取締規則施行細則

昭和八年四月六日
山梨縣令第二十號

按摩術營業取締規則施行細則左ノ通定ム

按摩術營業取締規則施行細則

第一條　按摩術、マツサージ術柔道整復術ノ營業免許鑑札ヲ受ケムトスル者ハ按摩術營業取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)第一條ニ依ルノ外願書ニ本籍住所氏名生年月日ヲ記載シ規則第二條ノ疾患ナキコトヲ證明シタル醫師ノ診斷書及戸籍謄本又ハ抄本ヲ添付スヘシ

第二條　規則第七條第二項ノ免許鑑札書換願ニハ戸籍謄本又ハ抄本ヲ添付スヘシ

免許鑑札ヲ受ケムトスル者又ハ再渡ヲ受ケムトスル者ハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ但シ盲人ニ限リ之ヲ免除ス

一　按摩術、マツサージ術、柔道整復術、免許手數料各金五拾錢

二　按摩術、マツサージ術、柔道整復術、免許鑑札再渡手數料各金貳拾錢

前項ニ依リ納付シタル手數料ハ之ヲ還付セス

第三條　營業者本縣内ニ於テ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ

出張所ヲ設ケ又ハ五日以上滯留シテ營業ヲ爲サムトスルトキハ業務開始以前ニ之ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ出張所、滯留所、所在地所轄警察署ニ届出ヘシ

他ノ道府縣ニ住所ヲ有スル營業者本縣内ニ出張所ヲ設ケ又ハ五日以上滯留シテ營業ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第四條　營業者ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

一　毎施術前淨水ヲ以テ自己ノ手指ヲ洗滌スルコト

二　自宅外ニ在リテ業務ニ從事スルトキハ免許鑑札ヲ携帶シ當該官吏又ハ依頼者ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示スルコト

三　業務以外ノ治療方法ヲ指示シ又ハ醫療ニ紛ハシキ行爲ヲ爲シ若シクハ藥品ヲ投與セサルコト

四　免許鑑札ハ他人ニ讓渡又ハ貸與セサルコト

五　規則第二條ノ疾患ニ罹リタルトキハ業務ニ從事セサルコト

六　正當ノ事由ナクシテ業務上知得シタル他人ノ祕密ヲ漏洩セサルコト

第五條　營業者ハ營業所及出張所ノ門戸觀易キ場所ニ標札ヲ掲クヘシ

第六條　規則第九條ニ依リ營業免許ヲ取消サレタルトキハ十日以内ニ免許鑑札ヲ知事ニ返納シ營業停止ノ處分ヲ受ケタル者ハ直ニ免許鑑札ヲ所轄警察署ヘ提出スヘシ

第七條　營業者ニシテ規則第二條ノ疾患ニ罹レル疑アリト認ムルトキハ所轄警察署長ハ醫師及期限ヲ指定シ診斷書ノ提出ヲ命シ又ハ醫師ヲシテ之カ診斷ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第八條　營業者ハ警察署管轄區域ニ依リ組合ヲ組織スルコトヲ得

組合ヲ組織セムトスルトキハ規約ヲ定メ主幹者ヨリ所轄警察署長ニ届出認可ヲ受クヘシ規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

組合規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　組合ノ名稱及目的

二　事務所所在地

三　役員ノ種別及數

四　組合員ノ權利義務ニ關スルコト

五　役員ノ選任及組合員ノ加入脱退ニ關スルコト

六　施術料ニ關スルコト

七　組合ノ會計ニ關スルコト

八　組合ノ會議ニ關スルコト

九　違約者處分ニ關スルコト

第九條　前條ニ依リ組織シタル組合ハ縣聯合組合ヲ組織スルコトヲ得縣聯合組合ヲ組織セムトスルトキハ規約ヲ定メ主幹者ニ於テ知事ニ届出認可ヲ受クヘシ規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

縣聯合組合規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　第八條第二項第一號乃至第五號及第七號、第八號ノ事項

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ代表者ヨリ組合ニ於テハ所轄警察署長ニ縣聯合組合ニ於テハ知事ニ届出ヘシ

一　組合ノ役員ヲ定メ又ハ其ノ異動ヲ生シタル時ハ十日以内
二　會議ヲ開カムトスルトキハ五日以前
三　決議事項ハ十日以内
四　組合及縣聯合組合ヲ解散セムトスルトキハ五日以前

第十一條　組合又ハ縣聯合組合ニ對シ取締上必要アリト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條　本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署（縣聯合組合ニアリテハ事務所所在地所轄警察署）ヲ經由スヘシ

第十三條　第三條乃至第六條ニ違背シ又ハ第七條ノ診斷書提出ノ命ニ從ハス若ハ醫師ノ診斷ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則第八條ニ依ル組合及第九條ニ依ル縣聯合組合ハ場合ニ依リ鍼術、灸術營業者ト合同シテ組織スルコトヲ得

明治四十五年二月山梨縣令第九號按摩術營業取締規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

●鍼術、灸術營業取締規則

明治四十四年八月十四日
内務省令第十一號

鍼術、灸術營業取締規則左ノ通之ヲ定ム

鍼術、灸術營業取締規則

第一條　鍼術又ハ灸術營業ヲ爲サムトスル者ハ試驗合格證書又ハ地方長官ノ指定シタル學校若ハ講習所ノ卒業證書ヲ添ヘ住所地ノ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ倣フ）ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條　精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ素行不良ト認ムル者ニハ免許鑑札ヲ交付セサルモノトス

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ免許鑑札ヲ交付セサルコトアルヘシ

第三條　鍼術又ハ灸術ノ試驗ハ地方長官之ヲ擧行ス

試驗科目ハ左ノ如シ

一　人體ノ構造及主要器官ノ機能竝筋ト神經脈管ノ關係
二　身體各部ノ刺鍼法又ハ灸點法竝經穴及禁穴
三　消毒法大意
四　鍼術又ハ灸術ノ實地

第四條　四箇年以上鍼術又ハ灸術ヲ修業シタル者ニ非サレハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第五條　鍼術ヲ施サムトスルトキハ鍼、手指及手術ノ局部ヲ消毒スヘシ

第六條　營業者ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス流派名又ハ卒業シタル學校、講習所ノ名稱若ハ修業ノ證明ヲ與ヘタル教師ノ氏名ヲ除ク外業務上其ノ技能、施術方法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　鍼術又ハ灸術營業ハ瀉血、切開其ノ他外科手術ヲ行ヒ若ハ電氣、烙鐵ノ類ヲ用ヰ又ハ藥品ヲ投與シ若ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　營業者其ノ住所地ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日以内ニ鑑札ヲ添ヘ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ後ノ住所地ノ地方長官ハ其ノ旨ヲ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第九條　營業者免許鑑札ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日以内ニ住所地ノ地方長官ニ再下付ヲ願出ヘシ

族籍、氏名ニ變更ヲ生シ又ハ生年月日ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日以内ニ鑑札ヲ添ヘ地方長官ニ書換ヲ願出ヘシ

亡失シタル免許鑑札ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十條　營業者廢業シタルトキハ二十日以内ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ若鑑札ヲ返納スルコト能ハサル事由アルトキハ其ノ事由ヲ届出ヘシ

營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第十一條　營業者第二條ニ該當シ又ハ業務上犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ住所地ノ地方長官ハ期日ヲ定メテ其ノ營業ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消シ免許鑑札ヲ返納セシムルコトアルヘシ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖疾病治癒シ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許鑑札ヲ交付スルコトヲ得

第十二條　免許鑑札ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ若ハ停止中營業ヲ爲シタル者又ハ第六條第七條ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　第八條第一項第九條又ハ第十條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前行政廳ニ於テ交付シタル免許鑑札其ノ他免許ノ證ハ本令ニ依リ交付シタル免許鑑札ト看做ス

●鍼術、灸術營業取締規則施行細則

昭和八年四月六日
山梨縣令第二十一號

鍼術、灸術營業取締規則施行細則左ノ通定ム

鍼術、灸術營業取締規則施行細則

第一條　鍼術又ハ灸術營業免許鑑札ヲ受ケムトスル者ハ鍼術、灸術營業取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條ニ依ルノ外願書ニ本籍住所氏名生年月日ヲ記載シ規則第二條ノ疾患ナキコトヲ證明シタル醫師ノ診斷書及戸籍謄本又ハ抄本ヲ添付スヘシ

第二條　規則第九條第二項ノ免許鑑札書換願ニハ戸籍謄本又ハ抄本ヲ添付スヘシ

免許鑑札ヲ受ケムトスル者又ハ再渡ヲ受ケムトスル者ハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ

一　鍼術、灸術免許手數料各金五拾錢
二　鍼術、灸術免許鑑札再渡手數料各金貳拾錢

前項ニ依リ納付シタル手數料ハ之ヲ還付セス

第三條　營業者本縣内ニ於テ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

出張所ヲ設ケ又ハ五日以上滯留シテ營業ヲ爲サムトスルトキハ業務開始以前ニ、之ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ、出張所、滯留所、所在地所轄警察署ニ届出ツヘシ

他ノ道府縣ニ住所ヲ有スル營業者本縣内ニ出張所ヲ設ケ又ハ五日以上滯留シテ營業ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第四條　營業者ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

一　自宅外ニ在リテ業務ニ從事スルトキハ免許鑑札ヲ携帶シ當該官吏又

ハ依頼者ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示スヘシ

二　免許鑑札ハ他人ニ讓渡又ハ貸與セサルコト

三　規則第二條ノ疾患ニ罹リタルトキハ業務ニ從事セサルコト

四　正當ノ事由ナクシテ業務上知得シタル他人ノ秘密ヲ漏洩セサルコト

第五條　規則第五條ノ消毒ハ石炭酸水（三十三倍）若ハ「クレゾール」水（三十三倍）又ハ稀アルコール（日本藥局方）ヲ用ユヘシ

第六條　營業者ハ營業所及出張所ノ門戸視易キ場所ニ標札ヲ掲クヘシ

第七條　規則第十一條ニ依リ營業免許ヲ取消サレタル者ハ十日以内ニ免許鑑札ヲ知事ニ返納シ營業停止ノ處分ヲ受ケタル者ハ直ニ免許鑑札ヲ所轄警察署ヘ提出スヘシ

第八條　營業者ニシテ規則第二條ノ疾患ニ罹レル疑アリト認ムルトキハ所轄警察署長ハ醫師及期限ヲ指定シ診斷書ノ提出ヲ命ジ又ハ醫師ヲシテ之カ診斷ヲ爲サシムルコトアルベシ

第九條　營業者ハ警察署管轄區域ニ依リ組合ヲ組織スルコトヲ得

組合ヲ組織セムトスルトキハ規約ヲ定メ主幹者ヨリ所轄警察署長ニ屆出認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

組合規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　組合ノ名稱及目的

二　事務所所在地

三　役員ノ種別及數

四　組合員ノ權利義務ニ關スルコト

五　役員ノ選任及組合員ノ加入脫退ニ關スルコト

六　施術料ニ關スルコト

七　組合ノ會計ニ關スルコト

八　組合ノ會議ニ關スルコト

九　違約者處分ニ關スルコト

第十條　前條ニ依リ組織シタル組合ハ縣聯合組合ヲ組織スルコトヲ得縣聯合組合ヲ組織セムトスルトキハ規約ヲ定メ主幹者ニ於テ知事ニ屆出認可ヲ受クヘシ規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

縣聯合規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　第九條第三項第一號乃至第五號及第七號、第八號ノ事項

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ代表者ヨリ組合ニ於テハ所轄警察署長ニ縣聯合組合ニ於テハ知事ニ屆出ツヘシ

一　組合ノ役員ヲ定メ又ハ其ノ異動ヲ生シタルトキハ十日以内

二　會議ヲ開カムトスルトキハ五日以前

三　決議事項ハ十日以内

四　組合及縣聯合組合ヲ解散セムトスルトキハ五日以前

第十二條　組合又ハ縣聯合組合ニ對シ取締上必要アリト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消スルコトアルヘシ

第十三條　本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署（縣聯合組合ニアリテハ事務所所在地所轄警察署）ヲ經由スヘシ

第十四條　第三條乃至第七條ニ違背シ又ハ第八條ノ診斷書提出ノ命ニ從ハス若ハ醫師ノ診斷ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則第九條ニ依ル組合及第十條ニ依ル聯合組合ハ場合ニ依リ按摩術營業者ト合同シテ組織スルコトヲ得

明治四十五年二月山梨縣令第十號鍼術灸術營業取締規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

●按摩術、鍼術、灸術試驗規則

大正四年一月
山梨縣令第二號

改正　大正一〇年二月縣令第四號、昭和五年七月第二八號、八年四月第二二號

第一條　按摩術、鍼術、灸術試驗ハ毎年一回以上施行ス其ノ日時、場所等ハ一箇月前之ヲ告示ス

第二條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ各試驗ノ種類（按摩術ニ在リテハ甲種又ハ乙種ノ區別）ヲ記シタル願書ニ修業證書履歴書及戸籍謄本又ハ抄本竝ニ按摩術乙種受驗者ニアリテハ醫師ノ視力證明書、鍼術、灸術ノ受驗者ニアリテハ書類提出前三箇月以内ニ撮影シタル手札型寫眞（裏面ニ撮影年月日及其ノ氏名生年月日ヲ記シ）ヲ添ヘ試驗期日十日前迄ニ知事ニ提出スヘシ

按摩術（乙種按摩術試驗ヲ除ク）マッサージ術、柔道整復術、鍼術灸術試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料各金壹圓ヲ納付スヘシ

前項ニ依リ納付シタル手數料ハ還付セス

第三條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

一　精神病者又ハ傳染性疾患アル者若ハ素行不良ト認ムル者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ改悛ノ情顯著ナル者ハ此ノ限ニ在ラス

三　禁治産者、聾者、唖者又ハ年齢十五歳未滿ノ者

四　公安風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル者

第三條ノ二　柔道整復術試驗ハ現ニ一定ノ道場ニ於テ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニシテ四ケ年以上柔道整復術ヲ修業シタル者ニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　試驗ハ左ノ順序ニ依ルモノトス

第七編　衛生　第十二章　産婆看護婦按摩鍼灸術理容術

第一　體格

第二　學說

第三　實地

學說試驗ハ體格檢査ニ合格シ實地試驗ハ學說試驗ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ

第五條　按摩術試驗ハ左記標準ニ依リ之ヲ施行ス但シ乙種試驗ハ實地ヲ主トシテ學術ハ簡易ナル試問ニ止ムルモノトス

一　人體ノ構造及主要器管ノ機能

人體ノ骨格、筋、臟器ノ構造概要及筋、臟器ニ於ケル血管神經ノ分布、神經ノ中樞竝腦脊髓神經ノ機能及血行、呼吸、營養、排泄、五管、生殖及姙娠等ノ生理

二　按摩方式身體各部ノ按摩術

按摩ノ方式（マッサージ術ヲ含ム）應用概則及頭、首、咽喉、胸背、腹部、腰部、四肢等ノ按摩術要項竝按摩術ノ效用、適應症禁忌症其ノ他施術上ノ注意

三　消毒大意

消毒ノ意義、消毒藥ノ種類及消毒ノ方法

四　按摩術ノ實地（マッサージ術ヲ含ム）

頭、首、咽喉、胸、背、腹部、腰部、四肢等ノ身體各部ニ於ケル按摩術ノ實地

柔道整復術ノ試驗ハ左ノ各號ニ依ル

一　人體ノ構造及主要器管ノ機能

二　柔道整復術ノ方式及身體各部・柔道整復術

三　消毒法大意

四　柔道整復術ノ實地

第六條　鍼術、灸術試驗ハ左記標準ニ依リ之ヲ施行ス

一　人體ノ構造及主要器管ノ機能竝筋ト神經、脈管ノ關係

本則第五條第一項第一號ニ依ルノ外身體各部ノ筋、臟器ト神經脈管ノ關係

二　身體ノ各部ノ刺鍼法又ハ灸點法竝經穴及禁穴

鍼術ニ在リテハ身體各部ノ刺方灸術ニ在リテハ身體各部ノ灸點法竝經穴、禁穴ノ位置、名稱及筋、神經脈管、臟器等トノ關係鍼灸術ノ適應症、禁忌症其ノ他施術上ノ注意

三　消毒法大意

消毒ノ意義、消毒藥ノ種類、鍼、手指及手術局部ノ消毒方法、順序

四　鍼術又ハ灸術ノ實地

身體各部ノ刺鍼又ハ灸點ノ實地

第七條　試驗問題ハ各科二問以上ヲ課スルモノトス

第八條　按摩術、鍼術、灸術試驗ニ合格シタル者ニハ合格證書（別紙樣式）ヲ附與ス

第九條　一科目ノ試驗ニ缺席シタル者ハ後ノ科目ニ對シ試驗ヲ行ハサルモノトス

第十條　試驗ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其ノ試驗ヲ無效トス若シ已ニ合格證書ヲ附與シタル者ハ其ノ合格證書ヲ無效トス

第十一條　受驗人ノ心得ハ別ニ之ヲ定ム

〔山梨警〕

別紙樣式　（用紙ハ鳥ノ子）　縱八寸五分　横六寸

合格證書

族籍

氏名

年月日生

按摩術甲種（乙種又ハマツサージ術）（鍼術又ハ灸術）試驗ニ合格シタルコトヲ證ス

年　月　日

知事印

●按摩術灸術鍼術試驗委員組織權限

大正四年一月
山梨縣訓令乙第三號

第一條　按摩術、鍼術、灸術試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　委員長　一名

一　委員　若干名

一　書記　一名

第二條　委員長ハ警察部長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ技師、警察醫、警部、縣立病院醫員ヨリ任命スル者ノ外按摩術、鍼術、灸術等ノ專門家中ニ於テ之ヲ囑託スルモノトス

書記ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　專門家タル委員ハ試驗施行ノ都度之ヲ囑託スルモノトス

第四條　委員長ハ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ委員ハ試驗ノ成績ヲ審査シ書記ハ庶務ニ從事ス

第五條　委員長ハ試驗期三日迄ニ試驗問題ヲ編製シ知事ノ決裁ヲ受クヘシ

第六條　試驗ハ各滿點ヲ百點トシ各科四十點以上平均六十點以上ヲ得タル者ヲ以テ合格トス

第七條　委員長ハ試驗終了後三日以内ニ各受驗者ノ成績ヲ調査シ知事ニ報告スヘシ

〔山梨警〕

●按摩術營業取締規則竝鍼術、灸術營業取締規則取扱手續

昭和八年四月六日
山梨縣訓令甲第十號

按摩術營業取締規則竝鍼術、灸術營業取締規則取扱手續左ノ通定ム

按摩術營業取締規則竝鍼術、灸術營業取締規則取扱手續

第一條　按摩術營業取締規則第一條又ハ鍼術、灸術營業取締規則第一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左記各號ノ事項ヲ調査シ意見ヲ附シ遅達スヘシ

一　本籍住所氏名生年月日ノ正否

二　試驗合格證書若ハ修業證書又ハ卒業證書ヲ檢閲シ寫ト對照シ其正否

三　性質素行ノ良否

四　前科ノ有無其ノ種類

五　其他許否上參考トナルヘキ事項

第七編　衛生　第十二章　産婆看護婦按摩鍼灸術理容術

第二條　按摩術竝鍼術、灸術營業者名簿ヲ附錄樣式ニ依リ調製シ各口座ヲ施シ其ノ異動アル毎ニ之ヲ整理スヘシ

第三條　按摩術營業取締規則第九條及鍼術、灸術營業取締規則第十一條ニ依リ處分ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ詳細内申スヘシ

第四條　按摩術營業取締規則施行細則第三條第一項及鍼術、灸術營業取締規則施行細則第三條第一項ニ依リ住所ノ變更屆出ヲ受理シタルト前住地、同條第二項ニ依リ出張所設置ノ屆出ヲ受ケタルトキハ住所地所轄警察署ニ通知スヘシ

第五條　按摩術營業取締規則施行細則第六條及鍼術灸術營業取締規則施行細則第七條ニ依リ免許鑑札ノ提出ヲ受ケタルトキハ營業免許ノ取消處分ニ對シテハ直ニ知事ニ進達シ停止ノ場合ハ之ヲ領置シ期間滿了ノトキ處分ノ事實ヲ裏書シテ還付スヘシ

第六條　按摩術營業取締規則施行細則第八條及鍼術、灸術營業取締規則施行細則第九條ニ依ル認可申請ニ對シ不認可ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事情ヲ具シ警察部長ニ禀議スヘシ

第七條　按摩術營業取締規則施行細則第九條及鍼術、灸術營業取締規則施行細則第十條ニ依ル認可申請書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第八條　按摩術營業取締規則施行細則第十一條及鍼術、灸術營業取締規則施行細則第十二條ニ依リ組合ノ認可ヲ取消ス必要アリト認ムル場合ハ報告スヘシ

附　則

第九條　明治四十五年二月訓令甲第五號按摩術營業取締規則竝鍼術、灸術取締規則取扱手續ハ之ヲ廢止ス

附錄樣式　（用紙美濃紙）

●按摩術、鍼術、灸術試驗受驗人心得

大正四年一月
山梨縣告示第八號

鑑札ヲ得タル事由			
鑑札下附年月日	昭和　年　月　日	本籍	族籍
鑑札番號	第　號	住所	氏名 生年月日
異動記事			

第一條　受驗人ハ試驗係員ノ指揮命令ヲ遵守スヘシ

第二條　試驗當日ハ定刻三十分前試驗場ニ出頭スヘシ但シ病氣其他ノ事故ニ依リ當日出頭シ難キ場合ハ前日マテニ其ノ旨屆出ツヘシ

第三條　受驗人ハ試驗係員ヨリ番號札ノ交付ヲ受ケ控所ニ集合スヘシ

第四條　番號札ノ交付ヲ受ケサル者及試驗開始後到著シタル者ハ試驗場内ニ入ルヲ許サス

第五條　受驗人ハ豫メ交付ヲ受ケタル番號札ニ依リ順次著席スヘシ

第六條　試驗ハ午前九時ニ開始シ午後四時ニ閉止ス但シ時宜ニ依リ時間ノ變更ヲ行フコト在ルヘシ

第七條　受驗人ハ受驗ニ要スル筆、墨、點字器具ノ外書籍其ノ他總テ書類ヲ携帶入場スヘカラス

第八條　試驗場内ニ在リテハ專ラ靜肅ヲ旨トシ私語、談笑、喫烟等ナスヘカラス

第九條　受驗中ハ許可ヲ受クルニ非ラサレハ其ノ席ヲ離ルヽコトヲ得ス

第十條　學術試驗ノ答案ハ筆答トシ實地試驗ハ口答トス

第十一條　答案ハ配布ヲ受ケタル用紙ニ片假名交リ文ヲ以テ明瞭ニ記載スヘシ但シ盲人ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　答案ニハ自己ノ番號ヲ記シ氏名其ノ他ノ符號ヲ記載スヘカラス

第十三條　答案ハ受驗時間盡クレハ直ニ擱筆スヘシ

第十四條　本規程ニ違背シ又ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ退場ヲ命スルコト在ルヘシ

●按摩鍼灸術試驗施行其他ニ關スル取締方ノ件

明治四十四年十二月八日
衛第九七九一號衛生局長通牒

（前略）

四、按摩術營業取締規則中盲人ニ關スル規定ヲ適用スヘキ者ハ三尺ノ距離ニ於テ手指ヲ算シ得サルモノ竝視力ノ耗弱ニ依リ他ニ適當ノ生業ヲ得ルコト能ハサルモノヲ謂フコト

〔山梨警〕

●按摩徒弟取締ニ關スル件

大正五年一月十一日
四、東衛第一一七〇號衛生局長通牒

按摩學校及講習所ノ生徒若ハ營業者ノ徒弟ニシテ實地練習ノ爲施術ヲ行フ場合無鑑札ノ故ヲ以テ往々告發セラルヽ者有之趣ニ候ヘ共右ハ實地練習ヲナス必要上不得止儀ニ付學校講習所ノ生徒又ハ師家ノ徒弟タル證明ヲ有スル者ニシテ師ノ監督ノ下ニ施術ヲ行フハ之ヲ認容相成然可ト存候條其ノ旨管内各警察署ヘ御示達相成度候

（大正五年二月三日
四、東衛第一一七〇號ノ内衛生局長通牒）

標記ノ件ニ付別紙ノ通照覆致候條爲參考及通牒候也

警視總監照會（大正五年一月二十一日衛第二六號ノ二）

本月十一日内務省四東衛第一一七〇號通牒中師ノ監督ノ下ニ施術ヲ行フハ認容可然ヘ有之候處右ハ徒弟カ師ノ指揮ニ依リ施術ニ從事スル場合ヲ指稱セラレタルモノト思料致候得共當管内ニハ按摩營業者ノ徒弟ハ俗ニ流シト稱シ道路ヲ徘徊シテ師ノ指揮ヲ待タス單獨ニ客ノ需ニ應スル者多數ヲ占ムルノ實況ニテ從來無鑑札ノ故ヲ以テ告發セラレタル者ハ概ネ此ノ種ノ者ニ有之本件通牒ハ是等ヲモ包含シテ從業ヲ認ムルノ主旨ニ有之候哉取扱上疑義相生シ候ニ付折返シ何分ノ回答相煩度

衛生局長回答（大正五年二月三日四、東衛第一一七〇號ノ内）

本月二十二日付衛第二一六號ノ二ヲ以テ御照會ニ係ル按摩徒弟ニ關スル内務省四衛第一一七〇號通牒ノ趣旨ハ學校生徒又ハ當業者ノ徒弟カ師ノ監督ノ下ニ其ノ指定シタル被術者ニ對シテ施術ヲ爲ス場合ハ勿論然ラサルモ生徒又ハ徒弟タル證明書ヲ携帶シ技術練習ノ爲メ客ノ需ニ應スル場合モ亦師ノ監督ノ下ニアルモノトシテ容認相成可然但シ其ノ施術ノ範圍ハ健康者又ハ輕病者ノ慰安的按摩ニ限ラシメ候樣教師又ハ當業者ニ嚴達相成度此段及回答候也

●按摩術鍼術又ハ灸術學校若ハ同講習所ノ指定標準ノ件

明治四十四年十二月十四日
内務省訓第六三一號

第一條　按摩術營業取締規則及鍼術灸術營業取締規則第一條ニ依リ指定ヲ爲スヘキ學校若ハ講習所ハ左ノ各號ニ該當シ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績ノ良好ト認ムルモノニ限ル

一　生徒ノ定員ニ對シ相當ナル校舍、校具、器械其ノ他ノ設備アルコト

二　必習學科目トシテ少クトモ按摩術ニ在リテハ人體ノ構造及主要器官ノ機能、按摩方式及身體各部ノ按摩術、消毒法大意、按摩術ノ實地、鍼術又ハ灸術ニ在リテハ身體ノ構造及主要器管ノ機能竝筋ト神經脈管ノ關係、身體各部ノ刺鍼法又ハ灸點法竝經穴及禁穴、消毒鍼法大意鍼又ハ灸術ノ實地ヲ教授スルコト

三　修業年限四ヶ年以上ナルコト、按摩術鍼術又ハ灸術ノ二以上ヲ教授スルモ亦同シ但シ盲人生徒ニ限リ按摩術乙種試驗科目ノミヲ教授スルモノニ在リテハ二ヶ年以上ナルコト

四　第二號教科目ノ教員ニハ適當ト認ムル醫師及各術ノ實地專門家ヲ採用スルコト

五　學則所定ノ授業時數中教授ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ生徒ハ進級若ハ卒業セシメサルコト

第二條　指定學校若ハ指定講習所ノ卒業試驗ニハ吏員ヲ立會ハシメ試驗問

題若ハ試驗ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムヘシ

第三條　指定學校若ハ指定講習所ニシテ第一條ノ要件ノ一ヲ失ヒ其ノ他成績不良ト認メタルトキハ其ノ指定ヲ取消スヘシ

第四條　學校若ハ講習所ノ指定ヲ爲シ若ハ指定ノ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ都度之ヲ公告シ內務大臣ニ報告スヘシ

●按摩術營業者免許ニ關スル件

大正四年六月
內務省衞第一一六號

按摩術營業取締規則附則第三項ニ依リ免許鑑札ヲ得タル營業者ニシテ一旦該鑑札ヲ返納シタル者ニ對シ試驗ヲ要セス再ヒ免許鑑札ヲ交附シ得ルヤ否ニ付伺出ノ向モ有之候處右ハ無試驗交附相成差支無之候條爲念及通牒候也

●按摩術鍼術灸術營業免許願及異動屆ノ際ニ於ケル書類取扱方ノ件

昭和四年七月一日
警調第一一號

按摩術鍼術灸術ノ免許出願書其ノ他該當營業者ノ屆書中不備ノ點多ク處理上支障不尠候條自今規程ノ外左記ノ通リ取扱該名簿ヘ記入遺漏スベシ

一　按摩術、鍼術、灸術營業取締規則第一條ノ免許出願書ヲ受理シタルトキハ按摩術鍼術灸術施行細則第一條各號ヲ具備スルノ外戸籍謄本若ハ抄本ヲ添附セシメ資格證書寫ナルトキハ本證書ト對照シ其ノ正當ナルコトヲ認定シタルトキハ證書寫ノ餘白ニ資格證書檢閲濟ノ旨ヲ記シ主任者捺印遺漏ノコト

二　按摩術營業取締規則第六條鍼術灸術營業取締規則第八條ノ異動屆書ニハ同則第一條ノ資格證書ヲ添附セシムルコト

按摩術營業取締規則附則第二項第三項第四項鍼術灸術營業取締規則附則第二項ニ該當スル者ニシテ資格證書ヲ有セス若ハ添附スルコト能ハサル者ニ對シテハ特ニ調査シ具申スルコト

三　按摩術營業取締規則第七條同施行細則第三條鍼術、灸術營業取締規則第九條同施行細則第三條ノ願屆書ニハ鑑札番號及下附年月日ヲ記載セシメ遺漏スルコト

大正十五年十一月二十二日警調第八三號ハ之ヲ廢止ス

●理容術營業取締規則

昭和七年七月七日
山梨縣令第二十二號

改正　昭和一一年四月縣令第二〇號

理容術營業取締規則左ノ通定ム

理容術營業取締規則

第一條　本令ニ於テ理容術營業ト稱スルハ頭髮鬚髯ノ剪刺、結髮、染毛擀毛直シ又ハ美顏術ヲ爲ス營業ヲ謂フ

第二條　理容術營業ハ本令ニ依ル理容術試驗(以下單ニ試驗ト稱ス)ニ合格シタル者ニシテ自ラ營業ヲ管理スルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ試驗ニ合格シタル者ヲシテ營業ヲ管理セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　理容術營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ願出テ許可ヲ受クベシ其ノ支店ヲ設ケントスルトキ又ハ管理人若ハ第三號、第四號、第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ但シ願ニ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　本籍、住所、氏名、生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ本籍、住所氏名、生年月日及定款ノ寫)

二　管理人ノ本籍、住所、氏名、生年月日

三　營業所ノ位置

四　營業ノ種別

五　試驗合格證書ノ寫又ハ營業者資格證書ノ寫(管理人ヲ置ク場合ハ管理人ノ合格證書ノ寫又ハ資格證書ノ寫)

六　營業所ノ構造仕樣書及圖面

七　營業所ノ落成期日

八　第七條ノ疾患ナキコトヲ證明セル醫師ノ診斷書(管理人ヲ置ク場合ハ管理人ノ診斷書)

前項第一號、第二號ノ事項ニ異動アリタルトキハ五日以內ニ第七號ノ期日ヲ變更セントスルトキハ所轄警察署ニ屆出ヅベシ

第三條ノ二　理容術營業ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ理容術免許鑑札ヲ交付ス

第三條ノ三　理容術免許鑑札ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄警察署ニ再交付ヲ願出ヅベシ

第四條　營業所ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルベシ但シ結髮、染毛、擀毛直シヲ營業トスル者ニ限リ其ノ制限ヲ斟酌スルコトアルベシ

一　營業所ノ床ハ板張又ハ「コンクリート」、石、煉瓦ノ類ヲ以テ造ルコト

二　洗場ハ不滲透質ノ材料ヲ用ヒ汚水排除ノ設備ヲナスコト

三　採光換氣ノ設備ヲ完全ナラシムルコト

四　洗面用水ハ流出裝置トナスコト

五　適當ノ位置ニ毛髮其ノ他ノ汚物ヲ蒐集スルタメ覆蓋アル容器ヲ設備スルコト

第五條　營業所落成シタルトキハ所轄警察署ニ屆出テ使用ノ認可ヲ受クベシ

第六條　營業者ハ家族、雇人其ノ他ノ者ヲシテ營業ニ從事セシメントスルトキハ本人ノ本籍、住所、氏名、生年月日ヲ具シ第三條第一項第八號ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署ニ屆出ヅベシ

前項ノ從業者從業セサルニ至リタルトキ又ハ其ノ屆出事項ニ異動アリタルトキハ五日以內ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ理容術ノ營業ニ從事シ又ハ從事セシムルコトヲ得ス

一　精神病者

二　癩癲病者

三　傳染性疾患アル者

第八條　營業者ハ營業所內來客ノ見易キ場所ニ理容術料金額ヲ掲示スヘシ

第九條　營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　營業所ハ常ニ清潔ニシ毛髮、紙片類等ノ汚物ハ容器ニ收容スルコト

二　椅子ハ常ニ清潔ナル白布ヲ以テ被覆スルコト

三　營業ニ從事中ハ白布ノ作業衣ヲ著用シ顏面作業ノ際ハ「マスク」ヲ使用スルコト

四　手指ノ爪ハ常ニ短クシ作業著手前一客毎ニ石鹼ヲ以テ手指ヲ洗滌スルコト

五　頭卷、枕當、蒸タオル、手拭其ノ他客ノ皮膚ニ接觸スル布片類ハ一

客毎ニ清潔ナルモノト取換フルコト

六　客用ノ被布ハ清潔ナル白布ヲ用フルコト

七　客ノ皮膚ニ接觸スル器具ハ一客毎ニ消毒スルコト

八　洗滌ニ使用スル水ハ清淨ナルモノヲ用フルコト

九　染毛又ハ癖毛直シニ使用スル水、藥品ノ類及其ノ容器ハ一客毎ニ清潔ナルモノト取換フルコト

十　剃毛ニ使用スル石鹼ハ粉末又ハ液體ノモノヲ用ヒ容器及石鹼液ハ一客毎ニ清潔ナルモノト取換フルコト

十一　客ノ需ニ依ルノ外鼻腔、耳孔ノ剃毛又ハ掃除ヲナササルコト

十二　酒氣ヲ帶ヒテ作業ヲ爲ササルコト

第十條　前條第七號ノ消毒ハ左ノ各號ノ藥品ノ一ヲ以テ之ヲ爲スベシ

一　稀アルコール（日本藥局方）

二　クレゾール水（クレゾール石鹼液三分、水九十七分）

第十一條　傳染性疾患者又ハ其ノ疑アル客ニ使用シタル器具、被布、手拭、椅子ノ被布、枕當、頭卷及作業衣ハ一客ノ作業ヲ終リタル毎ニ左ノ各號ノ一ニ依リ消毒スヘシ

一　藥品消毒（三十三倍ノ石炭酸水又ハクレゾール水ニ二時間以上浸漬シ更ニ淨水ヲ以テ洗滌スヘシ）

二　蒸氣消毒（攝氏百度以上ノ流通蒸氣ニ一時間以上觸レシムヘシ）

三　煮沸消毒（沸騰後三十分以上煮沸スヘシ）

第十二條　警察官吏又ハ衛生技術員ハ營業時間內營業所ニ臨檢スルコトアルヘシ

第十三條　營業者ハ當該官吏ノ要求アリタルトキハ理容術免許鑑札試驗合格證書又ハ營業者資格證書ヲ提示スヘシ

第十四條　左ノ第一號第二號ノ場合ニ於テハ營業者ヨリ第三號ノ場合（法人ニ在リテハ解散ノ場合）ニ於テハ戶籍法ニ依ル屆出義務者（法人ニ在リテハ淸算人）ヨリ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

一　廢業シタルトキハ五日以內

二　一箇月以上休業セントスルトキハ五日前

三　營業者死亡シタルトキハ五日以內

第十五條　所轄警察署ニ於テ必要アリト認メタルトキハ營業者、管理人又ハ從業者ニ對シ醫師ノ診斷書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條　所轄警察署ニ於テ管理人又ハ從業者素行不良其ノ他不適當ト認メタルトキハ營業者ニ對シ管理人ノ變更又ハ從業者ノ從業禁止ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條　本令ニ定ムルモノノ外所轄警察署ニ於テ營業ニ關シ取締上必要アリト認メタルトキハ營業者又ハ管理人ニ對シ特ニ命令ヲ發スルコトアルヘシ

第十八條　營業者所在不明三箇月ニ及ヒタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十九條　營業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ停止ヲ命スルコトアルヘシ

一　正當ノ理由ナクシテ第三條第一項第七號ノ落成期日ヲ經過シタルトキ

二　正當ノ理由ナクシテ第五條ノ使用認可アリタルニ拘ハラス一箇月以內ニ開業セサルトキ

三　引續キ六箇月以上休業シ尙開業ノ見込ナシト認メタルトキ

四　衛生、風俗其ノ他公安ヲ害スル虞アリト認メタルトキ

五　本令ニ違反シ又ハ本令ニ基キ發スル命令ニ從ハサルトキ

六　素行不良其ノ他不適當ト認メタルトキ

前項ノ取消又ハ停止處分ヲ受ケタル者ニシテ改悛ノ情顯著ナルトキハ更ニ許可ヲ與ヘ又ハ解除處分ヲ爲スコトアルヘシ

第二十條　營業者ハ警察署ノ管轄區域ニ依リ組合ヲ設置スベシ但シ營業ノ種別ニ依リ組合ヲ設置スルコトヲ得

營業者ハ組合ニ加入スヘシ

第二十一條　組合ヲ設立セントスルトキハ規約ヲ定メ代表者ニ於テ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ

組合規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　組合ノ名稱、區域、事務所ノ位置

二　役員ノ名稱、員數、職務權限、選任方法、任期報酬ニ關スル事項

三　事業ニ關スル事項

四　會議ニ關スル事項

五　理容術料金ニ關スル事項

六　就業時間及休日ニ關スル事項

七　經費ニ關スル事項

八　違約者ニ關スル事項

第二十二條　前條ニ依リ設置シタル組合ハ縣聯合組合ヲ設クルコトヲ得

第二十三條　縣聯合組合ヲ設置セントスルトキハ規約ヲ定メ代表者ニ於テ其ノ事務所所在地所轄警察署ヲ經由シ知事ノ認可ヲ受クヘシ規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ

縣聯合組合規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　第二十一條第二項第一號乃至第四號及第七號ノ事項

第二十四條　左ノ各號ノ事項ハ代表者ヨリ組合ニ於テハ所轄警察署ニ縣聯合組合ニ於テハ事務所所在地所轄警察署ヲ經由シ知事ニ屆出ツヘシ

一　組合ノ役員ヲ定メ又ハ其ノ異動シタルトキハ五日以內

二　會議ヲ開カントスルトキハ五日前

三　會議ノ狀況及決議事項ハ五日以內

四　組合ヲ解散セントスルトキハ五日前

第二十五條　組合又ハ縣聯合組合ニ對シ取締上必要アリト認メタルトキハ組合設置ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十六條　組合ニ對シテハ所轄警察署縣聯合組合ニ對シテハ知事ニ於テ取締上必要アリト認メタルトキハ規約又ハ役員ノ變更、決議事項ノ取消、其ノ他ノ事項ヲ命スルコトアルヘシ

第二十七條　試驗ハ每年一回之ヲ行フ但シ必要ニ依リ臨時ニ試驗ヲ行フコトアルヘシ

試驗ノ種別、出願期限、施行ノ日時場所ハ豫メ之ヲ告示ス

第二十八條　試驗ヲ分チテ左ノ三種トス

第一種　頭髮髮髯ノ剪刺、染毛、癖毛直シノ試驗

第二種　結髮、染毛、癖毛直シノ試驗

第三種　美顏術ノ試驗

第二十九條　試驗ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ住所地所轄警察署ヲ經由シ知事ニ願出ツヘシ

一　本籍、住所、氏名、生年月日

二　試驗ノ種別

三　履歷書

四　理容術ヲ實地修得シタル營業者ノ證明書

五　戶籍謄本若ハ抄本

第三十條　試驗ハ滿十七歲以上ノ者ニシテ左ノ期間理容術ヲ實地修得シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

一　第一種、第三種試驗ニアリテハ二箇年以上

二　第二種試驗ニアリテハ一箇年以上

第三十一條　試驗ハ學術及實地ニ就キ之ヲ行ヒ學術試驗ハ筆記又ハ口述トシ左ノ科目ニ付之ヲ行フ但シ必要ニ依リ實地試驗ハ省略スルコトアルヘシ

一　理容術ニ關スル生理、解剖、傳染性疾病ノ大意
二　理容術材料品ノ大要
三　消毒方法
四　理容術營業ノ關係法令

第三十二條　試驗ニ合格シタル者ニハ第一號樣式ニ依ル合格證書ヲ交付ス

第三十三條　受驗者ハ試驗場ニ於テハ總テ試驗係員ノ指示ニ從フヘシ受驗者試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ試驗ヲ停止シ又ハ其ノ試驗ヲ無效トス

第三十四條　他ノ廳府縣ニ於テ試驗ニ合格シ又ハ之ト同一ノ資格ヲ有スル者ニ對シテハ考査ノ上第二號樣式ノ營業者資格證書ヲ交付ス

前項營業者資格證書ハ合格證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十五條　前條ノ規定ニ依リ營業者資格證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ住所地所轄警察署ヲ經由シ知事ニ願出ツヘシ

一　本籍、住所、氏名、生年月日
二　營業ノ種別
三　履歷書
四　戸籍謄本若ハ抄本
五　他ノ廳府縣ニ於テ受ケタル試驗合格證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル證書ノ寫

第三十六條　試驗合格證書又ハ營業者資格證書ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ毀損ノ場合ハ本證書ヲ添付シ住所地所轄警察署ヲ經由シ知事ニ願出試驗合格又ハ營業者資格ヲ有スル證明書ノ再交付ヲ受クヘシ

第三十六條ノ二　第二條ニ依ル試驗及第三十四條ニ依ル考査ヲ受ケントスル者ヘ理容術免許試驗手數料金壹圓、第三條ノ二ニ依ル免許鑑札ノ交付ヲ受ケントスル者ハ理容術免許鑑札交付手數料金七十錢第三條ノ三ニ依ル理容術免許鑑札ノ再交付ヲ受ケントスル者ハ理容術免許鑑札再交付手數料金五十錢ヲ別記樣式ニ依リ現金ヲ以テ所轄警察署ニ納付スヘシ

納付シタル手數料ハ之ヲ還付セズ

第三十七條　公衆ニ對シ無料ニテ理容術ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ屆出ツヘシ工場、鑛山其ノ他各種ノ組合又ハ團體ニ於テ其ノ從業員又ハ組員若ハ團體員ヲ限リ理容術ヲ爲サントスルトキ亦同シ

一　本籍、住所、氏名、生年月日（法人又ハ組合若ハ團體ニ在リテハ其ノ名稱、事務所々在地、代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月日）
二　理容術業務從事者ノ本籍、住所、氏名、生年月日
三　理容術ノ種別
四　理容術業務所ノ位置及構造ノ概要
五　理容術ノ業務ニ關スル定款又ハ規定等ノ定アルモノハ其ノ寫

理容術ノ業務ヲ廢止シ又ハ前項各號ノ事項ニ變更アリタルトキハ五日以內ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第三十八條　前條經營者ニ對シテハ第七條、第九條乃至第十二條、第十五條ノ規定及其ノ罰則並第四十一條ノ規定ヲ準用ス但シ經營者カ組合又ハ團體ナルトキハ經營者ニ對スル罰則ハ之ヲ其ノ代表者ニ適用ス

第三十九條　第六條乃至第十一條、第十三條ノ規定及其ノ罰則並第四十一條第一項ノ規定ハ之ヲ管理人ニ準用ス

第四十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第三條ノ許可ヲ受ケツシテ營業ヲ爲シタル者又ハ第三十七條第一項ノ屆出ヲ爲サスシテ理容術ノ業務ヲ爲シタル者
二　第五條ノ認可ヲ受ケスシテ營業所ヲ使用シタル者
三　第六條、第十四條、第三十七條第二項ノ屆出ヲ爲ササル者
四　第七條乃至第十一條、第十三條ニ違反シタル者
五　第十五條乃至第十七條ニ基キ發スル命令ニ從ハサル者
六　第十九條ノ停止中營業ヲ爲シタル者

第四十一條　營業者ハ家族、同居所、雇人、其ノ他從業者カ本令又ハ本令ニ基キ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ營業者ニ對スル罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

第四十二條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條　本令施行ノ際理髮營業ノ許可ヲ受ケ居ル者ハ昭和七年十二月三十一日迄本令ニ依ル營業ヲ爲スコトヲ得

前項營業者ニ對シテハ第二條、第四條、第十三條ヲ適用セス

第四十四條　前條第一項ノ營業者ニシテ左ノ屆出ヲ爲シタル者ハ本令ニ依ル營業ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

一　自カラ營業ヲ管理シ居ル者ハ昭和七年十二月三十一日迄ニ第三條第一項第一號、第三號、第四號ノ事項ヲ具シ知事ニ屆出ツヘシ
二　自ラ營業ヲ管理セサル者又ハ支店ヲ有スル者ハ昭和七年十二月三十一日迄ニ管理人ヲ定メ第三條第一項第一號乃至第五號、第八號ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第四十五條　前條第一項第一號ノ屆出者ニ對シテハ第二號樣式ノ營業者資格證書ヲ交付ス

前項ノ營業者資格證書ハ試驗合格證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十六條　第四十四條ノ營業者ニシテ本令ニ抵觸スル營業所ハ昭和八年二月末日迄ニ本令第四條ニ規定シタル構造設備ニ改メ第五條ニ準シ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條　本令施行ノ際認可ヲ受ケ設置シアル理髮組合並縣聯合組合ハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第四十八條　本令施行ノ際第三十七條第一項ノ業務ヲ開始シ居ル者ハ昭和七年八月三十一日迄ニ同條第一項各號ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第四十九條　昭和二年四月山梨縣令第三十二號理髮營業取締規則ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

二十六センチメートル

第二號樣式

十八センチメートル

合格證書

族籍　氏　名

生年月日

美容術第　種試驗ニ合格シタルコトヲ證ス

年　月　日

山梨縣知事　氏　名印

別記樣式（用紙半紙）

十八センチメートル

營業者資格證書

族籍　氏　名

生年月日

美容術營業取締規則第　條ニ依リ營業者資格（　）ヲ有スルコトヲ證ス

年　月　日

山梨縣知事　氏　名印

二十六センチメートル

納付書

一金　　也

但シ理容術免許試驗料（理容術免許鑑札交付手數料）

右納付候也　　（〃　再交付手數料）

昭和　年　月　日　　住所　氏　名

何警察署長官氏名殿

●理容術營業取締規則施行手續

昭和七年七月七日
山梨縣訓令甲第九號

改正　昭和一一年四月訓令甲第九號

理容術營業取締規則施行手續左ノ通定ム

理容術營業取締規則施行手續

第一條　理容術營業取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第三條ノ出願アリタルトキハ規則第四條並第十九條第一項第四號、第六號ノ事項及第二條ニ抵觸ノ有無ヲ調査シ許否ヲ決スヘシ

規則第十九條第二項ニ依リ更ニ許可ヲ與ヘントスルトキハ意見ヲ具シ稟議スヘシ

第一條ノ二　理容術免許鑑札ハ別記樣式ニ依ルベシ

第二條　規則第四條ノ但書ニ依リ構造設備ノ制限ヲ斟酌スル場合ト雖モ第二號乃至第五號ノ設備ハ勵行セシムヘシ

第三條　規則第五條ノ屆出アリタルトキハ圖面並構造仕樣書ニ對照檢査シ不都合ナシト認メタルトキハ使用セシムヘシ

第四條　規則第十六條ニ依リ管理人ノ變更又ハ從業禁止ヲ命シタルトキハ

警察署

其ノ理由ヲ具シ報告スヘシ

第五條　規則第十七條ニ依ル命令ニシテ重要ト認メラルルモノハ報告スヘシ

第六條　規則第十八條ノ失效者アリタルトキハ左ノ事項ヲ具シ報告スルト共ニ縣ト各警察署ニ通報スヘシ

一　本籍、住所、氏名、生年月日

二　所在不明トナリタル年月日

三　失效トナリタル年月日

第七條　規則第十九條第一項ニ依リ許可ヲ取消シ又ハ營業停止ヲ命シ若ハ同條第二項ノ解除處分ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキハ理由ヲ詳具シ報告スヘシ

第八條　規則第二十一條ニ依リ認可ヲ與ヘタルトキハ規約ノ寫ヲ添ヘ報告スヘシ

組合解散ノ屆出アリタルトキハ其ノ理由ヲ調査報告スヘシ

規則第二十三條ノ認可申請ニ對シテハ認否ニ關スル意見ヲ具シ進達スヘシ

第九條　規則第二十五條ニ依リ組合又ハ縣聯合組合ノ認可ヲ取消スノ要アリト認メタルトキハ其ノ理由ヲ詳具シ報告スヘシ

第十條　規則第二十六條ニ依リ組合規約又ハ役員ノ變更、決議事項ノ取消、其ノ他ノ事項ヲ命シタルトキハ理由ヲ具シ報告スヘシ

縣聯合組合ニ對シ規約又ハ役員ノ變更、決議事項ノ取消、其ノ他ノ事項ヲ命スルノ必要アリト認メタルトキハ其ノ理由ヲ具シ報告スヘシ

第十一條　規則第二十九條ノ願書ヲ受理シタルトキハ受驗資格アル者ニ對シ性質、素行、前科ノ有無ニ關スル調査報告書ヲ添付シ進達スヘシ

第十二條　規則第三十五條ノ願書ヲ受理シタルトキハ同條第一項第五號ノ證書寫ハ本證書ト對照シ相違ナキトキハ證書寫ノ欄外又ハ餘白ニ其ノ旨記載シ取扱者認印シ性質、素行、前科ノ有無ニ關スル調査報告書ヲ添付進達スヘシ

第十三條　規則第三十六條ノ願書ヲ受理シタルトキハ其ノ事由ヲ調査シ報告書ヲ添ヘ進達スルト共ニ縣下各警察署ニ通報スヘシ

第十三條ノ二　規則第三十六條ノ二ニ依ル理容術免許試驗手數料ヲ受納シタルトキハ願書ニ領收年月日ヲ記シ取扱者認印スベシ

規則第三十六條ノ二ニ依ル理容術免許鑑札交付手數料及同再交付手數料ハ免許鑑札交付ノ際之ヲ徵收シ納付書ニ領收年月日ヲ記シ取扱者認印スベシ

第十四條　規則第三條ニ依リ營業ヲ許可シタルトキ又ハ第四十四條ノ屆出ヲ爲シタル者ハ第一號樣式ノ營業者名簿ニ登載シ異動ノ都度整理スヘシ

規則第十五條乃至第十七條ノ命令第十九條ノ處分ハ其ノ都度記事欄ニ記載スヘシ

第十五條　規則第六條ノ屆出アリタルトキ又ハ第四十四條該當營業者ニシテ既ニ屆出アル從業者ハ第二號樣式ノ從業者名簿ニ登載シ異動ノ都度整理スヘシ

從業禁止ヲ命シタル場合ハ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ

第十六條　規則第二十一條ニ依リ組合設置ヲ認可シタルトキハ第三號樣式ノ名簿ニ登載シ異動ノ都度整理スヘシ組合規約ハ名簿ニ添綴シ置クヘシ

第十七條　規則第三十七條ノ屆出アリタルトキハ第四號樣式ノ名簿ニ登載シ異動ノ都度整理スヘシ

附　則

第十八條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　昭和二年四月調令甲第二十四號ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

許可	年月日
指令番號	
廢業失效	年月日
營業者本籍住所、氏名生年月日	
營業種別	營業者又ハ管理人ノ營業資格　第　種試驗合格　第　條（　）
管理人本籍住所、氏名生年月日	
記事欄	

第二號樣式

營業種別	
營業者氏名	
本籍住所氏名生年月日	
雇入又ハ從業ハ年月日	
解雇又ハ廢業ハ年月日	
備考	

第三號樣式

認可年月日	
指令番號	
解散年月日	
組合名	
事務所所在地	
役員	役名
	就任年月日
	退任年月日
	住所
	氏名

第四號樣式

經營者本籍住所、氏名生年月日	
屆出年月日	
廢止年月日	
業務種別	
從業者	本籍住所氏名生年月日
	從業年月日
	廢止年月日

別記樣式（理容術免許鑑札）縱二六糎、横一八糎

第　號

理容術免許鑑札

營業所

何　某

生年月日

昭和　年　月　日

何警察署長官氏名殿

第十三章　獸疫

●家畜傳染病豫防法

大正十一年四月十日
法律第二十九號

改正　昭和二年三月法律第二八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル家畜傳染病豫防法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

家畜傳染病豫防法

第一條　本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬、緬羊、山羊、豚、犬、鷄及鶩ヲ謂ヒ傳染病ト稱スルハ牛疫、炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、牛肺疫、口蹄疫、狂犬病、羊痘、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、牛ノ傳染性流産、馬緬羊山羊ノ疥癬、加奈陀馬痘及家禽コレラヲ謂フ

家畜傳染病豫防上必要アルトキハ勅令ヲ以テ前項ノ家畜又ハ傳染病以外ノ畜類又ハ傳染性病ニ付本法ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條　家畜カ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アルトキ又ハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アルトキハ所有者、保管者又ハ診斷若ハ檢案シタル獸醫師ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨屆出ツヘシ但シ家畜カ船車ニ搭載スルモノナルトキハ船長、鐵道係員又ハ軌道係員ハ最初ニ寄港又ハ停留シタル地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ屆出ツヘシ

第三條　前條ノ家畜ニ付テハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ家畜ノ隔離其ノ他傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ

前項ノ家畜ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ殺スコトヲ得ス但シ鷄及鶩ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　左ニ揭グル家畜ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ殺スベシ

一　牛疫、牛肺疫又ハ狂犬病ニ罹リタル家畜

二　牛疫ニ感染シタル虞アル家畜但シ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行フモノヲ除ク

狂犬病ニ罹リタル犬ニ付所有者又ハ保管者緊急ノ必要アリト認ムルトキハ前項ノ指揮ヲ待タスシテ之ヲ殺スコトヲ得

第五條　地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ左ニ揭グル家畜ニ付其ノ所有者又ハ保管者ニ對シ之ヲ殺スコトヲ命ズルコトヲ得

一　炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、口蹄疫、羊痘、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、緬羊山羊ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ニ罹リタル家畜

二　牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜

三　牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ニシテ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行ヒタルモノ

地方長官ハ前項ノ家畜ニ付所有者又ハ保管者知レサル等ノ爲前項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲スコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ之ヲ殺サシムルコトヲ得

第六條　地方長官傳染病豫防上病性鑑定ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ノ屍體ヲ剖檢セシメ又ハ剖檢ノ爲家畜ヲ殺サシムルコトヲ得

第七條　地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ニ付檢診、免疫血清若ハ豫防液ノ注射又ハ藥浴ヲ行ハシムルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員前項ノ場合ニ於テ助力ヲ求ムルトキハ所有者

若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　左ニ揭ゲル屍體ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒却又ハ埋却スベシ但シ鷄及鶩ノ屍體ニ付テハ指揮ヲ待タズシテ之ヲ燒却又ハ埋却スルコトヲ得

一　傳染病ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體

二　牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體

前項ノ規定ハ左ニ揭ゲル屍體ニ之ヲ適用セズ

一　牛ノ傳染性流產又ハ馬緬羊山羊ノ疥癬ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ殺屍體

二　前號ニ揭ゲル家畜ノ斃屍體ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ化製スルモノ

三　假性皮疽又ハ加奈陀馬痘ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ化製スルモノ

四　病性鑑定又ハ學術研究ノ爲地方長官ノ許可ヲ受ケタル家畜ノ屍體

五　前各號ニ揭ゲルモノヲ除クノ外傳染病ニ罹リタル疑アル家畜及前項第二號ニ揭ゲル家畜ノ殺屍體ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ於テ病毒傳播ノ虞ナシト認メタルモノ

第九條　傳染病ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル物品ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スヘシ但シ家禽コレラノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スルコトヲ得

第十條　前二條ノ規定ニ依リ屍體又ハ物品ヲ埋却シタル土地ハ之ヲ發掘スルコトヲ得ズ但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條　傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ畜舍、船車其ノ他ノ場所ハ其ノ所有者、管理人、船長、鐵道係員又ハ軌道係員ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ消毒スヘシ但シ家禽コレラノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ消毒スルコトヲ得

第十二條　傳染病ノ病毒ニ觸接シ又ハ觸接シタル疑アル者ハ直ニ消毒ヲ爲スヘシ

警察官吏又ハ家畜防疫委員必要アリト認ムルトキハ前項ノ消毒ニ付指揮ヲ爲スコトヲ得

第十三條　牛、馬、緬羊、山羊又ハ豚カ疾病ノ爲斃死シタルトキハ所有者又ハ保管者ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　第三條、第四條、第八條、第九條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル義務者又ハ第五條ニ規定スル處分ニ依ル義務者カ其ノ義務ニ屬スル事項ヲ行ハス又ハ行フコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員之ヲ行フコトヲ得

第十五條　警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ畜舍、船車其ノ他家畜ノ所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ家畜防疫委員ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第十六條　地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ區域ヲ限リ一定種類ノ家畜ノ出入若ハ往來又ハ其ノ家畜ノ屍體若ハ傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ運搬ノ停止其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上緊要ノ必要アリト認ムルトキハ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ場所及其ノ隣接區域ニ對シ一定ノ期間交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第十七條　地方長官狂犬病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ道路、公園、社寺境內、墓地其ノ他ノ場所ニ徘徊スル犬ヲ抑留セシムルコトヲ得

警察官吏前項ノ規定ニ依リ犬ヲ抑留シタルトキハ其ノ所有者又ハ保管者ニ其ノ旨通知シ之ヲ受領セシムヘシ所有者及保管者知レサルトキハ抑留ノ旨ヲ公示スヘシ

前項ノ規定ニ依ル公示後命令ノ定ムル期間內ニ犬ノ返還ノ請求ナキトキハ地方長官ハ其ノ犬ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條　地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ屠場若ハ化製場ノ事業ノ停止又ハ家畜市場、家畜共進會若ハ競馬會ノ開設其ノ他家畜ヲ集合セシムル施設ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十九條　農林大臣傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類其ノ他傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ輸入又ハ移入ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第二十條　家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類ハ傳染病豫防ノ爲施行スル檢疫ヲ受クルニ非サレハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ前項ニ規定スル物ノ外傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物ニ付檢疫ヲ行フコトヲ得

第二十一條　檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ就海日誌其ノ他ノ書類ヲ檢閱スルコトヲ得

第二十二條　第二條乃至第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條ノ規定ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員トアルハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ檢疫官吏トス

第二十二條ノ二　第五條第二項又ハ第十四條ノ場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨スベシ但シ前條ノ規定ニ依リ檢疫官吏第十四條ノ事項ヲ行フ場合ニ於テハ國費ヲ以テ之ヲ支辨スベシ

前項ノ費用ヲ支辨シタル者ハ第二十三條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ノ定ムル所ニ依リ箇人ノ負擔ニ屬スル費用ヲ其ノ箇人ヨリ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第一項但書ノ規定ニ依ル費用ヲ徵收スル場合ニ於テハ國稅徵收法ヲ準用ス

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第二十二條ノ三　地方長官ハ第三條第一項ノ處置又ハ第十六條第一項ノ命令ニ因リ自活スルコト能ハザルニ至リタル者ニ對シ其ノ生活費ニ充ツル爲手當金ヲ交付スベシ

前項ノ手當金ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨スベシ

第二十三條　傳染病豫防ニ關スル費用ハ國、北海道地方費、府縣、市町村又ハ箇人ノ負擔トス其ノ負擔區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　地方長官ハ左ノ區分ニ從ヒ家畜又ハ物品ノ所有者ニ對シ手當金ヲ交付ス但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一　傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜但シ犬及第七條ノ規定ニ依リ豫防液ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染病ニ罹リタル家畜ヲ除ク　評價額ノ三分ノ一

二　第六條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜　評價額ノ五分ノ三

三　牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アリ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜、第七條ノ規定ニ依リ豫防液ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜及第七條ノ規定ニ依リ免疫血淸若ハ豫防液ノ注射又ハ藥浴ヲ行ヒタル爲斃死シタル家畜　評價額ノ五分ノ四

四　第九條ノ規定ニ依リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ燒却又ハ埋却シタル物品及第十四條ノ規定ニ依リ燒却又ハ埋却シタル物品

評價額ノ二分ノ一

前項ノ手當金ハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ前項第一號ニ規定スル家畜ニ付テハ之ヲ交付セズ前項第二號乃至第四號ニ規定スル家畜又ハ物品ニ付テハ其ノ額ハ前項第二號乃至第四號ニ揭ゲルモノノ二分ノ一トス

第八條第二項第五號ニ規定スル屍體ノ評價額ト前二項ノ家畜ノ手當金ノ額トノ合算額ガ第一項ノ家畜ノ評價額ヲ超ユルトキハ其ノ差額ハ之ヲ手當金ヨリ控除ス

第一項ノ評價額及前項ノ屍體ノ評價額ハ地方長官三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ定メシム地方長官其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ定メシムルコトヲ得

第一項ノ評價額ハ發病前又ハ病毒汚染前ノ價格ニ依リ之ヲ定ムベシ

第二十四條ノ二　第五條乃至第八條及前條ノ規定ニ於テ地方長官トアルハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ稅關長トス

第二十五條　前條ノ手當金ハ所有者又ハ保管者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ家畜又ハ物品ニ付之ヲ交付セス

一　第二條、第三條第一項、第四條第一項若ハ第九條又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ

三　第六條、第七條第一項又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シ屆出ヲ爲サザル獸醫師

二　第三條、第四條第一項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタル者

三　第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條、第十八條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタル者

四　第五條第二項、第六條、第七條第一項、第十四條又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタル者

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シ屆出ヲ爲サザル所有者、保管者、船長、鐵道保員又ハ軌道係員

二　第八條乃至第十一條ノ規定ニ違反シタル者

三　第十二條第二項ノ規定ニ依ル指揮ニ從ハサル者

四　正當ノ理由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ檢閲ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ答辯ヲ爲シタル者

第二十八條　第十三條ノ屆出ヲ爲サザル者ハ科料ニ處ス

第二十九條　航海中ノ船舶ニ在リテハ船長ハ第三條、第八條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラス命令ノ定ムル所ニ依リ傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第三十條　第二十條ノ規定ハ宮內省又ハ國ノ管理ニ屬スル家畜其ノ他ノ物ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ハ軍用ノ家畜ニシテ軍衙ニ於テ檢疫ヲ行フモノニ之ヲ適用セス

第三十一條　本法中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者アル場合ニ於テハ其ノ者ニ之ヲ適用ス

第三十二條　本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（大正十二年一月勅令第七號ヲ以テ同年同月二十日ヨリ施行）

獸疫豫防法及大正九年法律第三十號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ獸疫豫防法第四條、第四條ノ二、第五條又ハ第八條第一項ノ場合ニ該當シタルモノニ對スル手當金ノ交付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●家畜傳染病豫防法中家禽コレラニ關スル規定ヲ家禽ペストニ適用スルノ件

昭和十一年八月十九日
勅令第二百六十八號

朕家畜傳染病豫防法中家禽コレラニ關スル規定ヲ家禽ペストニ適用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

家畜傳染病豫防法中家禽コレラニ關スル規定ハ家禽ペストニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●家畜傳染病豫防法施行規則

大正十二年一月十九日
農商務省令第一號

改正　昭和二年四月農林省令第八號

家畜傳染病豫防法施行規則左ノ通定ム

家畜傳染病豫防法施行規則

第一條　警察官吏又ハ家畜防疫委員家畜傳染病ノ發生又ハ發生ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ其ノ旨地方長官ニ報告シ且市町村長ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ旨部內ニ公示スヘシ

第二條　傳染病發生シ又ハ終熄シタルトキハ地方長官ハ其ノ旨管內ニ告示シ且農林大臣及隣接府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫發生シタルトキ又ハ傳染病蔓延ノ兆アリト認ムルトキハ地方長官ハ農林大臣並隣接府縣及家畜集散上密接ノ關係アル道府縣ノ地方長官ニ急報スヘシ

家畜傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要ト認ムル傳染性病發生シタルトキハ地方長官ハ其ノ旨農林大臣ニ急報スヘシ

第三條　假性皮疽、牛ノ傳染性流產、馬緬羊山羊ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜及犬以外ノ家畜ニシテ狂犬病ニ感染シタル虞アルモノニ限リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ隔離ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ隔離以外ノ處置ニ止ムルコトヲ得

第四條　地方長官家畜傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ家畜ニ付檢診、免疫血清若ハ豫防液ノ注射又ハ藥浴ヲ行ハシメムトスルトキハ家畜ノ種類、區域及日時ヲ告示スヘシ但シ緊急ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　左ニ揭ゲル屍體又ハ物品ヲ運搬セムトスルトキハ牛疫、氣腫疽、牛肺疫、口蹄疫又ハ牛ノ傳染性流產ノ場合ニ在リテハ牛ヲ、鼻疽、假性皮疽、馬ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ノ場合ニ在リテハ馬ヲ、炭疽ノ場合ニ在リテハ牛又ハ馬ヲ用ヰルコトヲ得ズ

一　傳染病ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體

二　牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體

三　病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル物品

第六條　前條ノ屍體又ハ物品ヲ埋却スル土坑ハ屍體又ハ物品ヲ投入スルモ尚地表迄一メートル以上ノ餘地ヲ有スルモノタルコトヲ要シ屍體又ハ物品ヲ投入シタル後厚ク石灰ヲ撒布シ土ヲ以テ塡塞スヘシ

第七條　燒却又ハ埋却スヘキ屍體ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ截切スルコトヲ得ス

第八條　第五條ノ屍體又ハ物品ノ燒却又ハ埋却ハ人家、飲料水、河流又ハ道路ニ接近セサル場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ埋却ヲ爲シタル場所ハ之ヲ標示スヘシ

第八條ノ二　家畜傳染病豫防法第八條第二項第五號ノ規定ニ依ル認定ノ申請アリタルトキハ地方長官(檢疫ノ場合ニ於テハ稅關長)ハ豫メ警察官吏又ハ家畜防疫委員(檢疫ノ場合ニ於テハ檢疫官吏)ヲシテ屍體ヲ剖檢セシメ家畜ガ傳染病ニ罹リタルモノナルコト明ナラザル場合ニ限リ申請者ヲシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員(檢疫ノ場合ニ於テハ檢疫官吏)ノ指揮ニ從ヒ皮、毛、角又ハ蹄ヲ屍體ヨリ分離シ之ヲ消毒セシメ其ノ他ノ部分ハ之ヲ燒却又ハ埋却セシムベシ

第九條　家畜傳染病豫防法ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十條　地方長官家畜傳染病豫防法第十六條第一項又ハ同法第十八條ノ規定ニ依ル停止ヲ命シタルトキ又ハ之ヲ解除シタルトキハ其ノ旨管內ニ告示シ且農林大臣竝隣接府縣及家畜集散上密接ノ關係アル道府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

第十一條　家畜傳染病豫防法第十七條第二項ノ規定ニ依ル公示ニハ犬ノ種類、性、年齡、毛色及特徵之ヲ捕ヘタル場所及日時竝其ノ抑留ノ場所ヲ記載スヘシ

家畜傳染病豫防法第十七條第三項ノ期間ハ三日トス

第十二條　地方長官ハ狂犬病流行ノ際危險アリト認ムル區域ニ於テハ所有者又ハ保管者ヲシテ犬ヲ繫留セシムヘシ但シ口綱ヲ附シテ牽行スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　航海中家畜カ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アルトキハ船長ハ其ノ家畜ヲ隔離シ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル場所及物品ハ之ヲ消毒スヘシ

前項ノ家畜ニシテ斃死シタルトキハ其ノ屍體ハ消毒液ヲ浸シタル莚又ハ菰等ヲ以テ全體ヲ包裹シ病毒ノ散蔓ヲ防クヘシ但シ領海外ニ於テハ之ヲ投棄スルコトヲ得

第十四條　家畜防疫委員ハ地方長官其ノ所屬ノ官吏、吏員若ハ市町村吏員又ハ獸醫師ノ中ヨリ之ヲ命スヘシ評價人ハ地方長官(檢疫ノ場合ニ於テハ稅關長)其ノ所屬ノ官吏、吏員又ハ市町村吏員及畜產業ニ經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ選定スヘシ

第十五條　家畜傳染病豫防法第十五條ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

第十六條　本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本則中町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附則

本則ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス　(大正十二年一月二十日ヨリ施行)

明治三十年農商務省令第一號ハ之ヲ廢止ス

(別記)

表面

五センチメートル

第　號　昭和　年　月　日交付

家畜防疫委員證票

廳府縣印

氏　名

十センチメートル

裏面

家畜傳染病豫防法第十五條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ畜舍、船車其ノ他家畜所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ家畜防疫委員ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

家畜傳染病豫防法第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

四　正當ノ理由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ檢閱ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ答辯ヲ爲シタル者

●家畜傳染病豫防法施行細則

大正十三年四月
山梨縣令第八號

家畜傳染病豫防法施行細則左ノ通定ム

家畜傳染病豫防法施行細則

第一條　本則ニ於テ法ト稱スルハ家畜傳染病豫防法、規則ト稱スルハ家畜傳染病豫防法施行規則ヲ謂フ

第二條　法第二條ニ依ル屆出ハ左記各號ニ依ル直ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ所有者、保管者又ハ鐵道係員、軌道係員ニ在リテハ第三號、第六號及第七號ヲ除ク

一　所有者、保管者ノ住所氏名

二　畜類、品種、性、年齡、毛色、特徵

三　病　名

四　發病月日

五　發病地、經過地、現在地

六　診斷又ハ檢案月日時

七　系　統

第三條　前條屆出ノ畜類轉歸シタルトキハ所有者又ハ保管者ハ前條第二號乃至第四號ノ外快復、斃死ノ別及其ノ年月日ヲ直ニ所轄警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ屆出ツヘシ但シ快復ノ場合ハ獸醫ノ連署ヲ要ス

第四條　規則第四條ニ依ル期日、場所ノ告示アリタルトキハ其ノ區域內ノ所有者、保管者ハ事項完了スル迄該畜類ヲ移動スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ依リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　法第十三條ニ依ル屆出ハ獸醫ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添ヘ其ノ畜類

別、斃死年月日竝場所ヲ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヘシ法第十三條第二項ノ場合警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ必要ナシト認メタルトキハ診斷書、檢案書ヲ省略セシムルコトアルヘシ

第六條　法第十七條ニ依リ抑留犬ノ返還ヲ請求スル者ハ其ノ際飼養管理ノ實費ヲ當該警察官署ニ納付スヘシ

第七條　規則第八條ニ依ル處分ノ場所ハ最寄斃獸捨場トス但シ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ豫防上必要アリト認ムルトキハ此ノ限ニアラス

第八條　本則第三條第四條第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十六年二日山梨縣令第四號傳染病馬賣買讓與屆出方ノ件ハ之ヲ廢止ス

●家畜傳染病豫防法施行手續

大正十三年四月
山梨縣訓甲第九號

内務部　警察部　郡役所　市役所　町村役場
警察署　警察分署

家畜傳染病豫防法施行手續左ノ通定ム

家畜傳染病豫防法施行手續

第一條　家畜傳染病豫防法施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第二條ノ屆出ヲ受ケタルトキ又ハ傳染病ヲ發見シタルトキハ速ニ報告シ診斷確定ノ上ニ更ニ第一號樣式ニ依リ轉歸ノ場合ハ第二號樣式ニ依リ報告スヘシ

第二條　家畜傳染病豫防法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條ノ場合ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ市町村長ニ其ノ病名、畜類、頭數、發生地及年月日ヲ通報スヘシ

第三條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ家畜傳染病豫防法（以下單ニ法ト稱ス）ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要ト認メタル傳染性病發生シタル場合ハ其ノ病勢竝蔓延ノ狀況ヲ速ニ報告スヘシ

第四條　規則第三條ニ依リ隔離以外ノ處置ヲ爲シタルトキハ其ノ畜類、病名、所在地、所有者又ハ保管者ノ氏名、處置ノ要領ヲ報告スヘシ

第五條　規則第四條ニ依ル告示アリタル場合ハ十日以内ニ其ノ畜類、頭數ヲ調査シ第三號樣式ノ臺帳ニ登載シ第四號樣式ニ依リ報告スヘシ

前項ノ成績ハ完了後二十日以内ニ調査シ第五號樣式ニ依リ報告スヘシ

第六條　法第十六條第二項ニ依リ交通遮斷ヲ爲シタルトキハ區域竝期間及其ノ狀況ヲ速ニ報告スヘシ

第七條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ法第五條ノ執行ヲ必要ト認メ又ハ法第六條ニ依ル病性鑑定ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ旨急報スヘシ

第八條　規則第十一條ニ依ル抑留公示ノ際ハ隣接警察官署ヘ其ノ事項ヲ速ニ通報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル警察官署ニ在リテハ該事項ヲ直ニ公示スヘシ

第九條　細則第五條ニ依ル屆出ハ之ヲ第六號樣式ニ依リ翌年一月十五日迄ニ年表トシテ報告スヘシ

第十條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ法第十四條ノ處置ヲ爲シタルトキハ第七號樣式ノ明細書ヲ添付シ報告スヘシ

第十一條　警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ法第二十四條ノ畜類又ハ物品ノ評價ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ處理スヘシ

一　評價人ハ三名ヲ選定シ署名捺印シタル評價書ヲ發シ其ノ評價ヲ平均シタル額ヲ評價額トナスヘシ

二　警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ前號ノ評價額不當ト認メタル場合ハ更ニ評價人ヲ選定シ再評ニ付スヘシ

三　評價ニ關スル書類ハ之ヲ一括シ評價終了後五日以内ニ報告スヘシ

附　則

明治三十一年五月示令第五十號獸疫報告樣式ハ之ヲ廢止ス

●家畜傳染病豫防法施行心得

大正十二年一月二十日
農商務省訓令第一號

改正　昭和二年四月農林省訓令第一號

家畜傳染病豫防法施行心得左ノ通定ム

家畜傳染病豫防法施行心得

一　家畜傳染病發生シタルトキハ其ノ終熄スル迄第一號樣式ニ依リ毎月十日迄ニ前月ノ狀況ヲ農林大臣ニ報告スヘシ但シ牛疫、牛肺疫、口蹄疫、羊痘及豚コレラニ付テハ月表ノ外特種ノ狀況ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

二　家畜傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ免疫血清又ハ豫防液ノ注射ヲ行ヒタルトキハ注射完了後其ノ成績ヲ調査シ遲滯ナク第二號樣式又ハ第三號樣式ニ依リ其ノ狀況ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

三　免疫血清、豫防液又ハ診斷液ノ交付ヲ受ケタルトキハ毎年四月三十日迄ニ第四號樣式ニ依リ前年度ニ於ケル其ノ受拂ヲ獸疫調査所長ニ報告スヘシ

四　家畜傳染病豫防法第十三條ノ規定ニ依ル屆出ハ一年分ヲ取纏メ第五號樣式ニ依リ翌年一月末日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

五　傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アル家畜ヲ殺サムトスル場合ハ其ノ所在ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ燒却又ハ埋却ヲ爲ス場所ニ於テ殺ス場合又ハ化製場若ハ屠場ニ於テ殺ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

六　家畜傳染病豫防法第八條第二項第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ル化製ハ消毒裝置其ノ他病毒ノ散蔓ヲ防止スルニ足ルヘキ設備ヲ有スル化製場ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

七　家畜傳染病豫防法第八條第二項第五號ノ規定ニ依ル認定ヲ爲シタルトキハ毎月十日迄ニ前月ノ狀況ヲ第六號樣式ニ依リ農林大臣ニ報告スヘシ

八　家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫ヲ行ヒタルトキハ毎月十日迄ニ前月中ノ檢疫成績ヲ第七號樣式ニ依リ農林大臣ニ報告スヘシ

甲

第七號樣式

家畜傳染病調査表（何年何月分）

廳府縣名

病名	畜類	發病又ハ感染ノ頭數	斃死殺頭數	快復數	摘要
累計					
備考	發病地、流行地方、系統、病勢其ノ他參考トナルヘキ事項				

（注意）

（一）斃死、殺及快復頭數ハ既ニ其ノ家畜ノ發病報告ヲ爲シタルモノニ付テハ朱書スヘシ

（二）牛疫、牛肺疫又ハ口蹄疫ニ感染シタル虞アル家畜ニ付テハ病名欄ニ其ノ旨記入スベシ

（三）免疫血清又ハ豫防液ヲ注射シタル家畜ニシテ其ノ有效期間中ニ發病シタルモノアルトキハ其ノ頭數ヲ摘要欄ニ記入スベシ

（四）累計ハ病名、畜類別ニヨリ同年一月以降ノ頭數ヲ記載スヘシ以下之ニ倣フ

乙

檢疫中ニ於ケル家畜傳染病調査表（何年何月分）

檢疫港名

船名	入港月日	病名	畜類	搭載頭數	發病頭數	斃死數	殺頭數	快復頭數	摘要
計									
累計									
備考	系統、病勢其ノ他參考トナルヘキ事項								

（注意）甲ニ同シ

第二號樣式

甲

何々免疫血清注射成績表（注射施行ノ始期　年　月　日　同　終期　年　月　日）

廳府縣名

注射目的畜類	注射頭數	注射後 發病頭數	斃死頭數	殺頭數	快復頭數	摘要
備考	注射ノ爲生シタル事故ノ狀況					

（注意）使用シタル血清ニ付テハ其ノ製造所ノ官公私別ニ大體ノ步合ヲ備考欄ニ記載スヘシ

乙

檢疫中ニ於ケル何々免疫血清注射成績表（同上）

檢疫港名

搭載地名	注射目的畜類	注射頭數	注射後 發病頭數	斃死數	殺頭數	快復數	摘要
備考	甲ニ同シ						

第三號樣式

（注意）甲ニ同シ

甲

何々豫防液注射成績表（同注射施行ノ終始期間　年　月　日）

廳府縣名

畜類	注射頭數 注射第一回	注射頭數 注射第二回	注射後 頭發數	注射後 頭斃數	注射後 殺頭數	注射後 頭快復數	摘要
備考	注射反應ノ概況、注射ノ爲生シタル事故ノ狀況						

（注意）使用シタル豫防液ニ付テハ其ノ製造所ノ官公私別ニ大體ノ歩合ヲ備考欄ニ記載スヘシ

乙

檢疫中ニ於ケル何々豫防液注射成績表（同上）

檢疫港名

地番名稱	畜類	注射頭數 注射第一回	注射頭數 注射第二回	注射後 頭發數	注射後 頭斃數	注射後 殺頭數	注射後 頭快復數	摘要

第四號樣式

（注意）甲ニ同シ

血清類受拂表（何年度分）

廳府縣、稅關名

種類	前年繰越度數量	受入數量	應用數量	廢棄數量	翌年度ニ繰越數量
	C.C.	C.	C.C.	C.C.	C.C.
備考	廢棄事由其ノ他參考トナルヘキ事項				

第五號樣式

家畜斃死表（何年分）

廳府縣名

	傳染性病	流行病	普通病	其ノ他	計
牛					
馬					
綿羊					
山羊					
豚					
摘要					

備考
衛生狀態、斃死多キ疾病ニ付テハ其ノ原因其ノ他參考トナルヘキ事項

（注意）傳染性病及流行病ニ付テハ病名ノ分明セルモノハ其ノ病名別頭數ヲ各摘要欄ニ記入スヘシ
本表中ニハ法律ニ規定シタル傳染病ノ爲斃死シタルモノヲ含マス

第六號樣式

家畜傳染病豫防法第八條第二項第五號ノ規定ニ依ル認定表（何年何月分）

廳府縣、檢疫港名

病名	殺原因	畜類	頭數	摘要

（注意）
（一）殺原因欄ニハ病性鑑定ノ爲殺シタルモノナル場合ニハ「鑑」、傳染病ニ感染シタル虞アリテ殺シタルモノナル場合ニハ「虞」等ト記入スベシ
（二）摘要欄ニハ利用シタル屍體ノ部分ノ內譯其ノ他參考トナルベキ事項ヲ記入スベシ

第七號樣式

甲

檢疫成績表（何年何月分）

檢疫港名

搭載仕向地名	搭載仕向地名	頭數 牛	馬	緬羊	山羊	豚	犬	鷄	鶩	其他ノ畜類	肉 牛肉	緬羊肉	豚肉	其他ノ肉	骨	皮	毛 緬羊毛	山羊毛	馬毛	豚毛	其他ノ獸毛	其他ノ物品	摘要

計

累計	備考
	檢疫中ニ於ケル事故ノ狀況、其ノ月收容ノ畜類別頭數其ノ他參考トナルヘキ事項

（注意）本表ニハ其ノ月檢疫終了解放シタルモノヲ記入スヘシ

乙

檢疫所ニ於ケル獸毛消毒成績表（何年何月分）

檢疫港名

種類	數量	消毒方法	摘要
計			
累計			
備考	消毒施行狀況其ノ他參考トナルヘキ事項		

●家畜傳染病豫防法ニ依リ交付スル手當金ノ最高金額ノ件

大正十二年一月十九日
勅令第八號

改正　昭和二年四月勅令第八一號

朕家畜傳染病豫防法ニ依リ交付スル手當金ノ最高金額ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

家畜傳染病豫防法第二十四條ノ規定ニ依リ手當金ノ最高金額左ノ通定ム

一　家畜傳染病豫防法第二十四條第一項第一號ノ場合

牛、馬	一頭ニ付	貳百五拾圓
緬羊、山羊、豚	同	拾參圓

二　同第二號ノ場合

牛、馬	一頭ニ付	四百五拾圓
緬羊、山羊、豚	同	貳拾四圓
犬	同	拾貳圓

	鷄、鶩	一羽ニ付	壹圓五拾錢
三　同第三號ノ場合			
	牛、馬	一頭ニ付	六百圓
	緬羊、山羊、豚	同	參拾貳圓
	犬	同	拾六圓
	鷄、鶩	一羽ニ付	貳圓
四　同第四號ノ場合			
	總額		六拾圓
五　家畜傳染病豫防法第二十四條第二項ノ場合			
	第二號乃至第四號ニ掲グルモノノ二分ノ一		

附　則

本令ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十二年一月二十日ヨリ施行）

●家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ノ件

大正十二年一月十九日
勅令第九號

改正　昭和二年勅令第八〇號

朕家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

家畜傳染病豫防法第二十三條及畜牛結核病豫防法第十六條ノ規定ニ依リ家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分左ノ通定ム

第一　左ニ掲グル費用ハ國ノ負擔トス

一　市町村吏員タル家畜防疫委員以外ノ家畜防疫委員ノ旅費

二　傳染病豫防ノ爲臨時傭入レタル獸醫師ノ手當及旅費

三　評價人ノ手當及旅費

四　家畜傳染病豫防法第二十四條第一項、第二項及畜牛結核病豫防法第十三條第一項ノ規定ニ依ル手當金

五　牛疫免疫血清ノ購入及配送並「ツベルクリン」ノ製造及配送ニ要スル費用

六　第三第六號及第四ニ掲クルモノヲ除クノ外傳染病及結核病ノ豫防ニ要スル消毒藥品費

七　第三ニ掲クルモノヲ除クノ外家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫及畜牛結核病豫防法第七條ノ規定ニ依ル檢査ニ要スル費用

八　家畜傳染病豫防法第二十二條ノ三第一項ノ規定ニ依ル手當金ノ三分ノ一

第二　左ニ掲クル費用ハ市町村ノ負擔トス

一　警察官吏又ハ家畜防疫委員カ傳染病豫防ノ爲傭入レタル傭人ノ費用

二　屍體又ハ物品ヲ埋却シタル土地ノ標示費

第三　左ニ掲クル費用ハ所有者、管理人、管理者又ハ保管者ノ負擔トス

一　家畜ノ牽付、送致、隔離、殺及家畜傳染病豫防法第三條第一項ノ處置ニ要スル費用

二　檢疫、檢査、隔離又ハ繫留中ニ要スル飼養管理費

三　抑留シタル犬ヲ返還スル場合ニ於テ其ノ犬ノ抑留中ニ要シタル飼養管理費及返還ニ要スル費用

四　家畜傳染病豫防法第九條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ指揮ヲ待タスシテ消毒ヲ行ヒタル場合ニ要シタル費用

五　屍體及物品ノ燒却又ハ埋却ニ要スル費用

六　家畜傳染病豫防法第八條第二項第五號ニ掲グル家畜ノ殺屍體ノ消毒ニ要スル費用

第四　屠場、化製場、家畜市場及之ニ附屬スル物品、消毒ニ要スル費用ハ場主又ハ開設者ノ負擔トス

第五　前各項ニ掲クルモノヲ除クノ外家畜傳染病又ハ畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

附　則

本令ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十二年一月二十日ヨリ施行）

明治三十四年勅令第百三十九號ハ之ヲ廢止ス

●畜牛結核病豫防法

明治三十四年四月十三日
法律第三十五號

改正　明治三五年二月法律第三號、四一年四月第四五號、大正三年三月第一〇號、一〇年四月第八四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル畜牛結核病豫防法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

畜牛結核病豫防法

第一條　乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ハ結核病ノ有無又ハ輕重ヲ定ムル爲行政官廳ニ於テ之ヲ檢査ス其ノ他ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルモノニ付亦同シ

第二條　前條ノ檢査ハ臨床的診察ニ依リ又ハ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ行フ

第三條　檢査ノ期日及場所ハ行政官廳之ヲ指定ス

第一條ニ掲ケタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ指定ニ從ヒ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ之ヲ屆出ツヘシ

第五條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ隔離スヘシ

第六條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第七條　外國ヨリ輸入スル畜牛及主務大臣ノ指定シタル地方ヨリ移入スル畜牛ハ特ニ定メタル場所ニ於テ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ檢査ス但シ主務大臣ニ於テ必要ナシト認メタル畜牛ニ對シテハ「ツベルクリン」ノ應用ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ檢査ニ關シテハ稅關長及檢査員ノ指揮ニ從フヘシ

第一項ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルトキハ稅關長又ハ檢査員ニ於テ其ノ輸入又ハ移入ノ禁止、繫留其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第八條　前條ニ依リ輸入又ハ移入ヲ禁止セラレタル者畜牛ヲ撲殺セムトスルトキハ稅關長及檢査員ノ指揮ニ從フヘシ

第九條　結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體及其ノ部分、畜牛ヲ置キタル場所竝病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ消毒スヘシ

第十條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁竝屍體及其ノ部分ハ皮角蹄ヲ除クノ外檢査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁竝屍體及其ノ部分ノ處分方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第十一條　結核病ニ罹リタル畜牛ヲ置キタル場所竝病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ檢査員ニ於テ其ノ燒棄又ハ埋却ヲ命スルコトヲ得

第十二條　結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚

染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却シタル場所ハ三箇年間之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　第六條又ハ第十一條ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄シ若ハ埋却シタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ所有者ニ對シ畜牛又ハ物品ノ評價額ノ二分ノ一ニ相當スル手當金ヲ下付ス但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ畜牛又ハ物品ノ評價ハ地方長官ノ選定スル三人以上ノ評價人ヲシテ之ヲ爲サシムル地方長官其ノ評價ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　左ノ場合ニ於テハ畜牛ノ手當金ヲ下付セス

一、檢査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ又ハ妨ケタルトキ

二、第四條、第五條又ハ第六條ニ違背シタルトキ

三、檢査ヲ受ケスシテ第七條ノ畜牛ヲ輸入又ハ移入シタルトキ

左ノ場合ニ於テハ物品ノ手當金ヲ下付セス

一、前項各號ノ一ニ該當スルトキ

二、第九條、第十條第一項又ハ同條第二項ニ基ツキテ發シタル命令ニ違背シタルトキ

三、第七條第二項、第三項又ハ第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサルトキ

第十五條　手當金ヲ受クヘキ者其ノ全部又ハ一部ヲ拒否スル處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十六條　畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫、北海道地方費、府縣及一個人ニ於テ之ヲ負擔ス

第十六條ノ二　本法ニ於テ外國種牛、雜種牛、內國種牛、乳用牛又ハ雜種種牡牛ト稱スル畜牛ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　檢査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者、檢査ヲ受ケスシテ第七條ノ畜牛ヲ輸入若ハ移入シタル者、第五條若ハ第六條ニ違背シタル者又ハ第七條第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第四條、第九條、第十條第一項若ハ第十二條ニ違背シタル者又ハ第七條第二項、第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ處罰ニ關シテ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十年法律第八十四號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年四月勅令第百二十四號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

本法施行前第六條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄シ若ハ埋却シタルニ因リ下付スル手當金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●畜牛結核病豫防法施行規則

明治三十六年五月三十日
農商務省令第四號

改正　明治三七年五月農商務省令第五號、三八年三月第九號、四一年四月第八號、四二年五月第一五號、大正三年三月第一一號、五年七月第一八號、九年六月第一〇號、一三年一二月第二八號

畜牛結核病豫防法施行規則左ノ通相定ム

畜牛結核病豫防法施行規則

第一條　外國種牛トハ歐羅巴種及亞米利加種ノ畜牛ヲ謂フ

雜種牛トハ外國種牛ノ血統ト其ノ他ノ畜牛ノ血統トヲ有スル畜牛ヲ謂フ

內國種牛トハ外國種牛及雜種牛ニ非サル畜牛ヲ謂フ

乳用牛トハ搾乳用ニ供シ又ハ供セムトスル畜牛ヲ謂フ

雜種種牡牛トハ雜種牛ニシテ種牡牛檢査ニ合格シタル畜牛及其ノ檢査ヲ受クムトスル畜牛ヲ謂フ

第二條　乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官カ告示シタル檢査期日三十日前迄ニ其ノ住所、氏名、畜牛ノ頭數、種類、牝牡、年齡、毛色、用途及所在地ヲ畜牛ノ所在地ヲ管轄スル官廳又ハ公署ニ屆出ツヘシ

前項屆出期間後新ニ檢査未濟ノ畜牛ヲ所有シ又ハ管理スルニ至リタル者ハ前項ニ準シ三日以內ニ屆出ツヘシ

檢査未濟ノ畜牛ニ關シ前二項ノ屆出事項ニ變更アリタルトキハ三日以內ニ之ヲ屆出ツヘシ但シ畜牛所在地ノ變更ニシテ他ノ官廳又ハ公署ノ管轄區域ニ亙ルトキハ新舊兩地ノ官廳又ハ公署ニ屆出ツヘシ

第三條　地方長官ハ一箇年每ニ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ノ檢査ヲ行フ但シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ對シ二回以上之ヲ行フコトヲ得

地方長官ハ隨時結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ檢査ヲ行フ

結核病ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ檢査ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ畜牛ニシテ「ツベルクリン」ヲ皮下注射シタルモノニ付テハ皮下注射後四十五日ヲ經ルニ非サレハ檢査ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條　前條第一項ノ檢査ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ定メ檢査ノ期日ヨリ少クトモ四十五日以前ニ之ヲ告示ス

官廳又ハ公署必要ト認ムルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項告示以外ノ期日又ハ場所ヲ指定スルコトヲ

前條第二項ノ檢査ノ期日及場所ハ官廳又ハ公署隨時之ヲ指定スヘシ

第五條　官廳又ハ公署ハ前條第一項ノ期日及場所ノ範圍內ニ於テ日時及場所ヲ指定ス

第六條　地方長官檢査ノ爲必要ト認ムルトキハ期間及區域ヲ定メ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ノ移轉ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得但シ期間ハ三十日ヲ、區域ハ一郡又ハ一市ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ命令ハ移轉ノ禁止又ハ制限ノ期間ノ初日ヨリ少クトモ十五日以前ニ於テ之ヲ發スヘシ

第七條　正當ノ事由ニ依リ檢査ノ日時又ハ場所ニ於テ檢査ヲ受クルコト能ハサル者ハ豫メ其ノ旨ヲ官廳又ハ公署ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ官廳又ハ公署ハ其ノ者ニ付キ別ニ檢査ノ日時又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得

第八條　「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル檢査ノ方法ハ皮下注射、皮膚注射及點眼法トス

第九條　「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ左ノ各號ノ一ニ該當スル畜牛ハ之ヲ重症結核病ニ罹リタル畜牛トス其ノ反應顯著ナラサルモ結核病ノ臨床的病狀重大ナルモノ亦同シ

一、乳房結核

一、重症肺結核

一、汎發結核

一、前各號ノ外著シク營養ヲ損害セル結核諸症

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應ヲ呈シ臨床的症狀輕微ナル畜牛ハ之ヲ輕症結核病ニ罹リタル畜牛トス

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ結核病タル反應顯著ナラスシテ臨床的症狀疑ハシキ畜牛ハ之ヲ結核病ニ罹リタル疑アル畜牛トス

第十條　檢査員檢査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一、健全ナル畜牛ニ付テハ臨床的診察ノ方法ニ依ルモノニハ第三號樣式ノ一ノ健康證ヲ、臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依ルモノニハ第三號樣式ノ二ノ健康證ヲ交付ス

一重症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ直徑五分ノ圓形孔ヲ穿ツ
一輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニハ右耳ニ第四號樣式ノ耳標ヲ付ス
一結核病ノ疑アル畜牛ニハ左耳ニ第五號樣式ノ耳標ヲ付ス

前項第一號ノ健康證ハ次回檢査ノトキ之ヲ返付セシメ第三號及第四號ノ耳標ハ之ヲ付スヘキ事由消滅シタルトキハ之ヲ除去スヘシ

第一項第一號ノ健康證ヲ交付シタル畜牛ニシテ「ツベルクリン」皮下注射後第三條第三項但書又ハ第二十四條第一項ニ規定シタル期間ヲ經過セサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ健康證ヲ返付セシメ耳標ヲ除去シタルモノナルトキハ更ニ同一ノ耳標ヲ付スヘシ

第十一條　前條ノ耳標ニ毀損又ハ喪失アリタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ遲滯ナク官廳又ハ公署ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキ及檢査員又ハ警察官ニ於テ耳標ノ毀損若ハ喪失ヲ發見シ又ハ毀損若ハ喪失ノ虞アリト認ムルトキハ前條ニ準シ更ニ耳標ヲ付スヘシ

第十二條　畜牛ノ所有者又ハ管理者檢査員ノ指定シタル隔離ノ方法若ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ檢査員ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ノ檢査ハ大阪府大阪港、神奈川縣横濱港、兵庫縣神戸港、長崎縣長崎港、同縣厳原港、山口縣下關港及福井縣敦賀港ニ於テ之ヲ行フ

第十四條　稅關長ハ畜牛ノ輸入又ハ移入ノ申告アリタルトキハ檢査ノ日時、場所其ノ他檢査ノ爲必要ナル事項ヲ輸入又ハ移入申告者ニ通知スヘシ

第十五條　檢査員外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ノ檢査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　健全ナル畜牛ニ付テハ臨床的診察ノ方法ニ依ルモノニハ第三號樣式ノ二ノ健康證ヲ臨床的診察及「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依ルモノニハ第三號樣式ノ二ノ健康證ヲ交付ス
一重症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第六號樣式ノ記號ヲ烙印ス
一輕症結核病ニ罹リタル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第七號樣式ノ記號ヲ烙印ス
一結核病ノ疑アル畜牛ニ付テハ右臀部ニ第八號樣式ノ記號ヲ烙印ス

第十六條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ埋却若ハ燒棄スヘキ場所又ハ認可ヲ經タル裝置ヲ有スル化製場ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十七條　輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ヲ屠殺セムトスルトキハ檢査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ヲ受ケ屠獸場内特ニ區畫シタル場所ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ正當ノ事由アルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ得其ノ他ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ外國ヨリ輸入又ハ朝鮮若ハ臺灣ヨリ移入スル畜牛ヲ撲殺セムトスル場合ニ於テ輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條　結核病ニ罹リタル畜牛ノ屍體若ハ其部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ移動セムトスルトキハ檢査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ爲スヘシ

第十九條　畜牛ノ死後結核ノ病的變狀又ハ之ニ疑ハシキ症狀ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ檢査員又ハ所轄警察官署ニ屆出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十條　結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛斃死シタルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ直ニ檢査員又ハ所轄警察官署ニ屆出テ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十一條　輕症結核病ニ罹リ又ハ結核病ノ疑アル畜牛ヲ屠殺シタル場合、前條ノ場合又ハ畜牛ノ死後ニ於テ結核ノ病的變狀ヲ發見シタル場合ニ於テ結核ノ病的變狀一臟器及其ノ淋巴腺ニ局限セルカ又ハ結核ノ病的變狀二三ノ臟器及其ノ淋巴腺ニ發生セルモ各部ノ變狀小部ニ局限シ急性結核ノ變狀ヲ呈セサルトキハ所有者又ハ管理者ニ於テ檢査員、屠畜檢査員又ハ所轄警察官署ノ指揮ニ從ヒ患部及之ニ近接セル組織ヲ切除シ之ヲ燒棄又ハ消毒ノ上埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ臟器及其ノ淋巴腺ニ於ケル結核ノ病的變狀蔓延セルトキ又ハ急性結核ノ變狀ヲ呈スルトキハ重症結核ニ罹リタル畜牛ニ準シ之ヲ處分スヘシ

第二十二條　地方長官ハ所屬ノ官吏吏員及獸醫ノ中ヨリ檢査員ヲ命シ所屬ノ官吏、吏員又ハ郡市町村吏員及畜産業ニ經驗アル者ノ中ヨリ評價人ヲ命スヘシ

第二十三條　檢査員タルヘキ獸醫ノ助手ノ職務ノミヲ行フ者ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　畜牛結核病檢査講習生規則第六條ノ修業證書ヲ有スル者
二　官立學校ニ於テ獸醫學ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スル者
三　獸疫調査所ニ於テ六月以上畜牛結核病ニ關スル試驗ニ從事シ其ノ證明書ヲ有スル者
四　三年以上檢査員トシテ助手獸醫ノ職務ヲ行ヒタル者

第二十四條　地方長官又ハ官廳又ハ公署ノ告示又ハ指定シタル檢査期日四十五日以前ヨリ檢査確定ニ至ル迄乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ爲スコトヲ得ス

地方長官ノ許可ヲ受ケタル者又ハ獸醫ニ非サレハ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベルクリン」ノ應用ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ至當ノ事由ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十五條　前條第二項及第三項ニ依リ乳用牛、外國種牛及雜種種牡牛ニ「ツベルクリン」ノ應用ヲ行ヒタル者ハ遲滯ナク檢査員又ハ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第二十六條　地方長官ハ毎年少クトモ一回畜牛結核病豫防ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十七條　地方長官ハ第三條ニ依リ行ヒタル檢査ノ成績及其ノ狀況ヲ翌年四月三十日限リ第九號樣式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ

稅關長ハ第十三條ノ檢査終了後其ノ檢査ノ成績ヲ其ノ月末日限リ第十號樣式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十八條　畜牛結核病豫防法第四條ノ屆出ハ檢査員又ハ畜牛ノ現在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第二十九條　畜牛結核病豫防法第十條ニ規定スル化製裝置ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ所轄警察官署ヲ經由シテ地方長官ニ出願スヘシ

第三十條　畜牛結核病豫防法第十二條ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ埋却ノ年月日及發掘ノ事由ヲ具シ所轄警察官署ニ出願スヘシ

第三十一條　檢査員、評價人、其ノ他行政廳ノ命ヲ承ケテ公務ヲ行フ者畜牛結核病豫防法又ハ本則ノ執行ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　第十條ノ記號ヲ滅失セシメ又ハ耳標ヲ毀損又ハ喪失セシメタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條　第三條第三項但書ニ違背シテ檢査ヲ受ケタル者又ハ第六條第一項ノ命令ニ違背シ若ハ第二十四條ニ違背シタル者ハ二十日以下ノ重禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第二條、第七條第一項、第十七條、第十八條、第二十一條、第二十五條、第三十七條ニ違背シタル者及第十九條、第二十條ノ屆出ヲ爲サス又ハ指揮命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十五條　本則中地方長官ノ職務ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

第三十五條ノ二　本則中ノ官廳又ハ公署ハ地方長官ノ指定スル所ニ依ル

第三十六條　本則ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年農商務省令第六號輸入畜牛結核病檢査規則ハ之ヲ廢止ス

第三十七條　本則施行ノ際ニ限リ第二條第一項ノ屆出ハ七月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第二條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一號樣式　（削除）

第二號樣式　（削除）

第三號樣式ノ一

（五寸五分）

表　白色（三寸八分）

第　號

畜牛健康證

住所

所有者（管理者）何　某

（輸入、移入申告者）

種類	
用途	
名號	牝牡
年齢	毛色
特徵	

右臨床檢査ヲ遂ケシ處結核病ノ症候ヲ認メス

年　月　日　廳府縣（稅關）印證

裏

年齢		毛色	
特徵			

右臨床及「ツベルクリン」應用檢査（皮下注射・皮膚注射又ハ點眼法）ヲ遂ケシ處結核病ノ症候ヲ認メス

年　月　日　廳府縣（稅關）印證

裏

檢査員署名捺印	檢査年月日	備考

第三號樣式ノ二

（五寸五分）

表　青色（三寸八分）

第　號

畜牛健康證

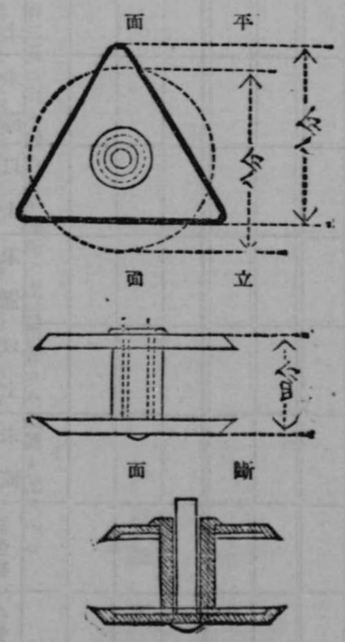
住所

所有者（管理者）何　某

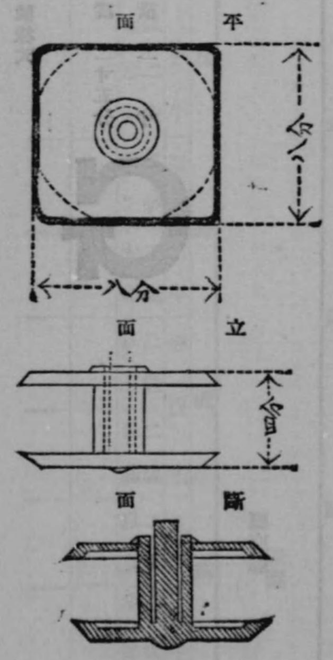
（輸入、移入申告者）

種類	
用途	
名號	牝牡

第四號樣式耳標



第五號樣式耳標



第六號樣式

縦 二寸五分
横 二寸

J

第七號樣式

縦 二寸五分
横 二寸

K

第八號樣式

縦 二寸五分
横 二寸

G

第九號樣式

明治何年甲(乙)號畜牛結核病檢査成績報告

成績表

廳府縣

種類 用途			內國種 乳用牛	內國種 種牡牛	內國種 其ノ他ノ畜牛	內國種 合計	外國種 乳用牛	外國種 種牡牛	外國種 其ノ他ノ畜牛	外國種 合計	雜種 乳用牛	雜種 種牡牛	雜種 其ノ他ノ畜牛	雜種 合計	總計
檢査牛數	「ツベルクリン」注射ヲ行ヒタルモノ														
	「ツベルクリン」注射ヲ行ハサルモノ														
	計														
檢査成績	健康牛	二歳以上													
		二歳未滿													
	疑症牛	二歳以上													
		二歳未滿													
	輕症牛	二歳以上													
		二歳未滿													
	重症牛	二歳以上													
		二歳未滿													
	評價額														
	手當額														

檢査ノ狀況

年　月　日

農商務大臣宛

地方長官名

備考

第三條第一項ニ依リ行ヒタル檢査ノ成績報告ニハ甲號ト記シ第二項及第三項ニ依リ行ヒタル檢査ノ成績報告ニハ乙號ト記スヘシ

內國種ノ欄中種牡牛及其ノ他ノ畜牛ノ欄ニハ內國種牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルモノノ檢査成績ヲ記スヘシ

檢査ノ狀況ノ項ニハ檢査ノ始期、終期、檢査ノ日數、檢査員及評價人ノ資格、人員、豫防ニ關スル施設、畜産業ニ及ホシタル影響等ヲ記スヘシ

第十號樣式

輸入畜牛結核病檢査成績報告

成績表

税關

輸出國	用途	檢査牛數 二歳以上	檢査牛數 二歳未滿	檢査牛數 計	健康牛 二歳以上	健康牛 二歳未滿	疑症牛 二歳以上	疑症牛 二歳未滿	輕症牛 二歳以上	輕症牛 二歳未滿	重症牛 二歳以上	重症牛 二歳未滿

合計							

年　月　日

農商務大臣殿

檢査ノ狀況

備考　檢査ノ狀況ノ項ニハ輸入ノ年月日、檢査ノ期日、輸入ノ禁止及撲殺頭數、畜牛ノ繫留其ノ他ノ處分及豫防ニ關スル施設等ヲ記スヘシ

稅關長名

●畜牛結核病豫防心得

明治三十六年八月十五日
農商務省告示第百六十九號

畜牛結核病豫防心得事項左ノ如シ

畜牛結核病豫防心得

畜牛結核病ハ他ノ獸畜傳染病ト自ラ其ノ性質ヲ異ニシ病性頑固ニシテ汎ク牛群ニ蔓延シ人畜衛生及農業經濟ニ及ホス危害極メテ大ナリ抑本病ハ歐羅巴種牛ノ一部ニ原發シ漸次各國ニ傳播セシモノニシテ從來本邦土產ノ畜牛ハ殆ント之ニ罹ルモノナカリシモ外國種雜種ノ畜牛增殖スルニ隨テ結核病ハ年ヲ逐フテ蔓延シ其ノ勢ノ熾ナル底止スル所ヲ知ラサルモノノ如シ今ニ迨ンテ之カ制遏ノ法ヲ講セスンハ他日防禦ノ策ナキニ至ラン畜牛飼養者ハ單ニ法令ノミニ一任セス能ク本病ノ性質ヲ知悉シ各自警戒ヲ加ヘ日常自衛ノ法ヲ怠ラサルヲ要ス仍テ左ニ本病ノ性質、原因、傳染ノ狀態及自衛法ノ要點ヲ揭ク

第一項　結核病ハ結核菌ト稱スル一種ノ細菌ニ原由スル慢性難治ノ傳染病ニシテ家畜ノ中牛、豕最モ之ニ罹リ易ク罕ニハ馬、犬、羊、山羊、家禽等ニ傳染ス牛ニ於テハ主トシテ肺臟、胸膜、腹膜及淋巴腺ニ發シ又關節、乳房、生殖器、腸及腦ヲ侵スコトアルモ他ノ臟器ニ發スルハ罕ナリ馬、豕、鷄、犬ニ於テハ主トシテ腸及其ノ他ノ腹腔臟器ノ結核ヲ見ル

結核菌ハ病原菌ノ中比較的抵抗力ニ富ミ乾燥スルモ容易ニ毒力ヲ失ハス能ク溫熱、腐敗作用ニ耐フ乳汁ノ如キ液體中ニ在リテハ熱ニ對スル抵抗力薄弱ニシテ攝氏七八十度ノ熱ヲ加フレハ概ネ五分時乃至十分時ニシテ毒力ヲ失フ腐敗物中ニ在リテハ百餘日間毒力ヲ存スルコトアリ消毒藥ニ對スル抵抗力モ亦他ノ病毒ト異ニシテ克ク舞汞ニ抵抗シ其ノ千倍溶液ノ如キハ十數時ノ後始メテ僅ニ結核菌ヲ殺シ得ルノミ獨リ日光ノ消毒力ハ較々强ク數分間乃至數時間ニシテ其ノ毒力ヲ失ハシム

第二項　從來結核病傳播ノ原因ニ付テハ重キヲ遺傳ニ置キタリト雖實驗ニ徵スレハ疾病其ノモノノ遺傳ハ稀有ニシテ僅ニ素因ヲ傳フルニ過キス牡牛ノ生殖器結核ハ交尾ノ際牝牛ニ傳染スルコトナキニアラサルモ牡系ヨリ胎兒ニ傳染セシ適例ハ未タ證明スルヲ得ス又母牛ノ結核病ハ胎盤ニ發生スルカ或ハ其ノ血液中ニ多數ノ結核菌ヲ含有スルニアラサレハ胎兒ニ傳ハルコトナシ故ニ胎內傳染ノ例モ亦極メテ少數ニ止ルモノトス

第三項　結核病ハ他ノ傳染病ノ如ク概ネ出產後ノ傳染ニ由ル傳染ノ本源ハ結核病牛其ノモノニシテ病毒ハ專ラ呼氣、咯痰、唾液、乳汁、創液、糞尿等ニ含有セラレ直接又ハ間接ニ他ノ健獸ニ傳染ス但シ間接傳染ノ媒介トナルモノハ畜舍、舍內器具、蓐草、取扱人等ナリ

第四項　結核病毒侵入ノ徑路ハ呼吸器及消化器ニシテ罕ニハ皮膚及粘膜ノ創傷ヨリ侵入ス其ノ最モ普通ノ傳染狀態ハ左ノ如シ

一　呼吸器ハ結核病毒ノ侵入スル普通ノ徑路ニシテ畜舍內ノ傳染ハ概ネ之ニ基ク是レ呼吸器結核ノ多キ所以ナリ結核病毒ハ咳嗽ノ如キ深强ノ呼吸ヲナス際咯痰霧狀ナシテ呼氣中ニ飛散シ又ハ塵埃ニ含有セラレ健牛ノ吸入スル所トナル換氣不良ニシテ殊ニ多數ノ牛ノ密棲セル畜舍ニ於テ此ノ危險最モ甚シトス

二　消化器傳染ハ呼吸器傳染ニ比スレハ較々尠ナクシテ結核病毒ヲ含有セル飼料、蓐藁、飲料水、乳汁、結核臟器等ヲ攝取スルニ由ル馬、豕、鷄、犬等ノ結核病ハ概ネ此ノ原因ニ出ツ

三　犢ハ呼吸器傳染ノ外屢々結核菌ヲ含有セル乳汁又ハ渣乳ヲ飲用スルニ由テ本病ニ感染ス

第五項　結核病傳染ノ難易及其ノ病勢ハ病毒ノ多少、性質ニ由ルト雖又大ニ動物體質ノ强弱ニ關ス體質强健ナレハ假令病毒ニ觸ルルモ容易ニ之ニ感染セス之ニ反シ體質虛弱ナレハ傳染シ易ク且重症ニ陷ルノ傾多シ之ヲ素因ト謂フ

主要ナル素因ハ胸廓ノ發育不全、營養不給、呼吸器及消化器ノ加答兒ニシテ其ノ他不合理ノ搾乳、不良ノ飼料、換氣ノ失宜、小舍內畜牛ノ密集、運動ノ不足、早齡ノ交尾等ハ何レモ素因タラサルナシ故ニ畜牛ノ飼養者ハ努メテ這般不攝生ノ事項ヲ避ケサルヘカラス

第六項

一　畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ平素牛畜ノ健康狀態ニ注意シ咳嗽、淋巴腺ノ腫脹、毛秣ノ粗硬其ノ他結核病ノ疑ヲ生セシムル徵候ヲ認ムルトキハ直ニ獸醫ヲ招キ臨床的診察竝「ツベルクリン」ノ注射ヲ請ヒ本病ニ罹リタルモノ又ハ其ノ疑アルモノハ自家ノ牛群ヨリ排斥シ健牛ノミヲ以テ蕃殖ヲ圖ルヘシ

二　健牛ト病牛トノ隔離ヲ厲行シ相互ノ交通ヲ絕チ病牛ニハ特別ノ器具ヲ用ヒ成ルヘク異リタル管理人ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ已ムヲ得ス同一人ヲシテ健牛竝病牛ヲ取扱ハシムルトキハ每次健牛ヲ先ニシ次テ病牛ノ管理ヲナシ後石鹼水、石炭酸水等ヲ以テ其ノ手指ヲ洗滌スヘシ

三　輕症結核病ニ罹リタル畜牛又ハ結核病ノ疑アルモノノ產出セシ犢ハ出產後直ニ母牛ヨリ之ヲ隔離シ攝氏八十度以上ノ熱ヲ加ヘタル健牛ノ乳汁ヲ以テ人工的哺乳ヲナスヘシ哺乳器及哺乳者ノ手指ハ微溫石鹼水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

四　購入シタル畜牛ハ先ツ別舍ニ繫キ臨床的診察及「ツベルクリン」注射ヲ行ヒ健全ト認メタル後ニアラサレハ自家ノ牛群中ニ混入スヘカラス

第七項　結核病牛ノ附近ニハ豕、鷄、犬等ヲ接近セシメサル樣注意スヘシ

第八項　排水設備ノ良否ハ畜舍內外ノ空氣ノ淨否ニ大ニ關係アルモノニシテ排水法不完全ナルトキハ排泄物及其ノ他ノ汚物ハ停滯シテ大氣ハ其ノ發散セル不淨ノ分子ヲ含有スヘク動物ハ此ノ如キ不潔ノ大氣ヲ呼吸スルニ因テ終ニ其ノ健康ヲ傷フニ至ルヘシ故ニ畜舍內外ノ排水設備ハ完全ナラムコトヲ期スヘシ

第九項　病牛ノ糞尿、其ノ他ノ排泄物、蓐藁等ハ充分ニ消毒ヲ行ヒ病毒ノ浸潤シタル床土、運動場ノ表土等ハ新鮮ナル土砂ト取換フヘシ

本項ニ依リ消毒シタル排泄物等ハ充分日光ニ曝シタル後肥料トシテ使用スルハ妨ナシ

第十項　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁ハ法律ノ規定ニ從ヒ廢棄處分ヲ行フコト言ヲ俟タスト雖輕症結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ乳汁モ危險ノ虞アルカ故ニ攝氏八十度以上ノ熱ヲ加ヘタル後ニ非サレハ人畜ノ飲用ニ供セサルヲ安全ナリトス

●畜牛結核病豫防法ニ依ル檢査員執務規程

明治三十六年八月十五日
農商務省訓令第九號

改正　明治三七年農商務省訓令第五號、三八年第一〇號、四三年第一〇號、大正三年第六號、九年第五號

警視廳　道廳　府縣（東京府ヲ除ク）

畜牛結核病豫防法ニ依ル檢査員執務規程左ノ通相定ム

第一條　檢査員ハ其ノ職務ノ執行ニ關シ上司ノ指揮命令ヲ遵奉シ公平誠實ナル旨トスヘシ

第二條　檢査員ハ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ結核病ノ豫防制遏ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スヘシ

第三條　畜牛ノ所有者又ハ管理者中其ノ畜牛ノ種類ヲ誤リ又ハ知ラサルカ爲法令ノ規定ニ違反セル者アルコトヲ發見シタルトキハ懇篤ニ之ヲ說諭シ法令ノ規定ニ依ラシムヘシ故意ニ法令ニ違反セル者ニ關シテハ直ニ告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　檢査ノ爲牽付タル畜牛ハ成ルヘク其ノ外貌ニ依リ健康ナルモノト異狀アルモノトヲ區別シ各別ニ之ヲ繫留セシムヘシ

「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ檢査ヲ行フ場所ニハ成ルヘク寒冒ヲ防キ消毒ニ便ナル施設ヲ爲スヘシ

第四條ノ二　乳用牛、外國種牛、雜種種牡牛及結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ臨床的診察及「ツベルクリン」ノ應用ニ依リ之ヲ檢査スヘシ但シ營利ノ目的ノ搾乳用ニ供セサル乳用牛及種牡牛ニ非サル外國種牛ハ「ツベルクリン」ノ應用ニ依ラサルコトヲ得

第四條ノ三　「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル檢査ハ皮下注射ノ方法ニ依ルヘシ但シ檢査員ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ皮膚注射又ハ點眼法ヲ行フコトヲ得

第四條ノ四　「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ行ヒタル後四十五日以內ニ檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ臨床的診察、皮膚注射又ハ點眼法ニ依ルコトヲ得

第四條ノ五　「ツベルクリン」ノ皮下注射ニ依ル結核病タル反應ハ「ツベルクリン」注射後攝氏一度以上ノ增溫ヲ呈シ熱候稽留スルモノトス

皮膚注射ニ依ル結核病タル反應ハ注射部胡桃大以上ノ限局性腫脹ヲ呈スルモノトス

點眼法ニ依ル結核病タル反應ハ結膜著シク潮紅シ淚液又ハ膿樣液ノ漏出スルモノトス

第五條　「ツベルクリン」ハ稀釋シタルモノト否トヲ問ハス光線ヲ遮リタル清涼ナル場所ニ置クコトヲ注意スヘシ

第六條　皮下注射ニ用フル「ツベルクリン」ハ濃厚「ツベルクリン」一分ニ煮沸水ヲ以テ溶解シタル二百倍ノ石炭酸水九分ヲ加ヘテ之ヲ稀釋スヘシ

皮膚注射ニ用フル「ツベルクリン」ハ濃厚「ツベルクリン」一分ニ滅菌蒸餾水一分ヲ加ヘテ之ヲ稀釋スヘシ

點眼法ニハ濃厚「ツベルクリン」ヲ用フヘシ

第七條　檢溫器ハ感度銳敏ニシテ標準トスヘキ正確ナル檢溫器ニ對照シテ度數ノ加減ヲ明確ニシタル堅牢ナルモノヲ用フヘシ

第八條　注射器ハ注射ニ用ヰタル毎ニ二十倍ノ石炭酸水又ハ酒精ヲ以テ消毒ヲ行ヒタル後煮沸水ニテ洗滌スヘシ

第九條　左ノ畜牛ハ檢査猶豫ノ取扱ヲナスコトヲ得

一結核病以外ノ疾病又ハ傷痍ノ爲檢査ヲ受クルコト能ハサルモノ

一分娩前一箇月以內若ハ分娩後十日以內ノモノ

一六箇月未滿ノ幼牛

第十條　「ツベルクリン」ノ皮下注射ヲ行ハムトスルトキハ其ノ當日注射前ニ三回體溫ヲ檢スヘシ

第十一條　「ツベルクリン」ヲ皮下注射スヘキ部位ハ頸部ノ側面トシ豫メ二十倍ノ石炭酸水又ハ酒精ヲ以テ消毒スヘシ

第十二條　皮下注射ニ用フル「ツベルクリン」ハ左ノ分量ニ依ルヘシ

一成牛　〇・五乃至〇・六立方仙迷

一一歲以上二歲未滿ノ畜牛　〇・三乃至〇・四立方仙迷

一一歲未滿ノ幼牛　〇・一乃至〇・二立方仙迷

第十三條　「ツベルクリン」ヲ皮下注射シタル後第八時ヨリ第二十時ニ至ル迄二時間每ニ體溫ヲ檢スヘシ但シ最高溫度ニ達シタル後二回以上ノ檢溫ニ於テ其ノ溫度漸次下降スルコトヲ認メタルトキ又ハ二十時間以內ニ於テ常溫ニ復スルトキハ其ノ後體溫ヲ檢スルヲ要セス

前項ノ場合ニ於テ第二十時ニ至リ畜牛ノ發熱稽留シテ下降セサルトキハ第三十二時ニ至リ更ニ體溫ヲ檢スヘシ

第十三條ノ二　皮膚注射ヲ行フヘキ部位ハ尾根ノ皺襞トシ豫メ酒精ヲ以テ消毒スヘシ

皮膚注射ニ用フル「ツベルクリン」ノ分量ハ〇、一立方仙迷トシ注射後第二十四時ニ注射部ヲ檢シ其ノ反應確實ナラサルトキハ相當時間後更ニ一回之ヲ檢スヘシ

第十三條ノ三　點眼法ヲ行フニハ右眼又ハ左眼ノ結膜囊內ニ二滴又ハ三滴ノ「ツベルクリン」ヲ點下シ點眼後第十二時ニ之ヲ檢シ其ノ反應確實ナラサルトキハ相當時間後更ニ一回之ヲ檢スヘシ

第十四條　畜牛ノ診斷ハ檢査員中主任獸醫ニ於テ之ヲ爲シ助手獸醫ハ單ニ補助ノ職務ヲ行フヘシ但シ一年以上助手ノ職務ヲ行ヒタル獸醫ハ地方長官ノ命ヲ承ケ主任獸醫ノ職務ヲ代理スルコトヲ得

結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ臨床上ノ症狀及「ツベルクリン」ノ應用ニ依ル結核病タル反應ハ精密ニ之ヲ記錄シ檢査終了ノ後地方長官ニ報告スヘシ

第十五條　削除

第十六條　輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ隔離ヲ命スルトキハ左ノ事項ヲ指示スヘシ

一別棟ノ畜舍ニ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノミヲ繫留スル場合ニ於テハ他ノ畜牛ト接近セシメサルコト

一同一畜舍內ニ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト其ノ他ノ畜牛トヲ繫留スル場合ニ於テハ地盤ヨリ天井又ハ地盤ヨリ九尺ノ高サニ至ル迄土壁、木壁其ノ他堅牢ナル隔壁ヲ以テ舍內ヲ分劃シ出入口及排泄溝ヲ異ニシ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト他ノ畜牛トヲ各別ニ繫留セシムルコト

一輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ他ノ畜牛ト交通ヲ絕タシムルコト但シ交尾ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一本條第一號及第二號ノ場合ニ於テ畜舍ニ附屬スル運動場アルトキハ輕症結核病ニ罹リタル畜牛及其ノ他ノ畜牛ニ付各別ニ運動場ノ區域ヲ指示スルコト

一輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ指定シタル畜舍若ハ運動場以外ニ出サシメサルコト但シ檢査員ニ於テ場所及方法ヲ指示シテ放牧若ハ使役ヲ認許シ又ハ相當ノ間隔ヲ置キ結核病ノ疑アル畜牛ヲ同一畜舍ニ繫留セシムルコトヲ得

第十七條　前條ノ規定ハ重症結核病ニ罹リタル畜牛及結核病ニ罹リタル疑アル畜牛ノ隔離ニ之ヲ準用ス但シ重症結核病ニ罹リタル畜牛ニ在リテハ放牧、使役又ハ交尾ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十八條　隔離ヲ命シタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ於テ讓渡其ノ他正當

ノ事由ニ依リ隔離ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ願出ツルトキハ前二條ノ規定ニ依リ更ニ之ヲ指示シ變更ノ場所他ノ警察官署ノ管轄區域ニ亙ルトキハ其ノ所轄警察官署ニ通知スヘシ

隔離ヲ命シタル畜牛ヲ屠殺ノ爲隔離ノ場所ヨリ牽出スコトヲ願出ツルトキハ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設及屠殺スヘキ場所並期間ヲ指示シ之ヲ許可スヘシ

第十九條　檢査員ハ隔離ヲ命シタル畜牛ヲ隨時監視スヘシ

第二十條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ヨリ搾取シタル乳汁ハ搾取後直ニ石炭酸水又ハ石灰乳ヲ混シ其ノ漏出ヲ防キ廢棄處分ヲ行フヘシ

第二十一條　重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ檢査確定後十五日以內ニ之ヲ行ハシムヘシ

前項ノ畜牛ヲ撲殺ヲ行フヘキ場所ニ牽行ク場合ニハ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ指示スヘシ

第二十二條　消毒ノ方法、埋却スヘキ屍體ノ措置、屍體又ハ畜牛ヲ移動スル場合ニ於ケル病毒ノ散布ヲ防クヘキ施設及結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體、其ノ部分並病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却スヘキ土坑、場所ニ付テハ獸疫豫防法施行細則及獸疫豫防心得ノ規定ヲ準用ス

〔山梨警〕

●家畜傳染病豫防ニ關スル消毒方法

大正十二年一月二十日
農商務省告示第九號

改正　昭和二年四月農林省告示第八〇號

家畜傳染病豫防法施行規則第九號ノ規定ニ依リ消毒ノ方法左ノ通定ム

家畜傳染病豫防ニ關スル消毒方法

第一　家畜傳染病豫防ノ爲施行スル消毒ノ方法ハ左ノ四種トス

一　蒸氣消毒
二　煮沸消毒
三　藥物消毒
四　醱酵消毒

第二　蒸氣消毒ハ消毒ノ目的地ヲ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

被服、毛布、毛、器具等ノ消毒ニ適ス

第三　煮沸消毒ハ消毒ノ目的物ヲ水中ニ浸シ沸騰後一時間以上煮沸スヘシ

第二ニ掲クルモノノ外肉、骨、角、蹄、飼料等ノ消毒ニ適ス

第四　藥物消毒ニ用ヰル藥劑及其ノ用法ハ左ノ如シ

一　煆製石灰末

用ニ臨ミ煆製石炭ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シ之ヲ製スヘシ

畜舍ノ床、糞便、厩肥、糞尿溜、汚水溝、濕潤ナル土床等ノ消毒ニ適ス

一　石灰乳（十倍）（煆製石灰一分、水九分）

用ニ臨ミ煆製石灰ニ水ヲ徐々ニ加ヘ攪拌シテ之ヲ製スヘシ

畜舍ノ隔壁、隔木若ハ床又ハ柵欄其ノ他病毒ニ汚染セル場所ノ消毒ニ適ス

一　クロール石灰

畜舍ノ床、井水、用水、用水、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

一　クロール石灰水（二十倍）（クロール石灰五分、水九十五分）

用ニ臨ミ「クロール」石灰ニ水ヲ加ヘ攪拌シテ之ヲ製シ其ノ上清ヲ用ウヘシ

用法ハ石灰乳ニ同シ

一　石炭酸水（防疫用石炭酸三分、水九十七分）

加熱熔融セシメタル防疫用石炭酸ニ少量ノ湯又ハ水ヲ加ヘ攪拌シツツ徐々ニ所定限度迄ノ水ヲ加ヘテ之ヲ製スベシ

手足、畜舍、屍體、柵欄、器具機械、革具類等ノ消毒ニ適ス

一　昇汞水（千倍）（昇汞一分、鹽酸十分、水九百八十九分）

鹽酸ヲ加ヘタル少量ノ水ニ昇汞ヲ溶解シタル後水ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ

昇汞錠（一錠中昇汞〇、五グラム含ム）ヲ用ウル場合ハ其ノ一錠ヲ五百立方センチメートル」ノ水ニ溶解シテ之ヲ製スヘシ

手足、畜舍、畜體、器具機械ノ消毒ニ適ス但シ金屬製器具機械ノ消毒ニハ之ヲ用ウヘカラス

一　フオルムアルデヒード

室內、被服、毛布、畜舍、骨、毛、角、蹄、革具類、貴重ナル器具機械等ノ消毒ニ適ス但シ密閉シ得サル室內ノ消毒ニハ適セス

フオルムアルデヒード」ヲ以テ消毒スルニハ室內又ハ消毒用器ノ容積一立方メートルニ付フオルマリン十五グラム以上ヲ噴霧若ハ蒸發セシメ又ハ「フオルムアルデヒード五グラム以上ヲ發生セシメ同時ニ二十八グラム以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

フオルムアルデヒード」ヲ以テ毛束、被服、毛布又ハ之ニ類似ノ物品ヲ其ノ內部ニ至ル迄消毒スル場合ハ眞空裝置ニ依ルヘシ此ノ場合ニ於ケル消毒時間ハ裝置及物品ノ種類ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一　フオルマリン水（フオルマリン一分、水三十四分）

畜舍、畜體、屍體、器具機械、骨、毛、角、蹄、革具類等ノ消毒ニ適ス

一　クレゾール水（クレゾール石鹼液三分、水九十七分）

クレゾール石鹼液ヲ水ニ溶解シテ之ヲ製スヘシ

手足、被服、畜舍、畜體、柵欄、器具機械、革具類等ノ消毒ニ適ス

一　クレゾール硫酸溶液（粗製クレゾール二分、粗製硫酸一分、水九十七分）

「粗製クレゾール」ニ粗製硫酸ヲ混和振蕩シ二十四時間以上ヲ經過セル後水ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ

糞尿溜、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

一　クレオリン水、クレシン水（クレオリン、クレシン三分、水九十七分）

石炭酸水ニ代用スルコトヲ得

一　硫黃石灰水（昇華硫黃三分、煆製石灰一分、水百四十分）

煆製石灰一分ヲ水四十分ニ溶解シ昇華硫黃三分ヲ加ヘ蒸發水分ヲ補ヒツツ二時間攪拌煮沸シタル後水百分ヲ加ヘ之ヲ製シ其ノ上清ヲ用ウヘシ

藥浴ニ適ス

一　鹽酸食鹽水（鹽酸二分、食鹽十分、水八十八分）

皮ノ消毒ニ適ス

一　粗製鹽酸、粗製硫酸

糞尿溜、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

第五　醗酵消毒ハ幅一メートル乃至二メートル深サ約二十センチメートル長サ適宜ノ土溝ヲ造リ之ヲ病毒ニ汚染セサル敷藁、厩肥等ニテ埋メ其ノ上ニ消毒スヘキ糞便、敷藁、厩肥等ヲ一メートル乃至二メートルノ高サニ堆積シ其ノ表面ハ病毒ニ汚染セサル莚、菰、敷藁、厩肥等ヲ以テ適當ノ厚サニ之ヲ覆ヒ其ノ上ニ土ヲ覆ヒ少クトモ二週間放置スヘシ

牛糞、豚糞ノ消毒ニ在リテハ醗酵ヲ充分ナラシムル爲適宜ノ藁類ヲ混スヘシ

第六　消毒方法ノ應用

一　畜舎ノ土床ハ先ヅ煆製石灰末又ハクロール石灰ヲ撒布シ深サ三十センチメートル以上掘起搬出シタル後煆製石灰末又ハ「クロール石灰ヲ撒布シ新鮮ノ土ヲ入レ搬出シタル土ハ燒却又ハ埋却スヘシ但シ牛ノ傳染性流産、馬鼻疽羊山羊ノ疥癬、家禽コレラ、加奈陀馬痘、假性皮疽ノ場合ニ在リテハ土床ヲ掘起セスシテ煆製石灰末、クロール石灰、フォルマリン水、クレゾール水ヲ充分ニ撒布シ消毒スルコトヲ得

一　著シク汚物ノ固著セル畜舎又ハ欄柵ノ消毒ハ豫メ熱滿汁（粗製加里一分水二十分又ハ新製ノ木灰一分水五分ヲ煮沸シテ製ス若ハ曹達）又ハ熱湯ヲ以テ洗滌シタル後之ヲ行フヘシ

一　畜體ノ消毒ハ昇汞水、フォルマリン水又ハ「クレゾール水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ清拭シ特ニ汚物ノ附著セル部分ハ前記消毒藥液ヲ以テ洗滌スヘシ

一　屍體又ハ物品ヲ運搬セムトスルトキハ昇汞水、石炭酸水、フォルマリン水又ハ「クレゾール水ニ濕セル布片又ハ綿類ヲ以テ病毒ヲ漏ラス虞アル天然孔其ノ他ノ箇所ヲ塞キ昇汞水、石炭酸水、フォルマリン水又ハ「クレゾール水ニ濕シタル莚、菰類ヲ以テ全體ヲ包裹スヘシ

一　病畜率付途中又ハ屍體運搬中ニ於テ糞尿其ノ他汚物ヲ漏ラシタル時ハ病毒ヲ含有セサルモノヲ除クノ外之ヲ除去シ其ノ場所ニ昇汞水、石炭酸水又ハ「クレゾール硫酸水ヲ充分撒布シ除去シタル汚物ハ適當ノ場所ニ於テ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スヘシ

一　糞尿溜及汚水溝ハ煆製石灰末（汚物量ノ十分ノ一以上）、クロール石灰（同上）、クレゾール水（汚物量ト同量以上）、クレゾール硫酸水（同上）、粗製鹽酸（汚物量ノ五十分ノ一以上）又ハ粗製硫酸（同上）ヲ投入攪拌シ其ノ汚物ヲ浚渫シタル後更ニ石灰乳、クレゾール水又ハクレゾール硫酸水ヲ以テ消毒スベシ浚渫スルコト能ハザルトキハ覆ヲ爲シ五日間以上放置スベシ浚渫シタル汚物ハ深ク埋却スベシ

一　皮ハ撓氏二十度乃至二十二度ノ鹽酸食鹽水中ニ二日間以上浸漬スヘシ

一　毛ハ蒸氣消毒又ハフォルムアルデヒード若ハフォルマリン水ニ依ル藥物消毒ヲ爲スベシ但シフォルマリン水ヲ用ヰルトキハ三時間以上浸漬スベシ

一　角又ハ蹄ハ煮沸消毒又ハフォルムアルデヒード若ハフォルマリン水ニ依ル藥物消毒ヲ爲スベシ但シフォルマリン水ヲ用ヰルトキハ三時間以上浸漬スベシ

一　茅胞性病毒ニ對シテハ次ノ消毒藥ノ一ヲ用ウヘシ

昇汞水

石炭酸水（鹽酸ヲ加ヘタルモノ）

クレゾール硫酸水

フォルマリン水

クロール石灰水

粗製鹽酸

粗製硫酸

鹽酸食鹽水

●獸疫調査所血清類賣拂規則

大正十二年一月十九日
農商務省令第三號

改正　大正一五年四月農林省令第五號、昭和二年四月第一〇號、三年五月第三號、五年七月第二號、七年三月第五號、八年一〇月第一九號、一〇年四月第七號

獸疫調査所血清類賣拂規則左ノ通定ム

獸疫調査所血清類賣拂規則

第一條　獸疫調査所ニ於テ賣拂ヲ爲ス血清類左ノ如シ

炭疽血清
氣腫疽血清
豚コレラ血清
豚丹毒血清
加奈陀馬痘血清
家禽コレラ血清
家禽ヂフテリア血清
腺疫血清
犬瘟熱血清
炭疽第一豫防液
炭疽第二豫防液
氣腫疽豫防液
狂犬病豫防液
豚コレラ豫防液
豚疫豫防液
豚丹毒豫防液
牛ノ傳染性流産バンゲ死菌豫防液
牛ノ傳染性流産バンゲ生菌豫防液
腺疫豫防液
家禽コレラ豫防液
家禽ヂフテリア豫防液
家禽ペスト豫防液
犬瘟熱豫防液
鷄痘豫防液
ツベルクリン
マレイン
炭疽沈澱素血清
氣腫疽沈澱素血清
豚丹毒沈澱素血清
牛肉沈澱素血清
馬肉沈澱素血清
牛肺疫診斷用アンチゲン
牛ノ傳染性流産診斷用バンゲ菌液
雞白痢診斷用菌液
雞白痢急速診斷用菌液

第二條　血清類ノ賣拂價格ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條　第一條ノ血清類中炭疽第一豫防液、炭疽第二豫防液、狂犬病豫防液、豚コレラ豫防液、牛ノ傳染性流産生菌豫防液及牛肺疫診斷用アンチゲンハ官公署、學校、畜産組合、畜産組合聯合會又ハ獸醫師ニ限リ之ヲ

賣拂フモノトス

第四條　血清類ノ賣拂ヲ受ケムトスル者ハ種類及數量ヲ記載シ獸疫調査所長ニ願出ツヘシ

第五條　血清類ノ代金ハ買受申出ノ際獸疫調査所ニ之ヲ納付スヘシ

附　則

本則ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十二年一月二十日ヨリ施行）

第十四章　雜件

●中毒患者診斷及檢案屆出ニ關スル件

昭和五年七月七日
山梨縣令第二十九號

中毒患者診斷及檢案屆出ニ關スル件左ノ通定ム

中毒患者診斷及檢案屆出ニ關スル件

醫師中毒患者ヲ診斷シ若ハ其ノ屍體ヲ檢案シタルトキハ左記事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ即時所轄警察署ニ屆出ツヘシ

一、中毒患者發病屆出事項

一　患者ノ住所、居所、職業、氏名、年齊
二　患者發病年月日時
三　患者發病場所
四　毒物ノ名稱
五　自爲、他爲、過失ノ別

二、中毒患者轉歸屆出事項

一　患者ノ住所、氏名
二　轉歸別年月日

本令ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ昭和五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス大正二年一月山梨縣令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●中毒患者卽報ノ件

昭和五年七月十一日
衞發第二四八號

昭和五年七月七日山梨縣令第二十九號ニ依リ醫師ヨリ患死者發生轉歸ノ屆出ヲ受ケ又ハ中毒患死者アリタルコトヲ知リタルトキ其ノ轉歸シタルトキハ卽時電話ヲ以テ其概略ヲ報告シ引續調査ヲ遂ケ左記樣式ニヨリ報告セラルヘシ

大正二年一月衞發第一號ハ昭和五年八月一日ヨリ廢止ス

右指示ス

左記

（一號樣式）

中毒患者報告　　年　月　日　警察署

中毒者	本籍住所		
	氏名		
	年齊	年　月　日生（又ハ當何年）	職業 一定ノ職業ナキモノハ家計ノ主ナル業
			男女別
中毒	日時		
	場所		
	原因	自爲、他爲、過失ノ別　其ノ原因事情　毒物ヲ得タル顚末出所等	
	健康狀態	中毒ノ際（直前）ニ於ケル健康狀態罹病者ナラハ病名程度	
毒物	名稱	可成正確ニ記入シ俗稱アルモノハ併テ記入スルコト	
	用量		
	用法		
主要ナル徵候			

備考	參考

（二號樣式）

中毒患者轉歸報告　　年　月　日　警察署

患者ノ氏名	住所		
轉歸別	年　月　日　全治　略全治　死亡		
備考	治後異常アラハ其ノ概要		

●中毒患者屆出ニ關スル件

大正二年一月
梨衛發第二號

今般縣令第二號ヲ以テ中毒患者屆出ニ關スル件改正相成候處右ハ取締上特ニ必要ナル次第ニ候條該患者發生ノ都度無洩屆出候樣豫メ一般會員ニ周知方可然御配慮相成度御依頼旁々此段及照會候也

●中毒ニ關スル件

大正五年六月
警察署長會議注意事項

近來腐敗飲食物中毒者多キヲ加フル傾向アリ故ニ時々飲食物ノ調製場料理場販賣店等ヲ視察シ物品ノ品質貯藏ノ方法場内ノ清潔蠅蝿設備等ヲ檢査シ各種集會等必要ノ場合ハ技術員ノ派遣ヲ請求シ或ハ物品ヲ取去シテ檢査ヲ請求シ若クハ營業者ニ注意ヲ與フル等取締上遺漏ナキヲ期セラルヘシ又毒空木ノ猛毒ヲ有スルハ周知ノ事實ナルモ年々之カ中毒ノ爲メ死亡スルモノ

アルハ誠ニ遺憾ナリ今後路傍等人間ニ觸レ易キ場所ニアルモノハ可成刈取ラシムル等注意セラルヘシ

●地方病豫防ニ關スル件

明治四十二年九月
梨衛發第二四一號

本縣ノ地方病タル日本住血吸蟲病ハ未タ病毒ノ人體ニ侵入スル經路及其治療方法等判明セス目下專門家ニ依リ夫々研究セラレツヽアリト雖醫家ノ言ニ徵スレハ該病ハ逐年其ノ流行地域ヲ擴大シ患者モ又漸次增加ノ傾向アルカ如シ果シテ然リトセハ本病ノ研究ニ關シテハ獨リ專門家ノ調査ノミニ委ス可ラス宜シク遍シテ其ノ土地ニ對スル病毒ノ厚薄竝ニ流行狀態ヲ査察シ以テ專門家ノ參考ニ資シ或ハ已往定マリタル豫防方法ヲ訓ヘ健康ノ保全ニ努ムルハ衛生行政上緊急ノ事業ナリト信スルヲ以テ各警察署ニ於テハ此際左記方法ニ準據シ該病患者ニ對スル調査ヲ遂ケ別紙第一號樣式ノ日本住血吸蟲病患者名簿ヲ作製シ爾後異動アル毎ニ加除訂正シ其ノ結果ハ第二號樣式ニ依リ毎年六月十二月末日現在ヲ翌月十日迄ニ報告スヘシ

左記

一　別紙第三號日本住血吸蟲病ノ原因症候ハ各巡査ニ訓授シ居常其ノ受持區内ノ患者有無ニ注意セシムルコト

一　別紙第四號書類ノ通リ醫師會長ニ協議シ置キタルヲ以テ患者ハ主治醫ヨリ夫々通報アルヘシト雖單ニ通報ヲ待ツコトナク進ンテ受持區内ノ醫師ニ就キ患者ノ有無ヲ聞取ルヘキコト

一　受持巡査ニ於テ患者ニ疑ハシキモノヲ發見シ未タ醫師ノ通報ナキモノハ諭示シテ醫師ノ診斷ヲ受ケシメ若ハ市町村長ニ協議シ市町村醫ヲシテ之ヲ診斷セシメ又ハ最寄醫師ニ依頼シ醫師會長ト協議事項ニ依リ之ヲ診斷スルコト

一　患者名簿ハ來ル十月末日迄ニ完成セシムルコト

第一號　患者名簿

發病月日	轉歸月日	住所	氏名	生年月	

備考　本簿記載ハ各町村別トナシ口取ヲ付スヘシ

第二號　日本住血吸蟲病患者表　　何警察官署

町村名	前期ヨリ越患者	本期間發生患者數	全治	死亡	計	現在患者數
計						

日本住血吸蟲病

一名山梨病（本縣ニテハ肝脾肥大症又ハ單ニ地方病ト云フ）本病ハ俗間之ヲ水腫、張滿、腸張病ト稱ス

【原因】　日本住血吸蟲病ト稱スルハ長サ五六分ノ小蟲血液内ニ棲育スルニ依テ發ス五六月ヨリ七八月ノ候ニ發病最多シ

【症候】　本病ノ主候ハ顏面汚穢帶黃蒼白色ニシテ貧血ヲ呈シ腹部ハ漸次膨滿シテ甚シキハ臨月ノ姙婦以上ニ達ス

腹壁ニハ皮下ニ數多ノ青筋ノ走ルヲ見ル

肝臟及脾臟甚シク肥大スルニ依リ上腹部ニ大ナル塊ヲ生ス

腹腔内ニハ透明微黃色ノ水樣液渚溜シ其ノ量六七升以上ニ達スルコトアリ幼少ノ頃ヨリ本症ニ罹リシモノハ身體ノ發達甚シク障碍セラレ體軀矮小ニシテ年齡ニ比シ遙ニ幼若ニ見ユルヲ常トス又往々高熱ヲ呈シ且ツ一日三四回乃至七八回ノ水樣下痢ヲ來シ時々粘液血便ヲ瀉ラシ稀レニ吐血ヲナスコトアリ食慾ハ却テ著シク亢進スルヲ常トス而シテ本病患者ノ糞便ニハ無數ニ日本住血吸蟲卵ヲ排泄ス

以上ハ本症ノ主症候ナレトモ急性ニ發熱スルモノ殊ニ幼年者ニアリテハ突然高熱ヲ以テ起リ二三週間繼續シ恰モ「チブス」ノ如キ症狀ヲ呈シ又熱ノ「ヒキサメ」强ク「マラリヤ」（俗ニ「オコリ」ト云フ）ノ如キ觀ヲ呈スルコトアリ發病ノ緩漫ナルモノハ初メハ更ニ異常ヲ覺エス患者自己モ何時疾病ニ罹リシヤヲ知ラス糞便檢査ニヨリ初メテ罹病ヲ知ルコト往々アリ一度本病ニ罹リシモノハ多クハ終世治セス概ネ衰弱或ハ併發症ニ依リ斃ル又小兒ハ病初ノ高熱時期ニ於テ死スルコトアリ

【豫防法】　本蟲カ人體ニ侵入スルノ經路ハ未タ充分明ナラサルモ前述セル如ク患者ノ糞便中ニハ無數ノ本蟲卵ヲ保有シ此卵ヨリ旺ニ子蟲ヲ產ス而シテ肥料ト共ニ田野ニ運搬セラレ水中ニ入リ玆ニ充分ノ成育ヲ遂ケ水中ニ入リ來ル人ノ皮膚ヨリ又ハ飲食物ト共ニ口ヨリ侵入シテ人體ヲ害スルニ至ルカ如シ故ニ左ニ揭クル各項ヲ守ルハ必要ナル豫防法ナリトス

一　患者ト健康者トハ便所ヲ共同セサルコト

二　患者ノ糞便ハ必ス石灰ニテ消毒シタル後肥料ニ供スルコト

三　可及的堀拔井ヲ造リ飲用水ヲ改善スルコト

四　患者アル地ニ於テハ可成水泳ヲ禁スルコト

五　生水及水中ニ產スル動植物ヲ生ニテ飲食セサルコト

六　桂田博士ノ考案ノ如キ油紙製脚絆竝ニ足袋ヲ用フルモ亦可ナリ

七　家畜類殊ニ犬猫ハ同病ニ罹リ易ク故ニ其糞便モ均シク蟲卵ヲ保存シ

病毒蔓延ニ資スルノ虞アルニ依リ適當ノ注意ヲ要ス

以上

縣醫師會ヘ照會

本縣地方病タル日本住血吸蟲病ノ統計作製上必要有之候間貴會ニ於テ左記ノ通リ御助力相成候樣御配慮煩度此段及照會候也

年　月　日

部長名

宛

一　已往診斷セル現在患者ハ其住所氏名ヲ受持巡査又ハ所轄警察官署ニ當該主治醫ヨリ通報スルコト

一　今後日本住血吸蟲病患者ヲ診斷シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ可成速ニ受持巡査又ハ所轄警察官署ヘ通報スルコト

一　受持巡査又ハ市町村長ヨリ該病患者タルノ疑ヒアリテ其ノ診斷ヲ要求セルトキハ可成無償ニテ之レニ應スルコト

●ワイル氏病ニ關スル件

大正十三年一月
衛發第一七號

別紙ノ通山梨縣醫師會長ヘ通牒致置タルニ付該報告ヲ受ケタル際ハ速ニ報告スヘシ

山梨縣醫師會ヘ通牒（大正十三年一月衛發第一七號）

將來ノ豫防計畫上必要有之候ニ付向後貴會員ニシテワイル氏病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル際ハ速ニ左記事項ヲ最寄警察官署ヘ報告セラルヽ樣御取計相煩度此段及通牒候也

記

一　患者又ハ死者ノ現住所、氏名、職業、年齢、男女別
二　病名
三　發病年月日

●模範衛生市町村設置奬勵規程

昭和二年十一月七日
山梨縣令第六十號

模範衛生市町村設置奬勵規程左ノ通定ム

模範衛生市町村設置奬勵規程

第一條　模範衛生市町村ヲ設置セシムル爲本規程ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ市、町、村、又ハ衛生組合等ニ於テ左記各號ノ一ニ該當スル事業ヲ實行シ其ノ成績優良ト認ムルモノニ對シ事業費精算額三分ノ一以內ノ額ヲ交付ス但シ精算額過當ト認ムルモノハ之ヲ査定シ精算額ヲ定ム

一　窒扶斯ノ根絕
二　結核及「トラホーム」ノ豫防及治療
三　寄生蟲ノ驅除
四　便所ノ改善
五　蠅及蚊ノ驅除
六　淸潔ノ保持
七　母性及乳幼兒ノ保護

第三條　第二條ノ事業ヲ爲サムトスル團體ハ事業開始前左記書類ヲ添ヘ知事ニ屆出ツヘシ

一　事業ノ種類及計畫
一　團體ノ名稱及代表者氏名
一　經費豫算書
一　決議書或ハ規約書
一　其ノ他必要ノ書類

第四條　市、町、村及衛生組合ニ於テ第二條ノ事業實行上必要アル場合ハ其事由ヲ具シ衛生技術員ノ派遣ヲ知事ニ申請スルコトヲ得

第五條　第二條ノ事業施行團體ニ對シテハ必要ニ應シ其ノ內容ヲ調査シ又ハ經過ノ報告ヲ徵スルモノトス

第六條　本規程ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

第七條　警察署長前條ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ內容ヲ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七編　衛生（終）

第八編　刑事

第八編　刑事

第一章　刑法

〔山梨警〕

○刑法……明四〇年四月法律四五號……一
○刑法施行法……明四一年三月法律二九號……一九
○警察犯處罰令……明四一年九月內務省令一六號……二四
○山梨縣警察犯處罰令……明四二年三月縣令五七號……二六
○暴力行爲等處罰ニ關スル法律……大一五年四月法律六〇號……二八
○盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律……昭五年五月法律九號……二八
○決鬪罪ニ關スル件……明二二年一二月法律三四號……二九
○法人ノ役員處罰ニ關スル件……大四年六月法律一八號……二九
○法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律……昭八年五月法律五四號……二九
○大審院判例要旨送付ノ件……昭六年七月警訓一五號……三〇

第二章　刑事訴訟法及拘留科料執行手續

○刑事訴訟法……大一一年五月法律七五號……三一
○司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等

ニ關スル件……大一二年一二月勅令五二八號……七八
○司法警察事務上巡査ヲシテ警部代理ヲ爲サシムルノ件……明一四年一〇月司達甲五號……七九
○司法警察事務上巡査ヲシテ警部代理ヲ爲サシムルノ件……明一四年一〇月司法省達丙一三號……七九
○巡査警部代理トシテ司法事務ヲ取扱フトキ取扱ニ關スル件……明一六年二月司法省達丁九號……八〇
○司法警察職務規範……大一二年一二月司法省刑事局刑事一〇〇九二號……八〇
○司法警察執務細則……大一五年六月甲府地方裁判所檢事正訓令日記二八六五號……九二
○刑事補償法……昭六年四月法律六〇號……一四七
○裁判所構成法……明二三年二月法律六號……一四九
○陪審法……大一二年四月法律五〇號……一六二
○陪審法施行規則……昭二年五月司法省令一六號……一七一
○陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件……昭二年五月勅令一四六號……一七八
○犯罪用物件及贓物假ニ所有主ニ交付ノ件……明一五年六月司法省達丙二四號……一七八
○刑事責任無能力者ノ奪取シタル物ノ處分ニ關スル件……昭五年四月警訓六號……一七九
○軍人軍屬等ニ關係シ及警察官憲兵同時ニ處分シタル犯罪事件取扱手續……明三一年二月甲府地方裁判所檢事正訓示……一七九
○捜査中止事件取扱心得……明四三年七月日記二六四二號……一七九

○司法警察官微罪事件取扱規程……大二年八月日記四〇九七號……一八〇
○微罪釋放處分年表進達ノ件……大七年三月保收一二六八號……一八一
○違警罪即決例……明一八年九月太政官布告三一號……一八三
○違警罪即決例執行手續……昭六年八月訓令乙一三三號……一八四
○違警罪即決例執行手續制定ノ件……昭六年八月警訓二一號……一九三
○違警罪執行ニ關スル刑期ノ件……明四五年一月梨警收五號……一九三
○違警罪即決例適用ニ關スル件……大八年一〇月保收六八六二號……一九三
○即決處分ノ科料金ニ關シ勞役場留置ノ言渡ヲ爲シ得ルノ件……明四一年九月司民刑甲二一二號……一九四
○即決處分ノ科料ニ對シテハ强制徵收ヲ爲スヲ得ザル件……明四一年一一月梨警發三二四號……一九四
○違警罪即決處分ニ關スル件……大七年一一月保收六三五四號……一九四
○違警罪即決例ニ依ル正式裁判申立期間計算方ニ關スル件……大五年一〇月保親收一三六號……一九六
○違警罪即決例ニ依ル保證金取扱ニ關スル件……大一五年五月刑收四二四五號……一九七
○拘留刑執行中ノ者檢事ニ送致方ノ件……大七年一二月日記一〇一二三號……一九七
○勞役場留置指揮ヲナシタルモノニシテ罰金科料ノ納付申出アリタル場合ニ於ケル取扱振ニ關スル件……大九年八月日誌三二一七號……一九八
○少年法第十三條ノ勞役場留置ト違警罪即決例ニ依ル科料金

ノ納付ヲ爲ス能ハサル場合勞役場留置ニ關スル件……大一二年一〇月刑收七一三二號……一九八
○違警罪卽決例ニ依ル刑ノ執行方ニ關スル件……昭二年九月警訓一九號……一九九
○卽決處分竝行政檢束ニ關スル件……昭二年一二月警訓三〇號……二〇〇
○違警罪卽決處分件數表……明四四年八月梨警發一四一號……二〇〇

第三章　捜査

○犯罪捜査規程……大一四年九月訓令乙一九五號……二〇三
○犯罪捜査規程ニ依ル報告ニ關スル件……大一四年一一月刑親發四五號……二一六
○刑事々件調ノ件……昭一一年四月警訓二號……二一七
○犯罪事件各種別一覽表ノ件……昭九年八月刑發一三八號……二一七
○犯罪捜査要項ニ關スル件……大一〇年六月警訓七二號……二二一
○刑事警察報配布ニ關スル件……昭六年四月警訓五號……二二一
○犯罪捜査手配ニ關スル件……大一〇年一二月刑發四九號……二二一
○他廳府縣下ノ犯罪手配ニ關スル件……昭二年九月警訓二一號……二二二
○犯人引渡內規ノ件……昭一〇年七月警訓六號……二二三
○犯人引渡方交涉ニ關スル件……昭八年一一月刑發一七一號……二二四
○犯人引渡ニ關スル件……昭一一年一一月刑發二八九號……二二四

○刑務所收容者ヲ取調フル手續ニ關スル件……昭六年六月警訓一四號……二二四

第四章　鑑識

○警察指紋採取規程……昭九年一〇月內務省訓二一〇九號……二二七
○警察指紋採取規程……昭九年一一月訓令乙一九〇號……二三九
○警察指紋分類規程印刷送付ノ件……昭一〇年四月刑發七八號……二四二
○警察寫眞取扱規程……昭五年一二月訓令乙一七〇號……二五五
○犯罪手口票取扱規程……昭一一年六月內務省訓五五五號……二五八
○犯罪手口票記載例及取扱心得……昭一一年六月內務省發警三〇號……二六一
○犯罪手口票取扱細則……昭一一年八月訓令乙二〇八號……二六六
○氏名索引票分類排列規程……大一五年七月制定……二六八
○商標調査規程……昭二年一〇月訓令乙一七七號……二七一
○商標調査規程實施ニ關スル件……昭二年一〇月警訓二四號……二七二
○鑑識係員ノ選定ニ關スル件……昭二年一二月警訓二七號……二七二
○犯罪捜査上理化學的檢査ヲ必要トスル物件ノ取扱ニ關スル件……昭五年三月警訓五號……二七三

第五章　防犯

○刑事要視察人視察內規……昭三年六月內訓三號……二七五
○保護少年視察內規……昭三年六月內訓二號……二七九
○刑事要視察人視察內規及保護少年視察內規實施ニ關スル件……昭三年六月警訓一二號……二八七
○犯罪常習者名簿整理心得……昭三年六月警訓一四號……二八八
○禁厭祈禱者名簿作成ノ件……昭六年七月警訓一六號……二九一
○娼婦視察規程……大四年七月內訓一號……二九一

第六章　移動警察

○移動警察施設ニ關スル件……大一一年二月警訓一〇號……二九三
○移動警察實施ニ關スル件……大一一年三月刑收三九七號……二九四
○移動警察事務取扱規程……大一三年七月內訓五號……二九五

第七章　留置及押送

○監獄法……明四一年三月法律二八號……二九七
○監獄法施行規則……明四一年六月司法省令一八號……三〇二
○留置場規程……大一一年五月訓令乙一一〇號……三一三

○在監人遵守事項……明四一年一二月梨警收一二四四七號ノ一……三一八
○留置場設備方ノ件……明三二年八月保發四一〇號……三一八
○警察留置場使用及勞役場留置者押送ノ件……明四一年一一月梨警收一〇八一二號ノ一……三一九
○警察署留置中紀律違反者監獄ヘ通知ノ件……明四一年一一月梨警收一二五二一號ノ一……三二〇
○警察署留置場海軍監獄ニ代用ノ件……明四一年一二月梨警收一三六一四號ノ一……三二〇
○未決囚ハ他囚ト嚴劃スヘキ件……明二〇年三月警乙二一號……三二一
○在監者身上記載例……明四一年一〇月梨警收一一二〇〇號……三二一
○精神病者タル在監人放免ノトキ警察署ヘ通知ノ件……明三四年七月訓示七八號……三二三
○留置人疾病醫療ノ件……明三五年一月訓示一四號……三二三
○留置人ノ信書檢閱ニ關スル件……昭二年六月刑親收四八五號ノ一……三二三
○囚人傳染病ニ罹リ病舍收容日數刑期算入ノ件……明三四年七月訓示七七號……三二三
○囚人及刑事被告人押送規則……明三〇年一一月勅令四一五號……三二三
○囚人及刑事被告人押送細則……明三〇年一二月內務省令三七號……三二五
○囚人及刑事被告人押送心得……大一〇年九月訓令乙二一二號……三二八
○囚人又ハ刑事被告人遞傳護送ニ關スル件……明三一年二月司法省訓令一號……三三一
○檢證上囚人召連出張ノ節巡査護送ノ件……明一五年六月內達乙三五號……三三一

○刑事被告人及囚人押送規則ニ關スル件……明三一年二月京二號……三三一
○檢事指揮ニ係ル囚人及刑事被告人ニ關スル件……明三四年九月保六七三號……三三二
○受刑者及刑事被告人內地外ニ押送ニ關スル件……大一四年一月內務省訓三七號……三三二
○護送刑事被告人ヲ甲府署ヘ收受方ノ件……明二八年三月日記三一三號檢事正……三三三
○被告人押送巡査選擇ノ件……明三四年一月訓示一號……三三三
○入監婦女乳兒携帶ニ關スル件……明三八年一二月保發一六三號……三三三
○臺灣韓國及關東州ニ押送スル者ノ件……明四〇年一二月訓示六一號……三三三
○囚人及刑事被告人押送中逃走ニ關スル件……大一二年四月警訓一三號……三三四

第八章　保護及感化

○假出獄取締細則……明四一年九月司法省令二五號……三三五
○假出獄及假出場ニ關スル取扱手續……明四一年九月司法省訓令七號……三三六
○假出獄取締細則ニ依リ交付スベキ旅費及證明書雛形……明四一年九月內務省訓令九號……三四一
○假出獄取締細則第十四條ニ依ル報告ニ關スル件……明四二年五月梨警收四九五一號ノ一……三四五
○少年法……大一一年四月法律四二號……三四五
○假出獄少年取締規則……大一一年一二月司法省令三二號……三五〇
○少年教護法……昭八年五月法律五五號……三五一

○少年教護法施行令……昭九年九月勅令二八〇號……三五三
○少年教護法施行規則……昭九年九月內務省令二一號……三五五
○少年教護法施行細則……昭九年一〇月縣令三三號……三五七
○國立少年教護院官制……昭九年九月勅令二八一號……三六〇
○國立少年教護院ノ名稱ニ關スル件……昭九年九月內務省告示四七八號……三六一
○山梨縣立少年教護院設置……昭一〇年四月告示一七一號……三六一
○矯正院法……大一一年四月法律四三號……三六一
○矯正院處遇規程……大一一年一二月司法省令三四號……三六二
○兒童虐待防止法……昭八年四月法律四〇號……三六五
○兒童虐待防止法第七條ニ依ル業務及行爲ノ種類指定ノ件……昭八年八月內務省令二一號……三六六
○兒童虐待防止法施行規則……昭八年九月縣令五一號……三六六
○刑務所釋放者保護視察ニ關スル件……大一一年一二月警訓五九號……三六九
○刑務所ノ釋放者取扱ニ關スル件……大一二年六月刑收四五〇五號……三六九
○釋放者通知ニ關スル件……昭二年八月警訓一六號……三七〇
○釋放者通知ノ改正其他ニ關スル件……昭二年八月警發七三號……三七〇

第九章　檢視

○檢視規程……大一四年一二月訓令二四〇號……三七一
○檢視又ハ解剖ニ關スル件……明一〇年二月太政官布告二二號……三七二
○變死事件檢視ニ關スル件……大九年八月警訓一五號……三七三
○病死體解剖ニ關スル件……明九年七月內務省達無號……三七三
○刑死者及死亡者遺骸解剖ニ關スル件……明一八年七月內務省達甲二五號……三七三
○在監人變死ノ場合檢視ノ件……明三三年一一月訓示七八號……三七三
○變死者ノ檢視ニ關スル件……昭三年一月警訓二號……三七四

第八編目次(終)

第八編　刑事

第一章　刑法

●刑法　明治四十年四月二十四日　法律第四十五號

改正　大正一〇年四月法律第七七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑法別冊ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十一年六月勅令第百六十三號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別冊）

刑法

第一編　總則
第一章　法例
第二章　刑
第三章　期間計算
第四章　刑ノ執行猶豫
第五章　假出獄
第六章　時效
第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免
第八章　未遂罪
第九章　併合罪
第十章　累犯
第十一章　共犯
第十二章　酌量減輕
第十三章　加減例
第二編　罪
第一章　皇室ニ對スル罪
第二章　內亂ニ關スル罪
第三章　外患ニ關スル罪
第四章　國交ニ關スル罪
第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪
第六章　逃走ノ罪
第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪
第八章　騷擾ノ罪
第九章　放火及ヒ失火ノ罪
第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪
第十一章　往來ヲ妨害スル罪
第十二章　住居ヲ侵ス罪
第十三章　祕密ヲ侵ス罪
第十四章　阿片煙ニ關スル罪
第十五章　飲料水ニ關スル罪
第十六章　通貨僞造ノ罪
第十七章　文書僞造ノ罪
第十八章　有價證券僞造ノ罪
第十九章　印章僞造ノ罪
第二十章　僞證ノ罪
第二十一章　誣告ノ罪
第二十二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪
第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪
第二十五章　瀆職ノ罪
第二十六章　殺人ノ罪
第二十七章　傷害ノ罪
第二十八章　過失傷害ノ罪
第二十九章　墮胎ノ罪
第三十章　遺棄ノ罪
第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪
第三十二章　脅迫ノ罪
第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪
第三十四章　名譽ニ對スル罪
第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪
第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪
第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪
第三十八章　横領ノ罪
第三十九章　贓物ニ關スル罪
第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

刑法

第一編　總則

第一章　法例

第一條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一　第七十三條乃至第七十六條ノ罪
二　第七十七條乃至第七十九條ノ罪
三　第八十一條乃至第八十九條ノ罪
四　第百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪
五　第百五十四條、第百五十五條、第百五十七條及ヒ第百五十八條ノ罪
六　第百六十二條及ヒ第六十三條ノ罪
七　第百六十四條乃至第百六十六條ノ罪及ヒ第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項ノ未遂罪

第三條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一　第百八條、第百九條第一項ノ罪、第百八條、第百九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪
二　第百十九條ノ罪
三　第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪
四　第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
五　第百七十六條乃至第百七十九條、第百八十一條及ヒ第百八十四條ノ罪
六　第百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪
七　第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
八　第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪
九　第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
十　第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
十一　第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
十二　第二百三十條ノ罪
十三　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百

四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪
十四　第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
十五　第二百五十三條ノ罪
十六　第二百五十六條第二項ノ罪

第四條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

一　第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪
二　第百五十六條ノ罪
三　第百九十三條、第百九十五條第二項、第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

第五條　外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六條　犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

第七條　本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ
公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第八條　本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章　刑

第九條　死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

第十條　主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス
同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第十一條　死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス
死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

第十二條　懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス
懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

第十三條　禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス
禁錮ハ監獄ニ拘置ス

第十四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條　罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條　拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス

第十七條　科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

第十八條　罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス
罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ
罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人

ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日ニ數充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

第十九條　左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一　犯罪行爲ヲ組成シタル物

二　犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

三　犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

第二十條　拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

第二十一條　未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第三章　期間計算

第二十二條　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第二十三條　刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

第二十四條　受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時效期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章　刑ノ執行猶豫

第二十五條　左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル

トキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一　猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章　假出獄

第二十八條　懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第二十九條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一　假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四　假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十條　拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第六章　時效

第三十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

第三十二條　時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

一　死刑ハ三十年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年

四　罰金ハ三年

五　拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條　時效ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第三十四條　時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條　法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

第三十六條　急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條　自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限リ之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

第三十八條　罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條　心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條　十四歲ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第四十二條　罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

第八章　未遂罪

第四十三條　犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條　未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九章　併合罪

第四十五條　確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ亦タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第四十六條　併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス
但沒收ハ此限ニ在ラス
其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條　併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第四十八條　罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス
二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十九條　併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得
二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第五十條　併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

第五十一條　併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第五十二條　併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第五十三條　拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス
二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

第五十四條　一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス
第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第五十五條　連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第十章　累犯

第五十六條　懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年內ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス
懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間內ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ
併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

第五十七條　再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條　裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム
懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第五十九條　三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第十一章　共犯

第六十條　二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第六十一條　人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第六十二條　正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス
從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

第六十三條　從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十四條　拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第六十五條　犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス
身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第十二章　酌量減輕

第六十六條　犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條　法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章　加減例

第六十八條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル
一　死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
二　無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
三　有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス
四　罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス
五　拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス
六　科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

第六十九條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條　懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス
罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條　酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條　同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル
一　再犯加重
二　法律上ノ減輕

三　併合罪ノ加重
四　酌量減輕

第二編　罪

第一章　皇室ニ對スル罪

第七十三條　天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條　天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

第七十五條　皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條　皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第二章　內亂ニ關スル罪

第七十七條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ內亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
二　謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
三　附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第七十八條　內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條　兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條　前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第三章　外患ニ關スル罪

第八十一條　外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條　要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス
兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十三條　敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條　帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條　敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條　前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條　前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條　第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章　國交ニ關スル罪

第九十條　帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十一條　帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十二條　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條　外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條　外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條　公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條　公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章　逃走ノ罪

第九十七條　既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條　既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百一條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七章　犯人藏匿及ト證憑湮滅ノ罪

第百三條　罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四條　他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ僞造、變造シ若クハ僞造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五條　本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第八章　騷擾ノ罪

第百六條　多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
三　附加隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七條　暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章　放火及ヒ失火ノ罪

第百八條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百九條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第百十條　火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條　第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百十二條　第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百十三條　第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第百十四條　火災ノ際鎭火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎭火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百十五條　第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

第百十六條　火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百十七條　火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

第百十八條　瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第百十九條　溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百二十條　溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限リ前項ノ例ニ依ル

第百二十一條　水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二十二條　過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十三條　堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一章　往來ヲ妨害スル罪

第百二十四條　陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百二十五條　鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百二十六條　人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顚覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第百二十七條　第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第百二十八條　第百二十四條第一項、第百二十五條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百二十九條　過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章　住居ヲ侵ス罪

第百三十條　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十一條　故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第百三十二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章　祕密ヲ侵ス罪

第百三十三條　故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第百三十五條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待チ之ヲ論ス

第十四章　阿片煙ニ關スル罪

第百三十六條　阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十七條　阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十八條　稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入

ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十九條　阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十條　阿片煙又ハ阿片吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十一條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章　飲料水ニ關スル罪

第百四十二條　人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十三條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十四條　人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十五條　前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百四十六條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百四十七條　公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章　通貨僞造ノ罪

第百四十八條　行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第百四十九條　行使ノ目的ヲ以テ內國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
僞造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第百五十條　行使ノ目的ヲ以テ僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百五十一條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十二條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其僞造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第百五十三條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ僞造又變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七章　文書僞造ノ罪

第百五十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シ又ハ僞造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

第百五十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十六條　公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛僞ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第百五十七條　公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十八條　前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ僞造若クハ變造シ又ハ虛僞ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十九條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ僞造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十條　醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條　前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ僞造若クハ變造シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章　有價證券僞造ノ罪

第百六十二條　行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十三條　僞造、變造ノ有價證券又ハ虛僞ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章　印章僞造ノ罪

第百六十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ僞造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十六條　行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ僞造シタル者ハ三年以下ノ徵役ニ處ス
公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十七條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十八條　第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條

第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章　僞證ノ罪

第百六十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人虚僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百七十條　前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲役處分前自白シタルトキハ其刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第百七十一條　法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通譯虚僞ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第二十一章　誣告ノ罪

第百七十二條　人ヲシテ刑事又ハ懲役ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ

第百七十三條　前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十四條　公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第百七十五條　猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第百七十六條　十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第百七十七條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ强姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第百七十八條　人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第百七十九條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十條　前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第百八十一條　第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百八十二條　營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十三條　有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第百八十四條　配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條　偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第百八十六條　常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十七條　富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授與シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條　神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條　墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十條　死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條　第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條　檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章　濟職ノ罪

第百九十三條　公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十四條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十五條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百九十六條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百九十七條　公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

第百九十八條　公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十六章　殺人ノ罪

第百九十九條　人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百一條　前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條　人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條　第百九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章　傷害ノ罪

第二百四條　人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條　身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ

懲役ニ處ス

第二百六條　前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條　二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條　暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章　過失傷害ノ罪

第二百九條　過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條　過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章　墮胎ノ罪

第二百十二條　懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條　婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條　醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條　婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十章　遺棄ノ罪

第二百十七條　老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條　老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條　不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十二章　脅迫ノ罪

第二百二十二條　生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十三條　生命、身體、自由、名譽若クハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十四條　未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條　營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條　帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條　第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第三十四章　名譽ニ對スル罪

第二百三十條　公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

第二百三十一條　事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百三十二條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條　虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條　威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪

第二百三十五條　他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ强取シタル者ハ强盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百三十七條　强盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條　竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ强盜ヲ以テ論ス

第二百三十九條　人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ强盜ヲ以テ論

ス

第二百四十條　強姦人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十一條　強姦婦女ヲ强姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十二條　自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十四條　直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百四十五條　本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百四十七條　他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條　未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗廢ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十九條　人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條　本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十八章　横領ノ罪

第二百五十二條　自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百五十三條　業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十四條　遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條　本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十九章　贓物ニ關スル罪

第二百五十六條　贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條　直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條　公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條　權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十條　他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十一條　前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十二條　自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第二百六十三條　他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十四條　第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

●刑法施行法

明治四十一年三月二十八日
法律第二十九號

改正　明治四二年法律第四號、第三九號、四三年第五三號、大正五年第一五號、第一七號、一〇年第六八號、一一年第七一號、昭和二年第四七號

睦帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑法施行法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑法施行法

第一條　本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑	舊刑法ノ刑
死刑	死刑
無期懲役	無期徒刑
無期禁錮	無期流刑
有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期禁錮	有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮
罰金	罰金
拘留	拘留
科料	科料

第三條　法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一箇ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

第四條　刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條　刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

第六條　刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一　確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二　確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第七條　左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一　舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

二　舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第八條　刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條　刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條　刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條　刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條　第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時效期間ノ起算及ヒ時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條　刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十五條　刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條　闕席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時效期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條　剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條　他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條　他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條　他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條　他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ揭ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十三條　前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條　明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ內刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

一　第二編第四章第九節

二　第二編第五章第三節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

第二十六條　左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

一　軍機保護法ニ揭ケタル罪

二　（削除）

三　明治三十八年法律第六十六號ニ揭ケタル罪

四　通貨及證券模造取締法ニ揭ケタル罪

五　船舶法ニ揭ケタル罪

六　船員法ニ揭ケタル罪

七　船舶職員法ニ揭ケタル罪

八　船舶檢査法ニ揭ケタル罪

九　戶籍法ニ揭ケタル罪

第二十七條　左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一　著作權法ニ揭ケタル罪

二　（削除）

三　移民保護法ニ揭ケタル罪

第二十八條　人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル

他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ

第二十九條　死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

第三十條　前號ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

第三十一條　拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

第三十二條　他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三條　死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十四條　前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

第三十五條　六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十六條　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

第三十七條　他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條　刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條　公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

一　死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二　無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三　長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四　長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

五　刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年

六　拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三十九條　刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

第三　區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ

第四十條　刑事訴訟法第百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默祕ス可キモノニ關スルトキ

第四十一條　刑事訴訟法第百二十六條第一項中「刑法第百八十條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第百三十八條中「刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條　刑事訴訟法第百六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

第四十三條　刑事訴訟法第百七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第百七十二條　檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪ノ」ヲ削ル

第四十五條　刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條　裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス可シ檢事ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條　刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ」ヲ削ル

第四十七條　刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條　刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二　死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三　死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條　刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一　心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

二　刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ

三　受胎後七月以上ナルトキ

四　分娩後一月ヲ經過セサルトキ

第五十條　刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ爲ス可シ」ノ下ニ「刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條　刑事訴訟法第二十四條、第六十三條、第百六十八條、第百七十三條及ヒ第百七十四條但書ハ之ヲ削ル

第五十二條　刑事訴訟法中復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

第五十三條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條　刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ

ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條　明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十九條　明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條　私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

附　則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十一年十月一日ヨリ施行）

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

●警察犯處罰令

明治四十一年九月二十九日
内務省令第十六號

改正　大正八年九月内務省令第一七號

警察犯處罰令左ノ通リ之ヲ定ム

警察犯處罰令

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

一　故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅、建造物及船舶内ニ潛伏シタル者

二　密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者

三　一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

四　故ナク面會ヲ强請シ又ハ强談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　合力、喜捨ヲ强請シ又ハ强テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二　乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三　濫ニ寄附ヲ强請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ强テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四　入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ强請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ强請シタル者

五　他人ノ業務ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者

六　新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛僞ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七　新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付强テ其ノ申込ヲ求メタル者

八　申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

九　祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者

十　自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者

前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

十一　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥醉シテ徘徊シタル者

十二　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

十三　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者

十四　劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者

十五　雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ增スノ行爲ヲ爲シタル者

十六　人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮說又ハ虛報ヲ爲シタル者

十七　妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

十八　病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

十九　濫ニ催眠術ヲ施シタル者

二十　官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

二十一　官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者

二十二　人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障碍ヲ爲シタル者

二十三　河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者

二十四　自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者

二十五　出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者

二十六　官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者

二十七　水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入リ若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者

二十八　濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

二十九　他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

三十　使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者

三十一　濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者

三十二　他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ拋澆シ又ハ放射シタル者

三十三　神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者

三十四　人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者

三十五　一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者

三十六　不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

三十七　濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レカ保存ヲ爲シタル者

二　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ裸褐、裸裎シ又ハ臀部、陰部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者

三　街路ニ於テ屎尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

四　濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者

五　家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
六　石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ怠ニシタル者
七　開業ノ產婆故ナク姙婦、產婦ノ招キニ應セサル者
八　故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
九　炮煮、洗濯、剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
十　濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ怠リタル者
十一　監督ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
十二　濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ嗾シ又ハ驚逸セシメタル者
十三　狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
十四　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
十五　濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚瀆シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貨家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
十六　橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
十七　通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ之ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者

第四條　本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●山梨縣警察犯處罰令

明治四十二年三月
山梨縣令第五十七號

改正　明治四五年五月縣令第四三號、昭和五年五月第一八號、昭和五年六月第二五號、昭和六年六月第二九號

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　削除
二　許可ヲ得ス又ハ許可證ヲ携帶セス若クハ危險ノ虞アル物ヲ裝塡シテ銃ヲ爲シタル者
三　國道縣道其他交通頻繁ナル通路ニ於テ夜中燈火ナクシテ牛馬諸車ヲ曳キ又ハ駕籠ヲ行リタルモノ
四　國道縣道其他交通頻繁ナル通路ニ於テ口取人ナキ駄牛馬又ハ荷牛馬車ニ乘リタル者但シ馭者臺ノ設ケアル荷牛馬車ニシテ所轄警察署ヨリ許可ノ證印ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ非ス
五　宿屋營業者ニ非スシテ警察官吏ノ許可ヲ得ス一定ノ住居又ハ生業ナク若クハ身元詳カナラサル者ナルコトヲ知リテ之ヲ宿泊セシメタル者
六　法令ノ規定ニ依リ人ノ住所職業氏名年齡ヲ帳簿ニ記入シ又ハ官署ニ屆出ツヘキ義務アル者ニ對シテ此等ノ事項ヲ詐稱シタル者
七　社員、會員ノ勸誘又ハ寄附金品ノ募集若クハ合力喜捨物品ノ購買入場券ノ配附等ニ應セシムル爲メ他人ノ名義ヲ濫用シタル者
七ノ二　多衆運動ノ目的ヲ以テ濫リニ鐘鼓ノ類ヲ鳴ラシタルモノ
八　夜間十二時後濫リニ他人ノ安眠ヲ妨害スヘキ行爲ヲ爲シタル者
九　法令ニ據リ他人ノ紛議訴訟又ハ非訟事件ニ關與スルヲ業務トスルモノニ非スシテ强テ是等ノ事件ニ關係シ利益ヲ圖リタル者

十　新聞紙雜誌ニ他人ヲ害スヘキ虛僞ノ通信ヲ爲シタル者
十一　事實ノ有無ヲ問ハス人ノ陰私ニ關シ濫リニ金錢物品ヲ收受シ又ハ其ノ給付ヲ促シ若クハ是等ノ事項ニ付周旋與シタル者
十二　住所、氏名詳カナラサル者ノ依頼ヲ受ケ物品ノ保管又ハ入質賣渡讓渡其ノ他ノ處分若クハ之カ周旋ヲ爲シタル者
十三　闘牛闘犬又ハ闘鷄ヲ爲シタル者
十四　入札ニ關シ談合ヲ爲シ因テ金錢物品其ノ他ノ利益ヲ授受シ又ハ之カ申込、約束、周旋、勸誘ヲ爲シタル者
十五　租稅公課ノ滯納ヲ爲スコトヲ勸誘シ又ハ唱道シタル者
十六　濫ニ小學校兒童ノ同盟休校ヲ爲サシムルノ勸誘若ハ唱道ヲ爲シ又ハ威壓其ノ他ノ方法ヲ以テ兒童ノ通學ヲ妨害シタル者
十七　故ナク多數團結シテ冠婚葬祭其ノ他地方ノ慣行ニ依ル交際ヲ絕チ又ハ絕タシムルコトヲ勸誘若ハ唱道シタル者

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　社寺ノ管理人ニシテ其ノ宿泊シタル參籠人ノ住所、氏名ヲ帳簿ニ記載セス又ハ警察官吏ノ求メニ應シ之ヲ提出セサルモノ
二　架空電線ノ附近ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ其ノ他障害ノ虞アル行爲ヲ爲シタル者
三　輕氣球又ハ之ニ類似ノ物ニ點火シテ放揚シタル者
四　濫リニ官有地ヲ使用シ又ハ掘鑿シタル者
五　警察官吏ノ許可ヲ得スシテ原野ニ火入ヲ爲シ又ハ火入ニ際シ警察官吏ノ指揮命令ニ違背シタル者
六　緣日其他雜沓ノ場所ニ於テ石油燈器ノ油壺ニ金屬製ニ非サルモノヲ使用シタル者
七　飼主其ノ住所、氏名ヲ明記シタル標札ヲ畜犬ニ紮付セサル者
八　人ノ自由ニ出入シ得ル場所ニ於テ牛馬ヲ交尾セシメタル者
九　獸畜ノ診斷又ハ檢案ヲ爲サスシテ診斷書又ハ檢案書ヲ交付シタル者但シ診療中ノ獸畜斃死シタル場合ニ交付スル診斷書ニ付テハ此ノ限リニアラス
十　飲食物ニ關スル營業者ニシテ炮煮、洗濯、剝皮ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スルモノニ覆蓋ヲ爲サス貯藏配達又ハ行商シタル者
十一　飲食物ニ關スル營業者ニシテ其ノ調製所、飲食器其ノ他飲食物ニ接觸スル器具ヲ淸潔ニ爲シ置カサルモノ
十二　結核病、癩病、黴毒、其他傳染性疾患者ニシテ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ調製取扱等ニ從事シ又ハ之ニ從事セシメタル者
十三　健康ヲ害スル虞アル用水ヲ以テ營業用ニ供スル飲食物其ノ他之ニ接觸スル物品ヲ洗濯シタル者
十四　警察官署ノ許可ナキ場所ニ於テ多量ノ屎ヲ貯藏シ又ハ日光ニ乾燥シタル者
十五　街路ニ於テ屎尿其ノ他惡臭アル物ノ汚汁等ノ漏出スヘキ容器ニ溜メ置キ若クハ是等ノ容器ヲ以テ運搬シタル者
十六　市街ニ於テ午前八時ヨリ日沒迄ノ間ニ屎尿ノ汲取又ハ運搬ヲ爲シタル者但シ本令ヲ適用スル場所ハ別ニ之ヲ告示ス
十七　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ沿ヒタル便所糞池又ハ汚物溜ニ覆蓋又ハ防圍ヲ爲ササル者
十八　街路ヨリ見透シ得ル場所ニ於テ便所以外ノ屎尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

第三條　本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附　則

第四條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●暴力行爲等處罰ニ關スル法律

大正十五年四月十日
法律第六十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル暴力行爲等處罰ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項、第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ前項ニ掲グル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第二條　財産上不正ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ前條第一項ノ方法ニ依リ面會ヲ强請シ又ハ强談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ故ナク面會ヲ强請シ又ハ强談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三條　第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第百九十九條、第二百四條、第二百八條第一項、第二百二十二條、第二百二十三條、第二百三十四條、第二百六十條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ金品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ職務ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者及情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十五條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰

金ニ處ス

附　則

本法施行前刑法第二百八條第一項又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ本法ニ該當スルモノハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

●盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律

昭和五年五月二十二日
法律第九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　左ノ各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命、身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險ヲ排除スル爲犯人ヲ殺傷シタルトキハ刑法第三十六條第一項ノ防衛行爲アリタルモノトス

一　盜犯ヲ防止シ又ハ盜贓ヲ取還セントスルトキ

二　兇器ヲ携帶シテ又ハ門戸牆壁等ヲ踰越損壞シ若ハ鎖鑰ヲ開キテ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ニ侵入スル者ヲ防止セントスルトキ

三　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ニ侵入シタル者又ハ要求ヲ受ケテ此等ノ場所ヨリ退去セザル者ヲ排斥セントスルトキ

前項各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命、身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險アルニ非ズト雖モ行爲者恐怖、驚愕、興奮又ハ狼狽ニ因リ現場ニ於テ犯人ヲ殺傷スルニ至リタルトキハ之ヲ罰セズ

第二條　常習トシテ左ノ各號ノ方法ニ依リ刑法第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニ對シ竊盜ヲ以テ論ズベキトキハ三年以上、强盜ヲ以テ論ズベキトキハ七年以上ノ有期懲役ニ處ス

一　兇器ヲ携帶シテ犯シタルトキ

二　二人以上現場ニ於テ共同シテ犯シタルトキ

三　門戸牆壁等ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ侵入シテ犯シタルトキ

四　夜間人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ侵入シテ犯シタルトキ

第三條　常習トシテ前條ニ掲ゲタル刑法各條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニシテ其ノ行爲前十年內ニ此等ノ罪又ハ此等ノ罪ト他ノ罪トノ併合罪ニ付三回以上六月ノ懲役以上ノ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タルモノニ對シ刑ヲ科スベキトキハ前條ノ例ニ依ル

第四條　常習トシテ刑法第二百四十條前段ノ罪若ハ第二百四十一條前段ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

●決鬪罪ニ關スル件

明治二十二年十二月三十日
法律第三十四號

朕決鬪罪ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　決鬪ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

第二條　決鬪ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

第三條　決鬪ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條　決鬪ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

情ヲ知テ決鬪ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條　決鬪ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條　前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

●法人ノ役員處罰ニ關スル件

大正四年六月二十一日
法律第十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル法人ノ役員處罰ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

法人ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事、監査役又ハ監事ニシテ刑事訴追又ハ刑ノ執行ヲ免レシムル爲合併其ノ他ノ方法ニ依リ法人ヲ消滅セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

附　則

本法ハ大正四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律

昭和八年五月
法律第五十四號

第一條　辯護士ニ非ザル者ハ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ訴訟事件ニ關

シ又ハ他人間ノ非訟事件ノ紛議ニ關シ鑑定、代理、仲裁若ハ和解ヲ爲シ又ハ此等ノ周旋ヲ爲スヲ業トスルコトヲ得ズ但シ正當ノ業務ニ附隨シテ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　何人ヲ問ハズ他人ノ權利ヲ讓受ケ訴訟其ノ他ノ手段ニ依リ其ノ權利ノ實行ヲ爲スコトヲ業トスルコトヲ得ズ

第三條　辯護士ニ非ザル者ハ利益ヲ得ル目的ヲ以テ辯護士、法律事務所其ノ他之ニ類似スル名稱ヲ使用スルコトヲ得ズ

第四條　第一條又ハ第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス辯護士此等ノ者ヨリ事件ノ周旋ヲ受ケタルトキ亦同ジ

第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大審院判例要旨送付ノ件

昭和六年七月十日
警訓第一五號

捜査組合會議等ノ際大審院判決例ヲ各署ニ送付セラレタキ旨ノ希望モ有之旁々其ノ必要ヲ認メ爾今右判決例中特ニ警察事務上必要ト認メラルルモノノ要旨ヲ謄寫シ送付スヘキニ付各署及警部補派出所並巡査部長派出所ニ之カ綴ヲ設ケ送付ノ都度編綴シ置キ執務上ノ參考トセラルヘシ

右訓示ス

第二章　刑事訴訟法及拘留科料執行手續

●刑事訴訟法

大正十一年五月五日
法律第七十五號

改正　大正一五年四月法律第七二號、昭和一〇年五月第四三號

勅令　國議會ノ協賛ヲ經タル刑事訴訟法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟法

第一編　總則

第一章　裁判所ノ管轄

第一條　裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル

帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ前項ニ規定スル地ノ外其ノ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル地ニ依ル

第二條　事物管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得

第三條　事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件上級裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第四條　事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ上級裁判所及下級裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

第五條　土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得

第六條　土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ其ノ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ

第七條　事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ繫屬

スルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テ各裁判所ノ決定一致セサルトキハ各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ事件ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

第八條　數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一　一人數罪ヲ犯シタルトキ

二　數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ

三　數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

四　數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第九條　同一事件事物管轄ヲ異ニスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

上級裁判所ノ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十條　同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十一條　裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十二條　訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第十三條　裁判所ハ管轄權ヲ有セサルトキト雖急速ヲ要スル場合ニ於テハ事實發見ノ爲必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十四條　檢事ハ左ノ場合ニ於テ關係アル第一審裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スベシ

一　裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所ノ定ラサルトキ

二　管轄違ヲ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付他ニ管轄裁判所ナキトキ

第十五條　法律ニ依ル管轄裁判所ナキトキ又ハ之ヲ知ルコト能ハサルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

第十六條　檢事ハ左ノ場合ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

一　管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル裁判所ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ

二　被告人ノ地位、地方ノ民心、訴訟ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル虞アルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十七條　犯罪ノ性質、被告人ノ地位、地方ノ民心其ノ他ノ事情ニ因リ管轄裁判所ニ於テ審判ヲ爲ストキハ公安ヲ害スル虞アリト認ムル場合ニ於テハ檢事總長ハ大審院ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

第十八條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

檢事前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十九條　檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第二十條　檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ規定スル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日內ニ管轄裁判所ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十一條　被告人管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ事件ノ繫屬スル裁判所ヲ經由スヘシ

前項ノ裁判所請求書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二十二條　豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第二章　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第二十四條　判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一　判事被害者ナルトキ

二　判事私訴當事者ナルトキ

三　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等內ノ血族、三親等內ノ姻族又ハ同居ノ戶主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ

四　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

五　判事事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六　判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ

七　判事事件ニ付檢事又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

八　判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ檢事、被告人又ハ私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得

辯護人ハ被告人ノ爲忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二十六條　事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原由アリシコトヲ知ラサリシトキ又ハ忌避ノ原由其ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲シ豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ニ對スル忌避ノ申立ハ忌避スヘキ判事ニ之ヲ爲スヘシ

忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ原由ヲ示スヘシ

忌避ノ原由及前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日內ニ書面ヲ以テ之ヲ疏明スヘシ

忌避セラレタル判事ハ第二十八條第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除クノ外忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スヘシ

第二十八條　合議裁判所ノ判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所決定ヲ爲スヘシ

忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ス

第一項ノ裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級裁判所決定ヲ爲スヘシ

豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス

第二十九條　訴訟ヲ遲延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス第二十六條又ハ第二十七條第二項第三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル忌避ノ申立ヲ却下スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ハ忌避ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得

第三十條　忌避ノ申立アリタルトキハ前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　忌避ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　忌避ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　判事忌避セラルヘキ原由アリト思料スルトキハ回避スヘシ

回避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ規定ハ回避ニ付之ヲ準用ス

第三十四條　前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス

第三十五條　本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除クノ外裁判所書記ニ之ヲ準用ス

豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ

決定ハ裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ爲スヘシ但シ第二十九條第二項ノ裁判ハ裁判所書記ノ附屬スル判事之ヲ爲スコトヲ得

第三章　訴訟能力

第三十六條　被告人法人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

數人共同シテ法人ヲ代表スル場合ト雖訴訟行爲ニ付テハ各自之ヲ代表ス

第三十七條　刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用ヰサル罪ニ該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セサルトキハ其ノ法定代理人訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

第三十八條　前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ

特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲ス者アルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

第四章　辯護及輔佐

第三十九條　被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及配偶者竝被告人ノ屬スル家ノ戸主ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第四十條　辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得

第四十一條　辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ

豫審中爲シタル辯護人ノ選任ハ第一審ノ公判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第四十二條　辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四十三條　第三百三十四條又ハ第三百三十五條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ裁判所所在地ニ在ル辯護士又ハ司法官試補ノ中ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十四條　辯護人ハ被告事件公判ニ付セラレタル後裁判所ニ於テ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閲覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

豫審ニ於テハ辯護人ノ立會フコトヲ得ヘキ豫審處分ニ關スル書類及證據物ヲ閲覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

辯護人ハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ證據物ヲ謄寫スルコトヲ得

第四十五條　被告事件公判ニ付セラレタル後ニ於テハ辯護人ト勾留ヲ受ケタル被告人トノ接見及信書ノ往復ヲ禁スルコトヲ得ス

第四十六條　辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及夫竝被告人ノ屬スル家ノ戸主ハ被告事件公判ニ付セラレタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラントスル者ハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

輔佐人ハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ獨立シテ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五章　裁判

第四十八條　判決ハ口頭辯論ニ基キテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲ストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四十九條　裁判ニハ理由ヲ附スヘシ

上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

第五十條　裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第五十二條　檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　被告人其ノ他訴訟關係人ハ其ノ費用ヲ以テ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第六章　書類

第五十四條　訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所書記之ヲ作成スヘシ

第五十五條　訴訟ニ關スル書類ハ公判開廷前ニ於テハ之ヲ公ニスルコトヲ得ス

第五十六條　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述

二　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閲覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者增減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第五十七條　檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作リ之ヲ調書ニ添附スヘシ

第五十八條　前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第五十九條　裁判所書記ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

第六十條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

一　公判ヲ爲シタル裁判所及年月日

二　判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名竝被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名

三　被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨

四　公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五　被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨

六　辯論ノ要旨

七　第五十六條第二項ニ揭クル事項

八　朗讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類

九　被告人ニ示シタル書類及證據物

十　公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收

十一　裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

十二　被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト

十三　判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト

第六十一條　公判調書ニ付テハ第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ增減變更ノ申立アリタルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘシ

第六十二條　公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

第六十三條　公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十四條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第六十五條　辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ速記者ヲシテ公判ニ於ケル被告人又ハ證人ノ供述ヲ筆記セシムルコトヲ得

第六十六條　裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルニトヲ得

第六十七條　裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

第六十八條　裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十九條　裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齡、職業及住居ヲ記載スヘシ裁判ヲ受クル者法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘシ

第七十條　裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第七十一條　官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

第七十二條　官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第七十三條　官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第七十四條　官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代書セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ搨印スヘシ

他人ヲシテ代書セシメタル場合ニ於テハ代書シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第七章　送達

第七十五條　被告人、私訴當事者、代理人、辯護人又ハ輔佐人ハ書類ノ送達ヲ受クル爲書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ裁判所ニ屆出ツヘシ裁判所所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ者ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル屆出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ裁判所ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ適用セス

送達ニ付テハ送達受取人ハ之ヲ本人ト看做シ其ノ住居又ハ事務所ハ之ヲ本人ノ住居ト看做ス

第七十六條　住居、事務所又ハ送達受取人ヲ屆出ツヘキ者其ノ屆出ヲ爲ササルトキハ裁判所書記ハ書類ヲ郵便ニ付シテ其ノ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十七條　檢事ニ對スル送達ハ書類ヲ檢事局ニ送付シテ之ヲ爲スヘシ

第七十八條　被告人ノ住居、事務所及現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得

被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル場合ニ於テ他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條　公示送達ハ裁判所ノ命シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ爲スヘシ

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ裁判所書記召喚狀ヲ裁判所ノ掲示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ掲載シタル日ヨリ三十日、其ノ他ノ公示送達ハ掲示場ニ公示ヲ始メタル日ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第八十條　書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス但シ司法警察官ノ發スル書類ノ送達ニ付テハ裁判所書記ニ屬スル職務ハ司法警察官之ヲ行ヒ執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏之ヲ行フ

第八章　期間

第八十一條　期間ノ計算ニ付テハ時ヲ以テスルモノハ卽時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時效期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス

月及年ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時效期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條　法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里毎ニ一日ヲ加フ其ノ距離又ハ端數二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキハ一日ヲ加フ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ宣告シタル裁判ニ對スル上訴ノ提起期間ニハ之ヲ適用セス

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第九章　被告人ノ召喚、勾引及勾留

第八十三條　裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

第八十四條　被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ヨリ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出頭シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

受訴裁判所ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ニ對シテハ監獄官吏ニ通知シテ之ヲ召喚スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人監獄官吏ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

第八十五條　召喚ニ因リ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問スヘシ

被告人裁判所構內ニ在ルトキハ召喚ヲ爲ササル場合ニ於テモ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十六條　被告人再度ノ召喚ヲ受ケ故ナク出頭セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第八十七條　左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

一　被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

二　被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

三　被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ

五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ前項第一號ノ場合ヲ除クノ外被告人ヲ勾引スルコトヲ得ス但シ前條及第百六條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第八十八條　被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第八十九條　勾引シタル被告人ハ裁判所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間內ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第九十條　第八十七條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引スルコトヲ得ヘキ原由アルトキハ之ヲ勾留スルコトヲ得

被告人ノ勾留ハ第八十五條又ハ前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ被告人逃亡シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

被告人監獄ニ在ルトキハ第一項ノ原由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

第九十一條　被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第九十二條　被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テハ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第九十三條　裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第八十三條乃至第九十一條ニ規定スル處分ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十四條　裁判長ハ被告人ノ現在地ノ豫審判事若ハ區裁判所判事、法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事又ハ司法警察官ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

第九十五條　被告人ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢事長ニ被告人ノ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ記載シタル書面ヲ送付シ其ノ搜査及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管內ノ檢事ヲシテ勾引狀ヲ發シ搜査及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第九十六條　前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リテ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル裁判所ニ送致スヘシ

此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第九十七條　召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命判事之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時、場所及召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

裁判長第九十三條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十八條　前條第一項及第二項ノ規定ハ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第九十九條　召喚狀ハ之ヲ送達ス

第百條　勾引狀又ハ勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ監獄官吏之ヲ執行ス

檢事ノ指揮ニ依リ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テハ之ヲ發シタル官署ハ其ノ原本ヲ檢事ニ送付スヘシ

第百一條　勾引狀ハ數通ヲ作リ之ヲ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

第百二條　司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ勾引狀ノ執行

ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第百三條　勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル裁判所ニ引致スヘシ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付テハ之ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第百四條　勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ其ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第百五條　軍事用ノ廨舍又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廨舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍事用ノ廨舍又ハ艦船ノ外ニ在リテ現ニ勤務ニ從事スル軍人、軍屬又ハ陸軍海軍所屬ノ學生生徒ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第百六條　裁判長ハ必要アルトキハ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ其ノ場所ニ引致シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第百七條　勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第百八條　勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第百九條　勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ之ヲ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢事其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

第百十條　檢事ハ裁判所ノ同意ヲ得テ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

第百十一條　勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ

第百十二條　裁判所ハ罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ヲ圖ル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類其ノ他ノ物ヲ檢閲シ、其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得但シ糧食ハ其ノ授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

裁判所檢閲ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢事之ヲ爲スコトヲ得

第百十三條　勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ一月毎ニ之ヲ更新スルコトヲ得

第百十四條　勾留ノ原由消滅シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第百十五條　勾留セラレタル被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者、被告人ノ屬スル家ノ戸主若ハ辯護人ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第百十六條　保釋ノ請求アリタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

第百十七條　保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ納メシメタル後之ヲ執行スヘシ

檢事ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ納メシムルコトヲ得

檢事ハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地内ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資産ヲ有スル者ノ差出シタル保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得

保證書ニハ保證金額及何時ニテモ其ノ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ

第百十八條　裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ヲ親族其ノ他ノ者ニ責付シ又ハ被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ被告人ノ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召喚ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

第百十九條　被告人逃亡シタルトキ、逃亡スル虞アルトキ、召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキ、罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ又ハ住居ノ制限ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スルコトヲ得

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃亡シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

第百二十條　勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ檢事ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

第百二十一條　上訴提起期間内又ハ上訴中ノ事件ニ付勾留ノ期間ヲ更新シ、勾留ヲ取消シ又ハ保釋ヲ爲シ、責付ヲ爲シ、勾留ノ執行停止ヲ爲シ若ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テ訴訟記錄原裁判所ニ在ルトキハ原裁判所其ノ決定ヲ爲スヘシ

第百二十二條　豫審判事ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第百二十三條　左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢事ハ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

一　被疑者定リタル住居ヲ有セサルトキ

二　現行犯人其ノ場所ニ在ラサルトキ

三　現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ

四　既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ拘禁セラレタル者逃亡シタルトキ

五　死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ

六　被疑者常習トシテ强盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ

第百二十四條　檢事又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ犯人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一　檢事ハ司法警察官吏ニ犯人ノ逮捕ヲ命スヘシ必要アル場合ニ於テハ自ラ之ヲ逮捕スルコトヲ得

二　司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ司法警察吏ニ命スヘシ

三　司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕スヘシ

第百二十五條　現行犯人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得

犯人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘシ

第百二十六條　司法警察吏現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシ

司法警察吏犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ

事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

第百二十七條　司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタルトキハ即時訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ遲クトモ四十八時間内ニ書類及證據物ト共ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第百二十八條　司法警察官吏檢事若ハ司法警察官ノ命令ニ因リ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ司法警察官檢事ノ命令ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス速ニ之ヲ命令シタル檢事又ハ司法警察官ニ引致スヘシ

第百二十九條　檢事現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタルトキハ遲クトモ二十四時間内ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スル場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾留狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ勾留狀ヲ發シ速ニ公訴ヲ提起シ又ハ書類及證據物ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

檢事他ノ檢事ヨリ被疑者ヲ受取リタルトキハ前項ノ手續ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

檢事他ノ檢事ノ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ第一項ノ手續ニ依ラス速ニ之ヲ囑託シタル檢事ニ送致スヘシ

第百三十條　現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器贓物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ、犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯人其ノ場所ニ在リタルモノト看做ス

第百三十一條　第九十七條、第九十八條及第百條乃至第百十條ノ規定ハ第百二十三條及第百二十九條ノ勾引又ハ勾留ニ付之ヲ準用ス

第百三十二條　五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル罪ノ現行犯ニ付テハ犯人ノ住居若ハ氏名分明ナラサル場合又ハ犯人逃亡スル虞アル場合ニ限リ第百二十四條乃至前條ノ規定ヲ適用ス

第十章　被告人訊問

第百三十三條　被告人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキコトヲ確カメルニ足ルヘキ事項ヲ訊問スヘシ

第百三十四條　被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問フヘシ

第百三十五條　被告人ニ對シテハ丁寧深切ヲ旨トシ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第百三十六條　被告人ヲ訊問スルトキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第百三十七條　事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

第百三十八條　被告人撃ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

第百三十九條　本章ノ規定ハ被疑者ヲ訊問スル場合ニ之ヲ準用ス但シ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第十一章　押收及捜索

第百四十條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ沒收スヘキ物ト思料スルモノアルトキハ之ヲ差押フヘシ

裁判所ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第百四十一條　裁判所ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當セサル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ足ルヘキ狀況アルモノニ限リ之ヲ差押ヘ又ハ提出セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ發信人又ハ受信人ニ通知スヘシ但シ通知ニ因リ審理ヲ妨クル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十二條　被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

第百四十三條　裁判所ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ就キ捜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限リ捜索ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ノ捜索ニ付テハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十四條　捜索ニ付テハ祕密ヲ保チ且捜索ヲ受クル者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第百四十五條　捜索ヲ爲シタル場合ニ於テ證據物又ハ沒收スヘキ物ナキトキハ捜索ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ其ノ旨ノ證明書ヲ交付スヘシ

第百四十六條　押收又ハ捜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第百四十七條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十八條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十九條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、産婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲保管又ハ所持スル物ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付差押ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百五十條　裁判所ハ押收スヘキ物又ハ捜索スヘキ場所、身體若ハ物ヲ指定シタル命令狀ヲ發シ司法警察官ヲシテ押收又ハ捜索ヲ爲サシムルコトヲ得

命令狀ニハ押收又ハ捜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第百五十一條　司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ捜索ヲ爲スニ當リ被告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得

第百五十二條　司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押收又ハ捜索ヲ爲シタルトキハ檢事ヲ經由シテ之ニ關スル書類及押收物ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第百五十三條　裁判所押收又ハ捜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假ニ之ヲ押收シテ檢事ニ送付スルコトヲ得

檢事前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナシト思料スルトキ

ハ之ヲ還付スヘシ

第百五十四條　押收又ハ捜索ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ爲スヘキ地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ノ爲ス押收又ハ捜索ニ付テハ裁判所ノ爲ス押收又ハ捜索ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第百四十一條第三項ノ通知ハ裁判所之ヲ爲スヘシ

第百五十五條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ捜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス

猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ調書ニ記載スヘシ

日沒前押收又ハ捜索ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第百五十六條　左ノ場所ニ於テ爲ス押收又ハ捜索ニ付テハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

一　賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所

二　旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ヘキ場所但シ公開シタル時間内ニ限ル

第百五十七條　公務所又ハ軍事用ノ廳舍若ハ艦船ノ内ニ於テ押收又ハ捜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ

前項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ内ニ於テ押收又ハ捜索ヲ爲ストキハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

此等ノ者ヲシテ立會ハシムルコト能ハサルトキハ鄰人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第百五十八條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ捜索ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス

押收又ハ捜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第百五十九條　押收又ハ捜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十條　押收又ハ捜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十一條　押收又ハ捜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得

第百六十二條　押收又ハ捜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第百六十三條　押收ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘシ

第百六十四條　押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

危險ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第百六十五條　沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第百六十六條　押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スヘシ

押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第百六十七條　押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルトキニ限リ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第百六十八條　押收又ハ捜索ヲ爲ストキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第百六十九條　豫審判事ハ押收及捜索ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

第百七十條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ捜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ捜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ第百六十四條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

第百七十一條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニヲモ其ノ場所ニ入リ押收又ハ捜索ヲ爲スコトヲ得

第百七十二條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニヲモ其ノ場所ニ入リ犯人ヲ逮捕スル爲捜索ヲ爲スコトヲ得檢事又ハ司法警察官吏現行犯人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ犯人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ逃入リタルトキ亦同シ

第百七十三條　司法警察官吏勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ入リ捜索ヲ爲スコトヲ得

第百七十四條　第百四十條乃至第百四十九條、第百五十三條、第百五十五條乃至第百五十七條及第百六十一條乃至第百六十七條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外檢事又ハ司法警察官ノ爲ス押收又ハ捜索ニ付之ヲ準用ス

第百四十六條、第百四十七條、第百五十五條乃至第百五十七條及第百六十一條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外司法警察吏ノ爲ス捜索ニ付之ヲ準用ス

第百七十二條ノ捜索ヲ爲ス場合及第百二十三條第三號乃至第六號ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル爲前條ノ捜索ヲ爲ス場合ニ於テハ第百五十七條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

第十二章　檢證

第百七十五條　裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ、

第百七十六條　檢證ニ付テハ身體ノ檢査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ毀壞其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體ノ檢査ハ一定ノ證跡ノ存否ヲ確認スルニ必要ナ

ル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ヲ檢査スル場合ニ於テハ醫師又ハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テハ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知スヘシ

第百七十七條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前檢證ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第百五十六條ニ規定スル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第百七十八條　第百四十七條、第百五十四條、第百五十七條乃至第百六十二條及第百六十八條ノ規定ハ檢證ニ付之ヲ準用ス

第百七十九條　豫審判事ハ檢證ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

第百八十條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急遽ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第百八十一條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ急遽ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ檢證ヲ爲スコトヲ得

第百八十二條　變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事檢視ヲ爲スヘシ

前項ノ處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急遽ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ司法警察官ヲシテ前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十三條　第百四十七條、第百五十七條、第百六十一條、第百六十二條、第百七十六條及第百七十七條ノ規定ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲ス檢證ニ付之ヲ準用ス

第十三章　證人訊問

第百八十四條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第百八十五條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

第百八十六條　左ニ掲クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一　被告人ノ配偶者、四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二　被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三　被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十七條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗教者ハ醫祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十八條　證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事訴追ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

第百八十九條　證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ疏明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ疏明スルコト能ハサル又ハ宣誓ヲ爲ササルトキハ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

第百九十條　召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且出頭セサルニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百九十一條　召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第百九十二條　第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

第百九十三條　第八十八條、第百條乃至第百五條及第百九條ノ規定ハ證人ノ勾引ニ付之ヲ準用ス

第百九十四條　證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名及住居、被告人ノ氏名竝被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所竝出頭セサルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急遽ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十五條　證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘシ

第百九十六條　證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十七條　宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十八條　宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサリシコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第百九十九條　宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前僞證ノ罰ヲ告クヘシ

第二百條　證人ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ

第二百一條　證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

一　十六歲未滿ノ者

二　宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者

三　現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者

四　第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ

五　第百八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者

六　被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス

第一項ニ揭クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百二條　證人ノ供述證人若ハ之ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財產上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百三條　證人ハ各別ニ之ヲ訊問スヘシ

後ニ訊問スヘキ證人在廷スルトキハ退廷ヲ命スヘシ

第二百四條　事實發見ノ爲必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

第二百五條　證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムヘシ

必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第二百六條　證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百七條　第八十五條、第百三十六條及第百三十八條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第二百八條　證人ハ必要アル場合ニ於テハ裁判所外ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百九條　親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員議會ノ閉會中開會地ニ滯在スルトキハ其ノ滯在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第二百十條　證人正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處ス第百八十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百十一條　裁判所ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第二百十二條　裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人ノ現在地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第百九十條及第二百十條ノ決定ハ裁判所亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百十三條　豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第二百十四條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ第百八十四條乃至第二百十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ第百八十四條乃至第二百十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ

命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百十五條　檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二百十六條　司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百十七條　第二百十四條ノ規定ニ依リ證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキトキハ證人ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

第二百十八條　證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四章　鑑定

第二百十九條　裁判所ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第二百二十條　鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第二百二十一條　鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ

鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十二條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ裁判所外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得

被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

第二百二十三條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ身體ヲ檢査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得

第百七十六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十四條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽シ若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得

鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得

第二百二十五條　裁判所ハ部員ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十六條　裁判所ハ鑑定ヲ十分ナラストスルトキハ鑑定人ヲ增加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十七條　檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得

第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十八條　第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十九條　鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十條　裁判所ハ官署又ハ公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得

第二百二十一條乃至第二百二十三條及第二百二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百二十一條第三項ノ規定ニ依ル鑑定書ノ說明ハ官署又ハ公署ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二百三十一條　特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本章ノ規定ニ依ラス第十三章ノ規定ヲ適用

ス

第十五章　通譯

第二百三十二條　國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

第二百三十三條　聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十四條　國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

第二百三十五條　裁判所ハ官署又ハ公署ニ翻譯ヲ囑託スルコトヲ得

第二百三十六條　第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

第十六章　訴訟費用

第二百三十七條　刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ

被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ハ刑ノ言渡ヲ爲ササル場合ト雖被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十八條　共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十九條　告訴又ハ告發ニ因リ公訴ノ提起アリタル事件ニ付被告人無罪又ハ免訴ノ裁判ヲ受ケタル場合ニ於テ告訴人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アルトキハ其ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十條　親告罪ニ付告訴ノ取消アリタル場合ニ於テハ告訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十一條　檢事ニ非サル者上訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ上訴ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ取下ケタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ再審ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十二條　裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲スヘシ此ノ裁判ニ對シテハ本案ノ裁判ニ付上訴アリタルトキニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二百四十三條　裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ニ非サル者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ別ニ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十四條　裁判ニ因ラスシテ訴訟手續終了スル場合ニ於テ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ最終ニ事件ノ繫屬シタル裁判所職權ヲ以テ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十五條　訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ執行ノ指揮ヲ爲スヘキ檢事之ヲ定ム

第二編　第一審

第一章　搜査

第二百四十六條　檢事犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ搜査スヘシ

第二百四十七條　警視總監、地方長官及憲兵司令官ハ各其ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スルニ付地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府知事ハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十八條　左ニ揭クル者ハ檢事ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スヘシ

一　廳府縣ノ警察官

二　憲兵ノ將校、准士官及下士

第二百四十九條　左ニ揭クル者ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察官トシテ搜査ノ補助ヲ爲スヘシ

一　巡査

二　憲兵卒

第二百五十條　前三條ニ規定スル者ノ外勅令ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコトヲ得

第二百五十一條　森林、鐵道其ノ他特別ノ事項ニ付司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百五十二條　第十一條第一項ノ規定ハ檢事及司法警察官吏ノ爲ス搜査ニ付之ヲ準用ス

第二百五十三條　搜査ニ付テハ祕密ヲ保チ被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百五十四條　搜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ强制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

搜査ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十五條　檢事搜査ヲ爲スニ付强制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提起前ト雖押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

第二百五十六條　判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第二百五十七條　第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付十日內ニ公訴ヲ提起セサルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ

第二百五十五條ノ規定ニ依リ押收ヲ爲シタル事件ニ付公訴ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ檢事ハ速ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第二百五十八條　犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百五十九條　祖父母又ハ父母ニ對シテハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二百六十條　被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セス

第二百六十一條　被害者ノ法定代理人被疑者ナルトキ、被疑者ノ配偶者ナルトキ又ハ被疑者ノ四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十二條　死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被害者告訴ヲ爲サスシテ死亡シタルトキ亦前項ニ同シ但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二百六十三條　親告罪ニ付告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

第二百六十四條　刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス再ヒ婚姻ヲ爲シ又ハ離婚ノ訴ヲ取下ケタルトキハ告訴ヲ取消シタルモノト看做ス

第二百六十五條　親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定シタル日ヨリ六月內ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

第二百六十六條　告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ對シ其ノ效力ヲ及ホサス

第二百六十七條　告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

第二百六十八條　親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス

刑法第百八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

第二百六十九條　何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得

官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スヘシ

第二百七十條　第二百五十九條ノ規定ハ告發ニ付之ヲ準用ス

第二百七十一條　告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得告訴ノ取消ニ付亦同シ

第二百七十二條　告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

第二百七十三條　檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付之ヲ準用ス

第二百七十四條　司法警察官告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二百七十五條　第二百七十二條、第二百七十三條及前條ノ規定ハ告訴又ハ告發ノ取消ニ付之ヲ準用ス

第二百七十六條　第二百七十二條、第二百七十三條及第二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

第二百七十七條　犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風說アル場合ニ於テハ特ニ其ノ出所ニ注意シ虛實ヲ探査スヘシ

第二章　公訴

公訴ハ檢事之ヲ行フ

第二百七十八條　犯人ノ性格、年齡及境遇竝犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセサルトキハ公訴ヲ提起セサルコトヲ得

第二百八十條　公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ホサス

第二百八十一條　時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

一　死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三　長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四　長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年

五　長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

六　刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ六月

七　拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第二百八十二條　二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ニ付テハ其ノ重キ刑ニ從ヒ前條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十三條　刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ加重又ハ減輕セサル刑ニ從ヒ第二百八十一條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十四條　時效ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス

共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲ノ終リタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時效ノ期間ヲ起算ス

第二百八十五條　時效ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル爲無效ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時效ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第二百八十六條　時效ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

第二百八十七條　時效ハ第三百五條第一項第二號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百五十二條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第二百八十八條　公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リテ之ヲ爲ス

第二百八十九條　拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ罰金以上ノ刑ニ該ル事件ト同時ニ取調ヲ爲スヘキ場合ニ限リ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第二百九十條　公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

公判開廷中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判ヲ請求スル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九十一條　公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

第二百九十二條　公訴ハ豫審終結決定又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二百九十三條　檢事事件其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共ニ其ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ被疑者ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

第二百九十四條　告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ公訴ヲ取消シ又ハ事件ヲ他ノ裁判所ノ檢事若ハ相當官署ニ送致シタルトキ亦同シ

第三章　豫審

第二百九十五條　豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキカ否ヲ決スル爲必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス

豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦取調ヲ爲スヘシ

第二百九十六條　豫審ニ於テハ取調ノ祕密ヲ保チ被告人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百九十七條　豫審判事豫審中共犯アルコト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第二百九十八條　檢事前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審ヲ請求スヘキモノト思料スルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

豫審判事檢事ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ナキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス被疑者ヲ勾留シタルトキハ釋放ノ決定ヲ爲シ押收シタル物アルトキハ還付ノ決定ヲ爲スヘシ

第二百九十九條　豫審判事ハ豫審處分ニ付其ノ裁判所ノ豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第三百條　豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ

豫審判事ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百一條　豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二條　豫審判事公判ニ於テ召喚シ難シト思料スル證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢事及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百三條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ豫審中何時ニテモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得

檢事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケサル限リ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

第三百四條　豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百五條　豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

一　被告人ノ所在分明ナラサルトキ

二　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

前項ノ決定ハ之ヲ送達セス

第三百六條　豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムヘシ

第三百七條　檢事豫審判事ノ取調十分ナラスト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取調ヲ請求スルコトヲ得

豫審判事檢事ノ請求ニ應シタルトキハ更ニ其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ請求ニ應セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三百八條　檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ

第三百九條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十條　豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十一條　豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十二條　公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ

第三百十三條　被告事件罪ト爲ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十四條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ

二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三　大赦アリタルトキ

四　時效完成シタルトキ

五　法令ニ於テ刑ヲ免除スルトキ

第三百十五條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五　告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六　公訴ノ取消アリタルトキ

七　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

八　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

九　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

第三百十六條　第三百九條及第三百十三條乃至前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十七條　免訴ノ決定確定シタルトキハ左ノ場合ニ限リ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得

一　新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキ

二　決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ決定ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對スル公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ決定ヲ爲シタル豫審判事其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第三百十八條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ豫審判事ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百十九條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付押收物アルトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス但シ必要アル場合ニ於テハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第四章　公判

第一節　公判準備

第三百二十條　裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

第三百二十一條　第一回ノ公判期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セサルコトヲ得

第三百二十二條　裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得

公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第三百二十三條　裁判所ハ第一回ノ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得

訊問ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ之ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十四條　裁判所ハ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前證據物若ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ召喚狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召喚狀ヲ發シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ

檢事、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第三百二十五條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ公判期日前證據物又ハ證據書類ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ得

第三百二十六條　裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十七條　裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

第三百二十八條　裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二節　公判手續

第三百二十九條　公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

第三百三十條　被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス

第三百三十一條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ裁判所ハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第三百三十二條　被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

第三百三十三條　被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得ス

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百三十四條　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷スルコトヲ得ス但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

第三百三十五條　左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スルコトヲ得

一　被告人二十歲未滿又ハ七十歲以上ナルトキ

二　被告人婦女ナルトキ

三　被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

四　被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ

五　其ノ他必要ト認ムルトキ

第三百三十六條　事實ノ認定ハ證據ニ依ル

第三百三十七條　證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

第三百三十八條　被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事又ハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

被告人ハ必要トスル事項ニ付共同被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

第三百三十九條　裁判長ハ證人其ノ他ノ者被告人又ハ或傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中之ヲ退廷セシムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ被告人ヲ退廷セシメタル場合ニ於テ共同被告人、證人其ノ他ノ者ノ供述終リタルトキハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十條　證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

單ニ風說又ハ素行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ス

前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサルトキニ限リ其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十一條　證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十二條　公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百四十三條　被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　供述者死亡シタルトキ

二　疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ

三　訴訟關係人異議ナキトキ

區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第三百四十四條　證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百四十五條　裁判長被告人ニ對シ第百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ

第三百四十六條　區裁判所ニ於テ被告人自白シタルトキハ訴訟關係人異議ナキトキニ限リ他ノ證據ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百四十七條　裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤ問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百四十八條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ裁判長ノ處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ前項ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘシ

第三百四十九條　證據調終リタル後檢事ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第三百五十條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第三百五十一條　裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

檢事及辯護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百五十二條　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、

刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由明白ナル場合ニ於テハ被告人ノ出頭ヲ待タス直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百三十一條ノ規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三百五十三條　開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

第三百五十四條　開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ

但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　公判ノ裁判

第三百五十五條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十六條　地方裁判所ハ其ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス但シ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル區裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第三百五十七條　裁判所ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ被告事件ニ付供述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百五十八條　被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ第三百五十九條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十九條　被告事件ニ付刑ヲ免除スルトキハ判決ヲ以テ其ノ旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十條　有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

第三百六十一條　區裁判所ニ在リテハ上訴ノ申立ナキ場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日内ニ判決書ノ謄本ノ請求ナキ場合ニ於テ判決主文竝罪ト爲ルヘキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

第三百六十二條　被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十三條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ

二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三　大赦アリタルトキ

四　時效完成シタルトキ

第三百六十四條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五　告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

第三百六十五條　左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　公訴ノ取消アリタルトキ

二　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

三　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百六十六條　被告人釋放ヲ肯セス、許可ヲ受ケスシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十八條　辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス

第三百六十九條　有罪ノ判決ヲ告知スル場合ニハ被告人ニ對シ上訴期間及上訴申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ告知スヘシ

第三百七十條　裁判長ハ判決ノ告知ヲ爲シタル後被告人ニ對シ將來ヲ戒ムル爲適當ナル訓諭ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條　無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十二條　押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十三條　押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ

贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ノ請求アリタルトキハ前項ノ例ニ依ル

假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡アリタルモノトス

前三項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第三百七十四條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三編　上訴

第一章　通則

第三百七十六條　上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十七條　檢事又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタルモノハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十八條　被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

第三百七十九條　原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第三百八十條　上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ裁判ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第三百八十一條　上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ進行ス

第三百八十二條　檢事、被告人又ハ第三百七十七條ニ規定スル者ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第三百七十八條ニ規定スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十三條　第三百七十八條ニ規定スル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第三百八十四條　上訴拋棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

上訴取下ノ申立ハ上訴裁判所ニ之ヲ爲スヘシ訴訟記錄ヲ上訴裁判所又ハ上訴裁判所檢事ニ送付スル前上訴ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原裁判所ニ差出スコトヲ得

第三百八十五條　上訴ノ拋棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第三百八十六條　上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ其ノ事件ニ付更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十七條　第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間內ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百八十八條　上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上訴ノ提起期間ニ相當スル期間內ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上訴權回復ノ原由タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ

上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原裁判所ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ

第三百八十九條　原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十條　上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第三百九十一條　監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ上訴ノ提起期間內ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタルトキハ上訴ノ提起期間內ニ上訴ヲ爲シタルモノト看做ス

被告人自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬吏員ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ

監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ原裁判所ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ

第三百九十二條　前條ノ規定ハ監獄ニ在ル被告人上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百九十三條　上訴、上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ

第二章　控訴

第三百九十四條　控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條　控訴ノ提起期間ハ七日トス

第三百九十六條　控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出スヘシ

第三百九十七條　控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ第一審裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十八條　前條ノ場合ヲ除クノ外第一審裁判所ハ訴訟記錄及證據物ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

控訴裁判所ノ檢事ハ訴訟記錄及證據物ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

被告人監獄ニ在ルトキハ第一審裁判所ノ檢事ハ被告人ヲ控訴裁判所所在地ノ監獄ニ移スヘシ

第三百九十九條　控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

第四百條　控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ

第四百一條　控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テ控訴裁判所其ノ事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルトキハ第一審ノ判決ヲ爲スヘシ

第四百二條　第一審裁判所不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第四百三條　被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百四條　被告人出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定ムヘシ被告人正當ノ事由ナクシテ其ノ期日ニ出頭セサルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百五條　控訴裁判所ノ判決ニハ第一審ノ判決ニ示シタル事實及證據ヲ引用スルコトヲ得

第四百六條　第三百六十五條ノ規定ニ該當スル事件ニ付第一審裁判所公訴ヲ棄却セサリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七條　第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第三章　上告

第四百八條　上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百九條　上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十條　左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一　法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

二　職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與シタルトキ

三　判事偏頗ノ虞アリトシテ忌避セラレ其ノ忌避ノ申立理由アリト認メラレタルニ拘ラス審判ニ關與シタルトキ

四　審理ニ關與セサリシ判事判決ニ關與シタルトキ

五　不法ニ管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ

六　不法ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ

七　審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタルトキ

八　別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人出頭スルコトナクシテ審判ヲ爲シタルトキ

九　公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ

十　法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付辯護人出頭スルコトナクシテ審理ヲ爲シタルトキ

十一　不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ

十二　檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ

十三　法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ

十四　公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササリシトキ

十五　公判ニ於テ爲シタル異議ノ申立ニ付決定ヲ爲ササリシトキ

十六　法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セサリシトキ

十七　被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘサリシトキ

十八　審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十九　判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

二十　判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脫シタルトキ

二十一　判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

第四百十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

第四百十二條　刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十三條　再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該ル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十四條　重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十五條　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十六條　左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

二　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トスルトキ

第四百十七條　第一審ノ判決ニ對スル上告ハ控訴ノ申立アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百十八條　上告ノ提起期間ハ五日トス

第四百十九條　上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外原裁判所ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

上告裁判所ノ檢事ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

第四百二十二條　上告裁判所ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ五十日前ニ其ノ期日ヲ上告申立人及對手人ニ通知スヘシ

最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ前項ノ通知ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十三條　上告申立人ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十四條　上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

附帶上告ハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四百二十五條　上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記錄及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス

第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ其ノ證據ヲ差出スヘシ

第四百二十六條　上告裁判所上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

第四百二十七條　上告申立人期間內ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百二十八條　上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

檢事對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ

上告裁判所答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ上告申立人ニ送達スヘシ上告申立人辯護人ヲ選任シタルトキハ其ノ送達ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十九條　裁判長ハ部員ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ檢閱シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

第四百三十條　上告審ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得ス

第四百三十一條　上告審ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百四十四條第一項ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百三十二條　公判期日ニハ受命判事ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ

檢事及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ

第四百三十三條　辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢事ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十四條　上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第二審判決ニ對スル上告事件ニ於テハ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ニ付職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條　上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續並第四百十三條ニ規定スル事由ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百三十六條　第一審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ第四百三十四條第一項及第二項ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十七條　第二審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ先ツ上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反及第四百十五條ニ規定スル事由ニ付調査ヲ爲スヘシ

第四百三十八條　不法ニ管轄若ハ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ受理シ若ハ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキ場合ニ於テハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十九條　事實ノ確定ニ影響ヲ及ホサヽル法令ノ違反又ハ判決アリタル後刑ノ廢止若ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第四百十三條又ハ第四百十四條ニ規定スル事由ニ因ル檢事ノ上告ナキトキハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十條　事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十一條　前三條ノ場合ヲ除クノ外上告裁判所ハ第四百三十七條ノ調査ヲ終ヘタル後第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ヲ調査スヘシ

第四百四十二條　上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ナキコト明白ナリト認ムルトキハ其ノ點ニ付辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百四十三條　上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十四條　上告裁判所事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡シタルトキハ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲スヘシ

公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスル事項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百四十五條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百四十六條　上告理由ナキトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百四十七條　上告理由アルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百四十八條　前條ノ規定ニ依リ原判決ヲ破毀スルトキハ第四百四十九條及第四百五十條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十九條　不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ原裁判所ニ差戻スヘシ

但シ必要アルトキハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第四百五十條　不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送スヘシ

第四百五十一條　被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百五十二條　被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ爲ニ上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百五十三條　判決書ニハ上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ヲ記載スヘシ

第四百五十四條　原裁判所不法ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲サヽリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

第四百五十五條　第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付之ヲ準用シ第四百四十四條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於テハ尙本編第二章ノ規定ヲ準用ス

第四章　抗告

第四百五十六條　抗告ハ特ニ卽時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十七條　裁判所ノ管轄又ハ訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定ニ對シテハ特ニ卽時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ヲ除クノ外抗告ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル決定及鑑定ノ爲ニスル被告人ノ留置ニ關スル決定ニ付之ヲ適用セス

第四百五十八條　抗告ハ卽時抗告ヲ除クノ外何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ原決定ヲ取消スモ實益ナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十九條　卽時抗告ノ提起期間ハ三日トス

第四百六十條　抗告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

原裁判所抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ更正スヘシ抗告ノ全部又ハ一部ヲ理由ナシトスルトキハ申立書ヲ受取リタル日ヨリ三日內ニ意見書ヲ附シテ之ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

第四百六十一條　抗告ハ卽時抗告ヲ除クノ外裁判ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ抗告ノ裁判アルマテ執行ヲ停止スルコトヲ得

抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ裁判ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百六十二條　卽時抗告ノ提起期間內及其ノ申立アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

第四百六十三條　原裁判所必要ト認ムルトキハ訴訟記錄及證據物ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

抗告裁判所ハ訴訟記錄及證據物ノ送付ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十四條　抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百六十五條　抗告裁判所ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ事實ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百六十六條　抗告ノ手續其ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ抗告理由ナキトキハ抗告ヲ棄却スヘシ

抗告理由アルトキハ原決定ヲ取消シ必要アル場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

第四百六十七條　抗告裁判所ノ決定ハ之ヲ原裁判所ニ通知スヘシ

第四百六十八條　第四百六十條、第四百六十三條及前條ノ規定ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付之ヲ準用ス

第四百六十九條　抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ揭クル抗告ニ付テノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

一　公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告

二　控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

三　再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

四　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告

五　裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テノ決定ニ對スル抗告

六　證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受クタル決定ニ對スル抗告

第四百七十條　裁判長、受命判事又ハ豫審判事左ニ揭クル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ不服アル者ハ判事所屬ノ裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

一　忌避ノ申立ヲ却下スル裁判

二　勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル裁判

三　鑑定ノ爲被告人ノ留置ヲ命スル裁判

四　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對シテ過料又ハ費用ノ賠償ヲ命スル裁判

區裁判所判事前項第一號ノ裁判ヲ爲シ又ハ受託判事トシテ前項第二號乃至第四號ノ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ハ其ノ裁判アリタル日ヨリ三日內ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求期間內及其ノ請求アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

第四百七十一條　檢事ノ爲シタル勾留、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

司法警察官ノ爲シタル押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ司法警察官ノ職務執行地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十二條　前二條ニ規定スル請求ヲ爲スニハ請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百七十三條　第四百六十一條、第四百六十三條、第四百六十四條、第四百六十六條及第四百六十七條ノ規定ハ第四百七十條又ハ第四百七十一條ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十四條　第四百七十條及第四百七十一條ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百七十條第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四編　大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

第四百七十五條　裁判所構成法第五十條第二號ニ揭クル大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付テハ檢事總長搜査ヲ爲スヘシ

第四百七十六條　控訴院、地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜査ヲ爲スヘシ

第四百七十七條　第二百四十七條、第二百四十八條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察官ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜査ヲ爲スヘシ

第二百四十九條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察吏ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ搜査ノ補助ヲ爲スヘシ

第四百七十八條　檢事又ハ司法警察官大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ直ニ檢事總長ニ報告スヘシ急速ヲ要スル場合ニ於テハ報告前搜査ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四百七十九條　檢事總長搜査ヲ爲シタル後大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ豫審ヲ請求スヘシ

第四百八十條　檢事總長ハ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ト牽連スル他ノ事件ニ付併セテ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十一條　大審院ハ檢事總長ノ請求ニ因リ前條ノ規定ニ依リ豫審ヲ請求シタル事件ヲ管轄地方裁判所ノ豫審判事ニ移送スルコトヲ得

第四百八十二條　大審院長ヨリ豫審ヲ命セラレタル判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ意見書ヲ添ヘ書類及證據物ヲ大審院ニ送付スヘシ

第四百八十三條　大審院ハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲スヘシ

一　被告事件公判ニ付スヘキモノト認ムルトキハ公判ヲ開始スル決定

二　被告事件下級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ移送スル決定

三　被告事件前二號ノ規定ニ該當セサル場合ニ於テハ第三百十三條乃至第三百十五條ノ規定ニ準シ免訴シ又ハ公訴ヲ棄却スル決定

第四百八十四條　第二編ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付之ヲ準用ス

第五編　再審

第四百八十五條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得

一　原判決ノ憑據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ僞造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二　原判決ノ憑據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ虛僞ナリシコト證明セラレタルトキ

三　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル

四　原判決ノ憑據ト爲リタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五　特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無效ノ審決確定シタルトキ又ハ無效ノ判決アリタルトキ

六　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七　原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第四百八十六條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付刑ノ免除ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　前條第一號、第二號、第四號又ハ第七號ニ規定スル原由アルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ事實ヲ陳述シタルトキ

三　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者刑ノ免除若ハ免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ原由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

第四百八十七條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ控訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二　原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

第一審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ控訴棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十八條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　第四百三十五條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二　原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

第一審又ハ第二審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ